

施工計画書の手引き

平成15年6月

【最終改定 平成27年4月】

香川県土木部

目 次

| | |
|-----------------------------|----|
| 【1】 施工計画書作成にあたっての注意点 | 1 |
| 【2】 対象工事 | 1 |
| 【3】 施工計画の概要 | 1 |
| 【4】 記載要領 | 3 |
| ① 表紙及び目次 | 3 |
| 1. 提出用鏡 | 3 |
| 2. 表紙 | 4 |
| 3. 目次 | 5 |
| ② 施工計画書本文 | 6 |
| 1. 工事概要 | 6 |
| 2. 工事工程表 | 7 |
| 3. 現場組織表 | 9 |
| 4. 安全管理 | 12 |
| 5. 指定機械 | 20 |
| 6. 主要資材 | 21 |
| 7. 施工方法 | 22 |
| (1) 主要機械 | 25 |
| (2) 仮設備計画 | 26 |
| (3) 工事用地等 | 39 |
| 8. 施工管理計画 | 40 |
| 事例1 (道路改良) | 42 |
| 事例2 (舗装) | 51 |
| 事例3 (河川) | 64 |
| 9. 緊急時の体制及び対応 | 70 |
| 10. 交通管理 | 72 |
| 11. 環境対策 | 83 |
| 12. 現場作業環境の整備 | 85 |
| 13. 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法 | 86 |
| (1) 再生資源利用計画 | 86 |
| (2) 再生資源利用促進計画 | 86 |
| 14. 工事数量総括表 | 91 |
| 15. その他 | 95 |
| (1) 構造物標 | 95 |
| (2) 新技術・新工法の活用 | 96 |

施工計画書の手引

【1】施工計画書作成にあたっての注意点

- (1) この「施工計画書の手引き」は、一般的な記述となっているので、請負契約締結後、現地調査のうえ、現場の施工条件に整合した施工計画書を作成すること。
- (2) 施工計画書の中で作成した工事工程表は、香川県工事請負契約約款第3条の工程表として、速やかに提出するものとする。

【2】対象工事

香川県の土木工事共通仕様書又は特記仕様書において、「請負者は、請負代金額が500万円以上の工事にあつては、工事着手前に工事目的物を完成するために必用な手順や工法等についての施工計画書を工事監督員に提出しなければならない。なお、上記以外の工事についても、工事監督員の指示があつた場合には、施工計画書を作成し、工事監督員に提出しなければならない。」となっており、次の事項について記載するものとする。

【3】施工計画書の概要

- | | | |
|----------|---------------|-----------------------------|
| 1. 工事概要 | 6. 主要材料 | 11. 環境対策 |
| 2. 工事工程表 | 7. 施工方法 | 12. 現場作業環境の整備 |
| 3. 現場組織表 | 8. 施工管理計画 | 13. 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法 |
| 4. 安全管理 | 9. 緊急時の体制及び対応 | 14. 工事数量総括表 |
| 5. 指定機械 | 10. 交通管理 | 15. その他 |

施工計画書における留意事項

- (1) 施工計画を立てるためには、まず、工事の契約書、設計図書などを十分に理解するとともに、現場条件を調査しなければならない。
- (2) 施工計画の決定には、これまでの経験も貴重であるが、常に改良を試み、新しい工法、新しい技術の採用に対する心構えが必用である。
- (3) 過去の実績や経験を生かすとともに、理論と新工法を考慮して、現場の施工に合致した大局的な判断が大切である。
- (4) 施工計画の検討は、主任技術者のみにたよることなく、会社の組織を活用して、全社的な高度の技術水準で検討する。

- (5) 施工計画を決定するときは、1つの計画のみでなく、いくつかの代案を作り、経済性も考慮した最も適した計画を採用する。
- (6) 打合せ等において特に指示された事項については、さらに詳細な施工計画書を提出する。
- (7) 施工計画書の内容に重要な変更が生じた場合には、その都度、変更に関連するものについて、変更計画書を提出する。

【4】記載要領

① 表紙及び目次

1. 提出用鏡

平成 年 月 日

施工計画書の提出について

契約担当者 殿

受注者 ○○市○○町○番地○
○○○建設株式会社 印
社 長 ○○ ○○

このことについて、特記仕様書の規定に基づき、別添のとおり提出いたします。

- | | | | |
|---|----------------------|--------|--------------|
| 1 | 工 事 名 | 平成○○年度 | ○○○工事 (第○工区) |
| 2 | 現場代理人 | ○○ ○○ | 印 |
| 3 | 主任技術者 又は 監理技術者 | ○○ ○○ | 印 |

2. 表紙

平成〇〇年度

〇〇〇〇〇工事（第〇〇工区－〇）

施 工 計 画 書

平成〇年〇月〇日

〇〇建設株式会社

現場代理人 〇〇 〇〇 印

- (注) 1. 施工計画書はA4版とする。
2. 土木工事共通仕様書の条項及び特記仕様書に基づき、〇〇工事の施工計画書を受注者の現場代理人から発注者の工事監督員に提出するものとする。

3. 目次

目 次

| | |
|-----------------------------|-------|
| 1. 工事概要 | |
| 2. 工事工程表 | |
| 3. 現場組織表 | |
| 4. 安全管理 | |
| 5. 指定機械 | |
| 6. 主要資材 | |
| 7. 施工方法 | |
| (1) 主要機械 | |
| (2) 仮設備計画 | |
| (3) 工事用地等 | |
| 8. 施工管理計画 | |
| 9. 緊急時の体制及び対応 | |
| 10. 交通管理 | |
| 11. 環境対策 | |
| 12. 現場作業環境の整備 | |
| 13. 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法 | |
| (1) 再生資源利用促進計画 | |
| (2) 再生資源利用計画 | |
| 14. 工事数量総括表 | |
| 15. その他 | |
| (1) 構造物標 | |

2. 工事工程表

工事工程は工事の種別、内容、工期及び現場の実状などによるほか、施工計画の基本方針とともにその大綱が決定されるのが一般的であるが、全工事が工期内に納まるることを前提として、下記の事項が含まれるものと考えられる。

- (a) 工事の各部分作業の施工順序
- (b) 工事の各部分の施工期間
- (c) 全工事期間を通じて忙しさの程度の均等化

以上の条件を満足するためには、施工法の基本方針に基づいて、建設機械の選定、労務者、および資材の供給予定のほか、現場条件、季節などの自然条件、経済性等あらゆる関連する条件を考慮して計画しなければならない。

また、工事の実施課程で計画とのずれが生じた場合や、工事内容の変更（指示含む）があった場合に実施する修正（フォローアップ）は、原則として毎月末に実施するものとするが、内容の重要なものについては適宜行うものとする。

維持工事は、その特性（工事規模、工事内容）から、実績のみで管理する。

【記入例：工事工程表】

(次ページ参照)

工 事 工 程 表 (記 入 例)

工事番号
 工事名 県道〇〇線 道路改築事業 (〇〇工区)
 工 期 自平成 12 年 5 月 15 日 至平成 13 年 2 月 20 日

住所 香川県〇〇郡〇〇町字〇〇
 受注者 氏名 代表取締役社長 香川 太郎 ㊞

| 工種 | 種別 (細別) | 数量 | 単位 | 金額 | 着工日 | 完了日 | 日標準 作業量 | 進捗率 (%) | 5 月 | | 6 月 | | 7 月 | | 8 月 | | 9 月 | | 10 月 | | 11 月 | | 12 月 | | 1 月 | | 2 月 | | 月 | | 月 | | 備考 |
|---------------------------------|------------------|-----|----------------|------------------|-------|------|---------------------|---------------|-----|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|----|------|----|------|----|-----|----|-----|----|----|------------|----|----|----|
| | | | | | | | | | 5 | 10 | 15 | 20 | 10 | 20 | 10 | 20 | 10 | 20 | 10 | 20 | 10 | 20 | 10 | 20 | 10 | 20 | 10 | 20 | 10 | 20 | 10 | 20 | |
| 工 程 計 画 実 績 表 | 準備工 | 1 | 式 | 2,000 | 5/25 | 6/30 | | 2.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 1 | 式 | 2,000 | 5/15 | 6/10 | — | 2.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 仮設工 | 1 | 式 | 8,040 | 7/1 | | | 11.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 1 | 式 | 12,500 | 6/10 | 12/5 | — | 17.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 橋台下部工 | 2 | 基 | 16,450 | 7/25 | | | 22.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2 | 基 | 32,000 | 7/20 | 11/5 | 0.03 | 43.8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 取付護岸工 (ブロック積) | 350 | m ² | 12,200 | 12/5 | 1/31 | 9.2 | 16.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 取付道路工 | 50 | m | 13,210 | 11/5 | 12/25 | 1.5 | 18.1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 後片付け | 1 | 式 | 1,200 | 2/1 | 2/20 | — | 1.6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | | | 26,490 73,110 | | | | 36.2 100.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 特記事項 | | | | | | | 工事 総合 工程 表 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | 予 定 | 2.0% | 8.7% | 16.7% | 29.7% | 42.7% | 55.7% | 71.5% | 89.7% | 98.4% | 100.0% | | | | | | | | | | | 監督員 確認印 | | | |
| | | | | | | | | | 実 績 | 0.5% | 2.0% | 12.0% | 27.0% | 36.2% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

- (注) 1. 工事工程表は原則としてA4版とする。
 2. 工事計画に変更があったときは、施工計画書を変更する。
 3. 大規模工事については、ネットワーク工程表を作成してもよい。
 4. 表中の金額欄については、直接工事費で記入する。
 5. 実績については赤書で記入する。
 6. 中間検査の際には、二段書きすることとし、上段に中間検査時点における実績、下段に計画を記入する。
 7. 遅延工事(15%以上)は特記事項欄にその理由を記載すること。

3. 現場組織表

「現場組織表」の作成目的は、工事の規模、内容により必要な担当者を定め、施工に関する責任の範囲を明らかにするとともに、各責任者間の連携の確保を図ることにある。

また、「施工体系図」（下請負契約がある場合で、特記仕様書により作成が義務づけられている場合）、各技術者などの「資格者表」を併記しなければならない。

組織づくりの基本的要素

(1) 仕事の性格を明らかにし、その分類・統合をする。

目的を達成するためにすべき仕事を明らかにする。次にその仕事を論理的に関連のある職種にバランスよくまとめる。

(2) 職責と権限を明らかにし、その委譲をする。

各人の責任と権限をはっきり知らせる。また管理者はどの仕事を部下に任せるかを決め、効果的に仕事ができるよう各人に仕事の割り当てを行う。

(3) 各職間のルール（規則）を設定する。

組織が協調的となり活気とやる気を起こさせるよう各部門、各職間の関係を定める。

【記入例：現場組織表】

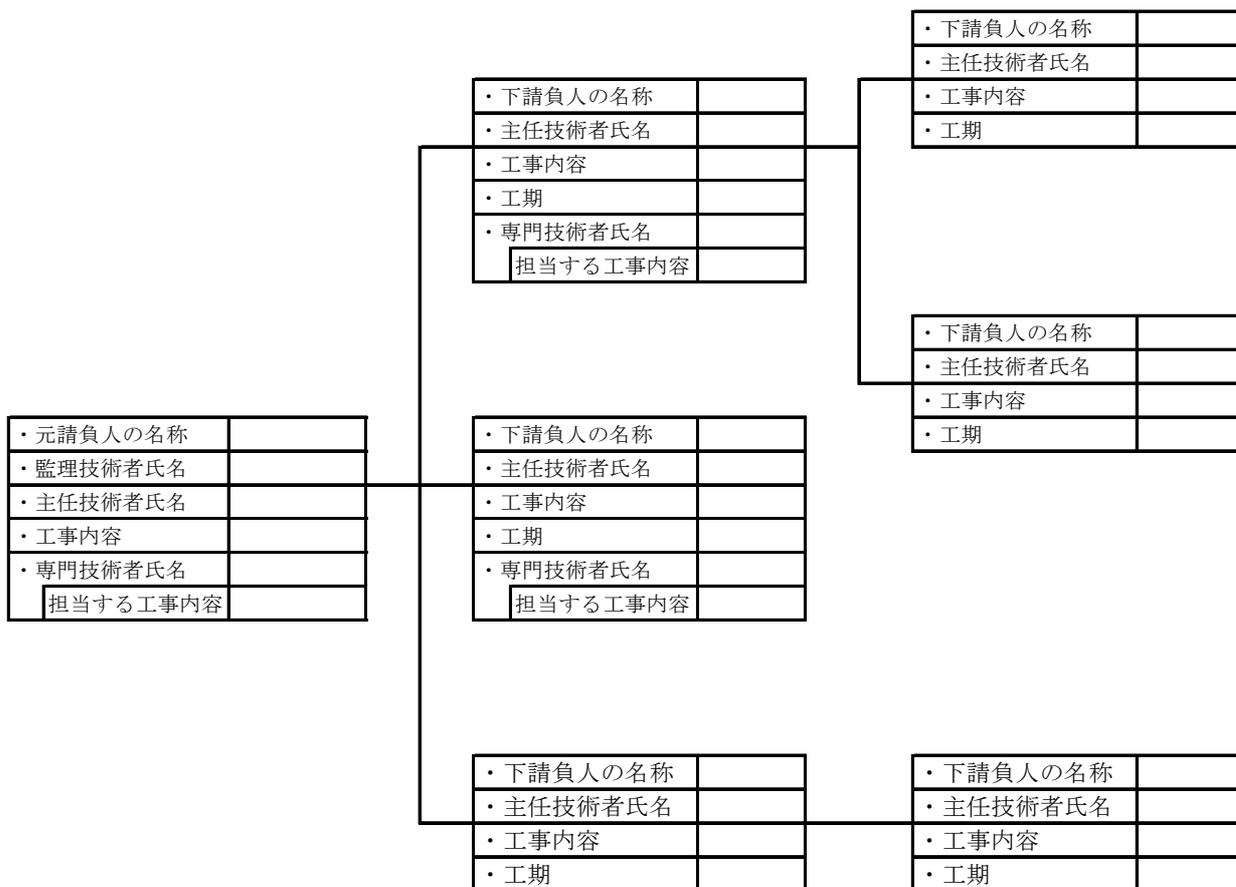
| 現場組織表 | |
|----------------|-------------------------|
| ○現場代理人 (氏名) | 測量係(氏名) |
| 主任技術者 (氏名) | 出来形管理係(氏名) |
| 監理技術者 (氏名) | 品質管理係(氏名) |
| | 工程管理係(氏名) |
| | 資材係(氏名) |
| | 労務係(氏名) |
| | 重機係(氏名) |
| | 安全管理係(氏名) |
| | 事務係(氏名) |
| 緊急時連絡先 | 昼 Tel 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇 (氏名) |
| | 夜 Tel 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇 (氏名) |

- (注)
1. 現場常駐者は○印をつける。
 2. 自主的施工の場合は施工管理技術者を記入のこと。
 3. その他必要な「係」があれば追加する。
 4. 現場事務所に掲載すること。

【記入例：施工体系図】

施工体系図

| | |
|--------|--------------------------------|
| 工事の名称 | 平成〇〇年度 〇〇〇工事（第〇工区-〇） |
| 工 期 | 自 平成 〇年 〇月 〇日 至 平成 〇年 〇月 〇日 |
| 発注者の名称 | 香 川 県 |



(注) 1. 現場事務所に掲載すること。

4. 安全管理

土木工事の量の増加と大型化により、工事事故、工事災害の規模も大きく、多くの生命を失うケースが多い。戦後、労働基準法に基づき、労働安全衛生法の制定をはじめ、労働安全衛生規則が制定され、作業に従事する者の安全の確保について、著しい進歩を示し現在に至っている。

特に、土木工事を実施する事業者に対し、その安全性を確保するための責任と義務が明確化され労働基準監督所の厳重な指導監督の基に工事を実施する原則が確立されている。

土木工事は、着工から竣工までの期間に、段階的作業が進められていくものであるが、作業に従事する者は、一丸となって安全施工についての知識を高めるとともに、きめ細かい管理体制を確立しなければならない。

安全管理計画には、一般的に次の項目を明確にする必要がある。

- 1) 安全管理組織
- 2) 火薬類の取扱い方法と、発破作業における警戒員及び標識の配置
- 3) 危険区域の施設、照明設備の点検整備
- 4) 騒音等防止対策施設の点検整備
- 5) その他

建設工事において安全管理を進めるにあたっては、災害防止の観点から法令が制定されており、法令に基づく行政指導、通達が出されているので注意しなければならない。

- 1) 直接作業に従事する労働者の被害（労働災害）を防止することを目的として制定されている、労働安全衛生法
- 2) 工事現場付近の住民や通行人又は住宅、公共施設等の被害（公衆災害）を防止するための、建設工事公衆災害防止対策要綱。

はその代表的なものである。

その他にも火薬類取締法、各種環境保全対策関係法令、道路交通法、船舶安全法等多くの法令が制定されている。

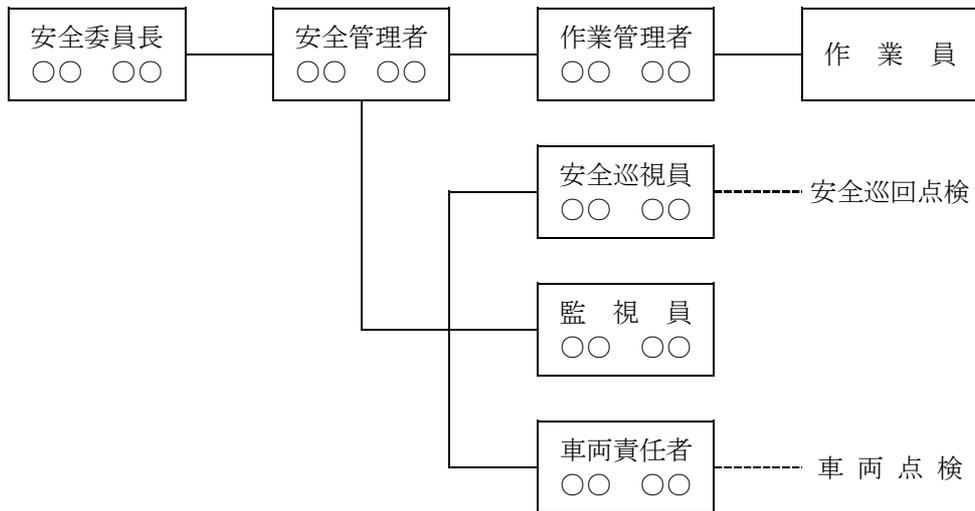
【記入例：安全管理】

安全管理

1. 安全管理組織

現場内での労働災害、交通事故等の発生を未然に防止するため安全委員会を設ける。

・安全委員会系統図



工事期間中は、有能な安全巡視員を配置して毎日巡回を行い、点検表の厳守事項を確認し記録する。

点検責任者は、定期車両点検日を定めて点検事項を記録する。

これらの記録をもとにして毎月月末に関係者全員で、次の事項についての安全の確認を行い、管理の徹底を図る。

1. 機械取扱い責任者の指導（日常整備点検の徹底）
2. 業方法の安全確認と指導
3. 工事区間内の通行も含め、道路交通法の徹底
4. 破壊に際しての安全設備の点検、取付け
5. 工事標識、バリケード、その他保安設備の点検整備
6. 現場内のヘルメットの着用徹底
7. その他、土木工事共通仕様書第 条の趣旨徹底遵守

また、衛生管理についても、衛生管理者を定めて現場事務所の環境衛生に心がける。

1. 衛生用具、緊急用具の点検整備
2. 流し場、便所等の衛生管理
3. 従業員の健康管理

2. 火薬保安管理組織表

| | |
|---------|----|
| 作 業 所 長 | |
| 〇〇 | 〇〇 |

| | |
|------------|-------|
| 消 費 場 所 | |
| 取扱保安責任者（正） | 〇〇 〇〇 |
| ” （代理） | 〇〇 〇〇 |
| ” （副） | 〇〇 〇〇 |

| | |
|-------|-------|
| 取 扱 所 | |
| 出納責任者 | 〇〇 〇〇 |
| 取扱責任者 | 〇〇 〇〇 |
| 運 搬 員 | 〇〇 〇〇 |

| | |
|-------|-------|
| 火 工 所 | |
| 出納責任者 | 〇〇 〇〇 |
| 火工責任者 | 〇〇 〇〇 |
| 作 業 員 | 〇〇 〇〇 |
| 見 張 員 | 〇〇 〇〇 |

| | |
|---------|-------|
| 切 羽 | |
| 発破作業指揮者 | 〇〇 〇〇 |
| 発破作業記録者 | 〇〇 〇〇 |
| 発 破 技 師 | 〇〇 〇〇 |
| 運 搬 者 | 〇〇 〇〇 |

火薬類の取扱い方法と警戒員及び標識の設置

①発破作業内規

- 1) 一般的事項
- 2) 服装
- 3) 職務

- ・ 火薬類消費責任者
- ・ 発破指揮者
- ・ 点火者
- ・ 穿孔装薬者
- ・ 見張り人
- ・ 発破記録者

- 4) 発破合図

②危険区域の掲示方法

③防火管理体制

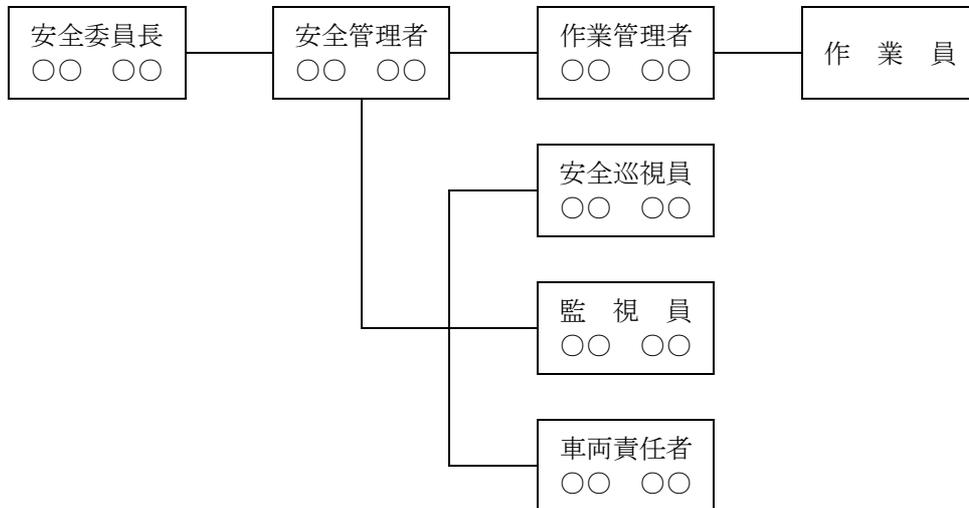
等について詳細に記載すること。

危険区域の施設、騒音等防止対策施設の点検整備については省略。

・安全管理(事例)

1) 安全管理組織

現場内での労働災害・交通災害等の発生を未然に防止するため、次の組織を設ける。



2) 安全巡視員

工事期間中は、有能な安全監視員を配置し安全に関する巡視点検・進路調整等の工事区域全般に対して連絡を行い安全確保に努める。

安全巡視員は、作業終了後に現場内を見回り、記録する。

3) 目標点検

毎月の作業内容に応じた重点目標を定めて、それを守るように努める。

なお、作業員の保護帽着用は安全管理の基本であるため、毎月就業時に確認し励行させる。

4) 第三者の事故防止

工事区間の下流側は、民家密集地のため特に、第三者及び一般通行車両には注意して作業を行う。

5) 安全教育等

本工事の施工に際して、現場に必要な安全・訓練等を作業員全員参加によって、月当たり半日以上で次の項目から選択して行い報告する。

- i 安全活動のVD等視覚資料による安全教育。
- ii 当該工事内容等の周知徹底
- iii 土木工事安全施工技術指針等の周知徹底
- iv 当該工事における災害対策訓練
- v 当該工事現場で予想される事故対策
- vi その他、安全・訓練等として必要な事項

(例1)

| 年 月 | 重点実施項目 | 具体的実施項目 |
|------|--------------|------------------|
| 12/9 | 労働安全衛生教育の徹底 | 新規入場者教育の実施 |
| 10 | 安全衛生教育・訓練の実施 | 職長教育の推進・KY活動の強化 |
| 11 | 現場の安全管理活動の強化 | 安全施工サイクル運動の実践 |
| 12 | 職場環境の整備 | 労働時間の短縮と快適な職場の形成 |
| 13/1 | 安全衛生活動の実施 | 定期健康診断の実施 |
| 2 | 労働安全準備月間 | 災害事例・改善事例の収集と周知 |
| 3 | 作業環境の整備 | 工事完成に向かい整理整頓片付け |

(例2)

| 月 | 活動内容 | 資料 | 備考 |
|-----------|---------------------------------|---|------------------------------|
| H.12 5 | 1. 工事内容・施工手順の周知 2. 予想される事故対策 | 1. 施工計画書 2. ビデオ「新規入場の皆さんへ」 | |
| 6 | 1. 工事現場周辺の危害防止 2. 玉掛作業 | 1. 土木工事安全施工技術指針 2. ビデオ「災害事例から学ぶ玉掛作業の基本ルール」 | 全国安全週間 準備期間 |
| 7 | 1. 異常気象時の対策 2. 危険予知訓練 | 1. 土木工事安全施工技術指針 2. ビデオ「建設現場のKY活動」 | 全国安全週間 7/1～7/7 |
| 8 | 1. 過積載防止 2. 災害事例 | 1. 過積載根絶のために 2. ビデオ「職場安全の基礎知識災害原因を追放しよう」 | 電気使用安全月間 |
| 9 | 1. 労働安全衛生法 2. 交通事故防止 | 1. ビデオ「労働安全衛生法とは」 2. 建設工事・事故防止対策指針 | 全国労働衛生週間 準備期間 全国交通安全運動 |
| 10 | 1. 車両系建設機械安全運転の心得及び合図・誘導の要領 | 1. 車両系建設機械運転者教本 2. ビデオ「車両系建設機械の安全作業」 | 全国労働衛生週間 10/1～10/7 |
| 11 | 1. 通事故防止 2. 消火訓練 | 1. 施工計画書 2. 建設工事・交通事故防止対策指針 | 秋の全国火災予防運動 |
| 12 | 1. 建設公害 2. 近隣対策 | 1. 建設業における統括管理の手引 | 年末・年始労働災害防止強調期間 |
| H.13 1 | 1. 反省会 2. 次現場への提言 | 1. ビデオ「繰り返すな災害」 2. 前回までの記録 | 同上 |

6) JR土讃線の近接保安

本工事は、JR土讃線に近接しているため、列車の通行状況を把握し、工事現場の防護設備・要注意箇所の施工方法、見張り員の配置等を検討し、必要に応じて具体化する等常時列車に注意しながら施工する。

(参考)

受注者における主な安全管理対策

| | 名 称 | 内 容 | 備 考 |
|---|-----------|---|--|
| 1 | 安全管理組織 | 安全管理の徹底と万一災害や事故が発生した場合、ただちに対応できるように責任分担を明確にし、それぞれの責任範囲において任務を達成できる社内組織を整備する。 | 安全管理者は資格を要する。 |
| 2 | 事故防止対策協議会 | 別 途 | |
| 3 | 安全管理の対策 | 安全管理は、①工事全体に対する手順と②細部にわたる工種ごとの手順に大別される。 ①においては、諸関係法令、許認可条件、設計図書、事前調査等を把握して、各管理基準及び標準作業の決定が必要である。 ②においては、作業手順の伝達、施工上の注意、安全教育訓練等を実施することが必要である。 これらの手順に従い、適時現場の点検を行い、不安全な状態、不安全な行動の発見とその是正を行い災害防止に努める。 | (不安全な状態) 起因物が事故に関係するに至ったことについて、現存し、または介在した客観的な不安全な要素をいう。 (不安全な行動) 事故をもたらすこととなった作業員自身の行動について不安全な要素をいう。 |
| 4 | 安全教育 | 安全教育は事故防止に大きな役割を果たすものであり、関係者が立場、持ち場で安全管理を組織しておくことが必要である。 ① 作業員教育 i 作業員打ち合わせ 当日の工事作業内容の伝達、確認 安全に対する注意事項 特殊作業に従事する者、オペレータ等への注意確認 柔軟体操 作業員の健康状態、服装、保護具等の点検 ii ツールボックスミーティングの実施 当日の作業内容と作業手順 当日の作業のうち、特に危険な作業、場所を教示 各作業の安全な進め方 同種作業の災害事例の研究 iii 安全衛生教育 雇用時 作業内容変更時 一定の危険有害業務に就労時 新任の職長、監督者が就任したとき ② 社内教育 i 経営者自ら安全管理の重要性について認識 ii 安全管理責任者の選任と責任の明確化 iii 下請作業員の請負範囲（責任範囲）の明確化 iv 作業指揮者の能力のレベルアップを図る v 安全管理会議の励行 全体工程・作業行程実態の把握 危険予知（不安全な状態、不安全な行動） 対策の決定、実施、確認 各種許可条件の確認 事故発生時の対応（連絡体制、二次災害防止、応急資器材の確保点検） 資材の確認（表3-21参照） 点検項目の確認 安全パトロールの実施 | |

(参考)

有資格作業主任者を必要とする主な作業内容

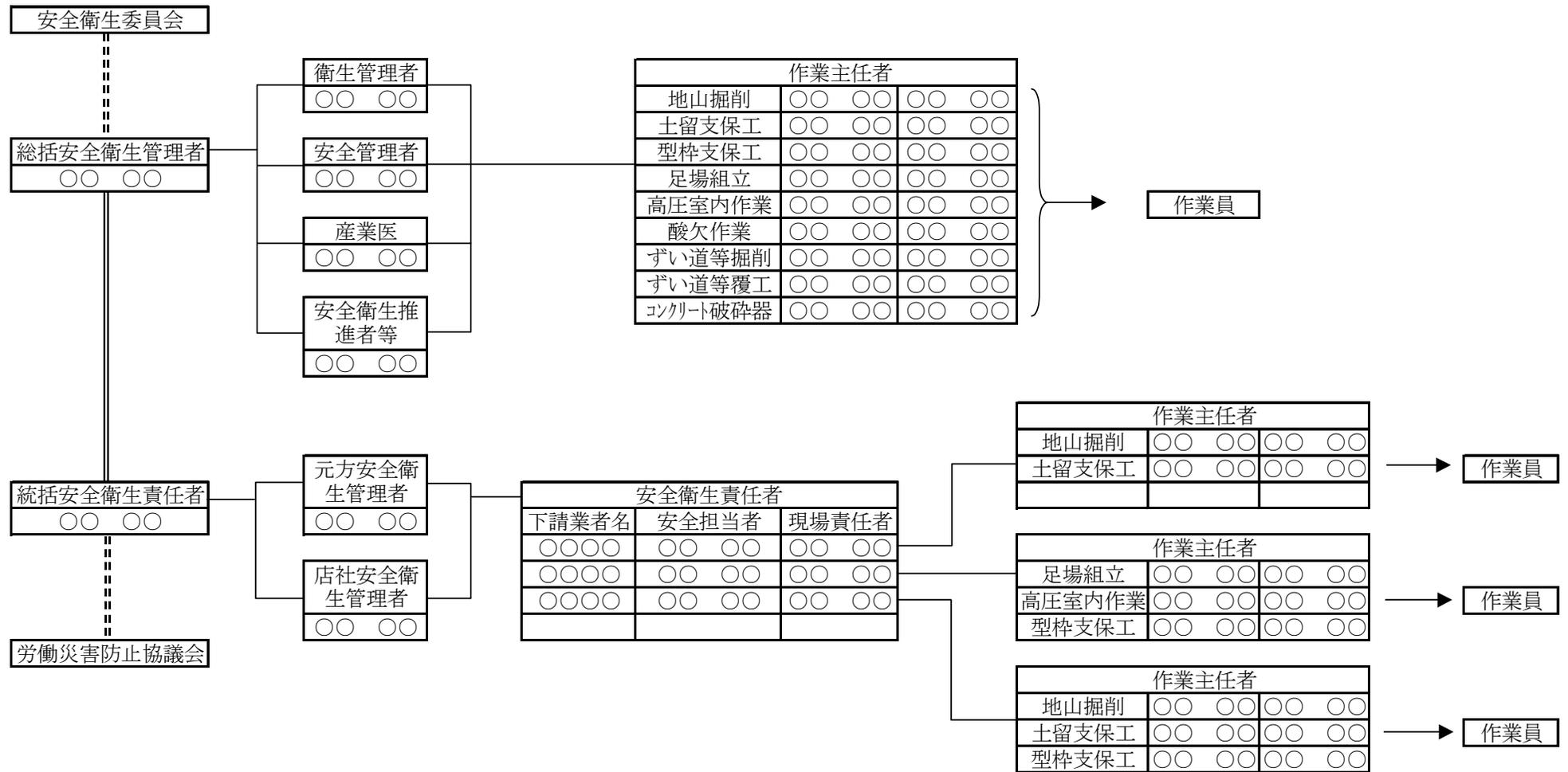
| 選任すべき作業内容 | 作業主任者名 | 選任を受ける資格を有する者 |
|------------------------------|----------------------|-----------------------------|
| 高压室内作業 | 高压室内作業主任者 | 高压室内作業主任者免許取得者 |
| アセチレン装置、ガス集合装置によるガス圧接作業 | ガス圧接作業主任者 | ガス圧接作業主任者免許取得者 |
| コンクリート破砕器作業 | コンクリート破砕器作業主任者 | コンクリート破砕器作業主任者技能講習会修了者 |
| 地山掘削作業 (掘削面高 2 m以上) | 地山の掘削作業主任者 | 地山の掘削作業主任者技能講習修了者 |
| 土留支保工作業 | 土留支保工作業主任者 | 土留支保工作業主任者技能講習修了者 |
| ずい道等の掘削等の作業 | ずい道等の掘削等作業主任者 | ずい道等の掘削等作業主任者技能講習修了者 |
| ずい道等の覆工の作業 | ずい道等の覆工作業主任者 | ずい道等の覆工作業主任者技能講習修了者 |
| コンクリート造工作物の破壊等の作業 (5 m以上工作物) | コンクリート造の工作物の解体等作業主任者 | コンクリート造の工作物の解体等作業主任者技能講習終了者 |
| 型わく支保組立解体作業 | 型わく支保工の組立等作業主任者 | 型わく支保工の組立等作業主任者技能講習修了者 |
| 足場の組立解体作業 | 足場の組立等作業主任者 | 足場の組立等作業主任者技能講習会終了者 |
| 酸素欠乏危険作業 | 酸素欠乏危険作業主任者 | 酸素欠乏危険作業主任者技能講習会修了者 |
| 鉄骨の組立等作業 | 鉄骨の組立等作業主任者 | 鉄骨の組立等作業主任者技能講習修了者 |

(参考)

資格を要する主な作業

| | |
|---|--|
| 1. クレーン・デリック、移動式クレーン 2. 玉掛 3. 車両系建設機械 4. 基礎工事用機械 5. 車両系締め固め機械 6. 車両系荷役運搬機械 7. 建設用リフト巻上げ機 8. ゴンドラ 9. 電気取扱い 10. 軌道装置 11. 火薬・発破 12. 防火管理 13. アーク溶接 | 14. 有機溶剤作業 15. 粉じん作業 16. 木造建築 17. はい作業 18. その他 |
|---|--|

(参考) 現場安全衛生管理体制



注) 本体制図は、事業場の規模等に応じて適宜修正して作成すること。

(参考) 現場の施工計画作成時の危険性の特定及び対策検討記録 (作成例)

| 会社名 ○ ○ ○ ○ | | 工事名 ○ ○ ○ 下水管渠築造工事 | | | 作成者 | |
|---------------------|--|--------------------|-----|-----|--|--|
| 検討事項 | 危険性・有害性 | 可能性 | 重大性 | 危険度 | 対 策 | |
| 1、工事特性 | | | | | | |
| ・構築物の用途 | ・下水管の埋設工事 | | | | | |
| ・構造 | ・簡易矢板土止め工法で掘削してから矢板を打ち込むので土砂が崩壊する。 | 3 | 3 | 5 | ・建込み簡易土止め工法に設計変更する。 | |
| ・規模 形状 高さ 深さ | ・掘削幅700mm、掘削最小深さ1600mm、掘削最大深さ2500mm | | | | | |
| ・外装、内装 | ・埋設用ヒューム管内径300mmでバックホーで吊りこむ | 2 | 2 | 3 | ・ドラグショベルはクレーン仕様の物を使用する。 | |
| ・工程 施工時期 | ・5月～7月末の工事で梅雨の時期の施工のため、湧水が多く土砂が崩壊する。 | 2 | 3 | 4 | ・降雨時は作業を中止する。 | |
| 2、現地の状況 | | | | | | |
| ・土質、湧水、 | ・栗石が多く、湧水が多いので掘削箇所が崩壊する。 | 3 | 3 | 5 | ・縦ばりプレート方式建込み簡易土止め工法にて一定の深さまで溝を掘削して縦ばりプレートを圧入する。 | |
| | ・水中ポンプに砂が入り移動する際感電する。 | 1 | 3 | 3 | ・アースの接地と漏電遮断機を必ず設置する。 | |
| ・敷地状況、道路、近隣 | ・掘削箇所の近くに給水管があり、砂で埋設しているため崩壊する。 | 3 | 3 | 5 | ・縦ばりプレート方式建込み簡易土止め工法を採用する。 | |
| | ・道路が狭くクレーン車が入れないためバックホーで用途外使用にて吊り荷作業を行う。 | 3 | 2 | 4 | ・クレーン仕様のドラグショベルを使用する。 | |
| 3、発注者、監理者、近隣 | | | | | | |
| ・発注者、監理者の指示 | ・毎日作業終了時には埋め戻しをする。 | 2 | 1 | 2 | | |
| ・近隣要望事項 | ・小学校の通学路となっており、学童に危害を与えるので、施工を9:00～16:00の間に施工する。 | 2 | 2 | 3 | ・通学時間帯は作業を行わず、安全通路を確保する。 | |
| 4、社内指示 | | | | | | |
| ・会社安全計画、社長指示 | ・作業主任者不在のまま作業し土止め支保工の組立解体の手順を間違える。 | 2 | 3 | 4 | ・作業主任者不在になる時は代理者を置く。 | |
| ・類似災害情報 | ・建込み簡易パネルをバックホーで吊って旋回中に接触して怪我をさせる。 | 2 | 2 | 3 | ・吊り荷がふれないように介錯ロープを使用する。 | |
| | ・敷き鉄板を移動中吊具が外れて足を骨折させる。 | 2 | 3 | 4 | ・吊具にはクランプを使用せずシャックル等で確実に吊フックに掛ける。 | |
| 5、その他 | | | | | | |
| ・自社体制、下請体制 | ・掘削作業を下請けに出しているため混在作業となる。 | 2 | 2 | 3 | ・掘削作業者とヒューム管設置作業者の打ち合わせを密にする。 | |
| ・機械、作業設備、工法 | ・バックホーを掘削と吊り荷に使用し、用途外作業になる。 | 3 | 2 | 4 | ・クレーン仕様のドラグショベルを使用する。 | |

*可能性・重大性:大=3 中=2 小=1で表示 危険度:3・3=5 3・2/2・3=4 3・1/2・2/1・3=3 2・1/1・2=2 1・1=1 対策:危険度の高いもの等を優先し作成する
 評価・危険度の表現は自社の表現方法にて実施されれば良い

5. 指定機械

工事に使用する機械で、設計図書に指定されている機械（騒音振動、排出ガス規制等）について、記載されているものについて使用計画書を作成する。

【例】

| 機 械 名 | 規 格 | 台 数 | 使 用 工 種 | 備 考 |
|-------|-----|-----|---------|-----|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

6. 主要資材

工事の請負契約締結後、すみやかに必要な材料の数量について算出し、それぞれ必要とする時期を考慮したうえで、最終的な決定がなされなくてはならない。材料の入手は工事の施工に重要な要素を占めており、材料の現地への到着が遅れたがゆえに工事の施工ができないなどの問題がしばしばある。

特に材料のうちでも鋼材、特殊製品に関しては、社会情勢との関係もあり、時期によっては数ヶ月の日数を必要とする場合もあるので注意しなければならない。

品質・規格については、定められた試験等により、その適否を判定することがたいせつであり、もし、不適格な材料で加工された場合は、加工された製品そのものが不適格品ということになるので、十分な配慮が必用である。

加工品については、その製品メーカーが、工業規格に定められた品質管理により製品化されているものを使用することを配慮する必要がある。

【記入例：主要工事材料】

| 主要材料 | 形状寸法 | 単位 | 数量 | 納入業者 | 製造業者 | H ○ 年 | | | | | | H○年 | | 摘要 | |
|--------------|--------------------|----------------|------|------|------|-------|---|---|---|---|----|-----|----|----|-----|
| | | | | | | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | | 1 |
| コンクリート | 18-8-40 | m ³ | 853 | 〇〇〇〇 | 〇〇〇〇 | | | | | | | | | | |
| 〃 | 21-8-20 | 〃 | 36 | 〇〇〇〇 | | | | | | | | | | | |
| 砕石 | 再生砕石 径40mm | 〃 | 233 | 〇〇〇〇 | | | | | | | | | | | |
| ヒューム管 | D400 1種 | m | 26 | 〇〇〇〇 | 〇〇〇〇 | | | | | | | | | | |
| 蓋版 | C2-B400 σ ck=24 | 枚 | 21 | 〇〇〇〇 | | | | | | | | | | | |
| ベンチ フリューム | 400×260 ×1000 | m | 91 | 〇〇〇〇 | | | | | | | | | | | |
| 鉄筋 | S D295A or B | t | 3.79 | 〇〇〇〇 | 〇〇〇〇 | | | | | | | | | | |
| ガード パイプ | メッキ品 H=0.8m | m | 72 | 〇〇〇〇 | 〇〇〇〇 | | | | | | | | | | |
| 〃 | 〃 H=1.1m | 〃 | 94 | 〇〇〇〇 | 〇〇〇〇 | | | | | | | | | | |
| ガードレール | 塗装品 Gr-C-4E | 〃 | 176 | 〇〇〇〇 | 〇〇〇〇 | | | | | | | | | | 県外品 |
| ストーン ガード | H=2.0m | 〃 | 149 | 〇〇〇〇 | 〇〇〇〇 | | | | | | | | | | 県外品 |

(注) 1. 主要工事材料とは特記仕様書等で材料検査の定められている材料である。

(1 工事 1 材料の占める総額が概算で 10 万円を超える、主たる材料について記載する。)

2. 工事請負契約約款第 13 条の 2 に規定する県産品以外の工事材料を使用する場合は、摘要欄に“県外品”と記載し、別途理由書を提出する。

7. 施工方法

施工方法の決定は、前述した工事現場の十分な事前調査により得た資料に基づき、契約条件を満足させるための工法の選定、請負者自身の適正な利潤の確保につながるものでなければならない。

工法の選定に基づき、施工に関する細部の問題が解決されるものであり、多角的に検討を加えて、最終的に決定されなければならない。

一般的に、工事は設計書及び関係諸法規を遵守し、施工しなくてはならないのは当然のことである。

また、工法の選定の良否は、工事施工過程において発生する問題や労務、資機材への影響となって現れてくることから、施工計画はできるだけ細部について配慮するよう心がけることが必要である。

施工方法記載にあたっての留意事項

- 1) 「主要な工種」ごとの作業フローの作成
該当工種における作業フロー及び各作業段階における以下の事項について記載する。
- 2) 施工実施上の留意事項及び施工方法
 - 工事箇所の作業環境（周辺の土地利用状況、自然環境、近接状況等）
 - 主要な工種の施工実施時期（降雨時期、出水・濁水時期等）
 - 工事施工上の制約条件（施工時期、作業時間、交通規制、自然保護）
 - 関係機関との調整事項上記事項の記載のほか、これらを受けて、施工実施上の留意事項及び施工方法の要点について記述する。
- 3) 使用機械
工事に使用する機械で、設計図書に指定されている機械（騒音振動、排出ガス規制等）について記載されているものについて使用計画書を作成する。
- 4) 仮設備計画
工事に関する仮設備の構造、配置計画について位置図、概略図等を用いた具体的に記載する。また、安全を確認する方法として、応力計算等を添付する。
その他、間接的設備として仮設建物、材料、機械等の仮置き場、プラント等の機械設備、運搬路、仮排水、安全管理に関する仮設備を記載する。

記載対象は、次の場合を標準とする。

- 1) 「主要な工種」
- 2) 共通仕様書の中で「通常の方法により難しい場合は、あらかじめ施工計画書にその理由、施工方法等を記載しなければならない。」と規定しているもの。
- 3) 設計図書で指定された工法。
- 4) 共通仕様書に記載されていない特殊工法。
- 5) 施工条件明示項目で、その対応が必要とされている事項。
- 6) 特殊な立地条件での施工や関係機関及び第三者対応が必要な施工等。
- 7) その他

その他、共通仕様書において、工事監督員の「承諾」を得て施工するもののうち、事前に記載できるもの、施工計画書に記載することとなっている事項について記載する。

【例】 承諾を要する事項及び予定内容

| 共通仕様書条項 | | | | | | 節、条、項の 名 称 | 承諾を要する事項 | 予定している承諾内容 |
|---------|---|---|----|---|---|---------------|----------------|------------------|
| 編 | 章 | 節 | 条 | 項 | 号 | | | |
| 1 | 1 | 1 | 20 | 1 | | 建設副産物 | 発生土を任意仮設工に使用する | 発生土の〇〇m3を△△に使用する |
| 1 | 1 | 1 | 31 | 4 | | 工事中の安全確保 | 指定された機械以外の使用 | 〇〇を△△としたい |
| | | | | | | | | |

【例】 施工計画書に記載する事項

| 共通仕様書条項 | | | | | | 節、条、項の 名 称 | 記載を要する事項 |
|---------|---|---|---|---|---|---------------|-------------------------------|
| 編 | 章 | 節 | 条 | 項 | 号 | | |
| 6 | 4 | 3 | 1 | 2 | | 一般事項 | 原寸、工作及び溶接に関する定められた事項について記載する。 |
| | | | | | | | |

【留意点】

- ① 指定仮設又は重要な仮設工に関するもの、また、応力計算等によって安全を確認できるものは、計算の記述がなされていること。
- ② 作業フローの記述及び留意事項や施工方法の要点。
- ③ 工事測量、隣接工区との関連についての記述。
- ④ 共通仕様書において承諾を要する事項及び施工計画書に記載すべき事項と指定された事項についての記載。
 - I) 監督員詰所、現場事務所、倉庫等の仮設建物
 - II) 材料、機械等の仮置き場
 - III) 工事施工上、必要なプラント等の機械設備

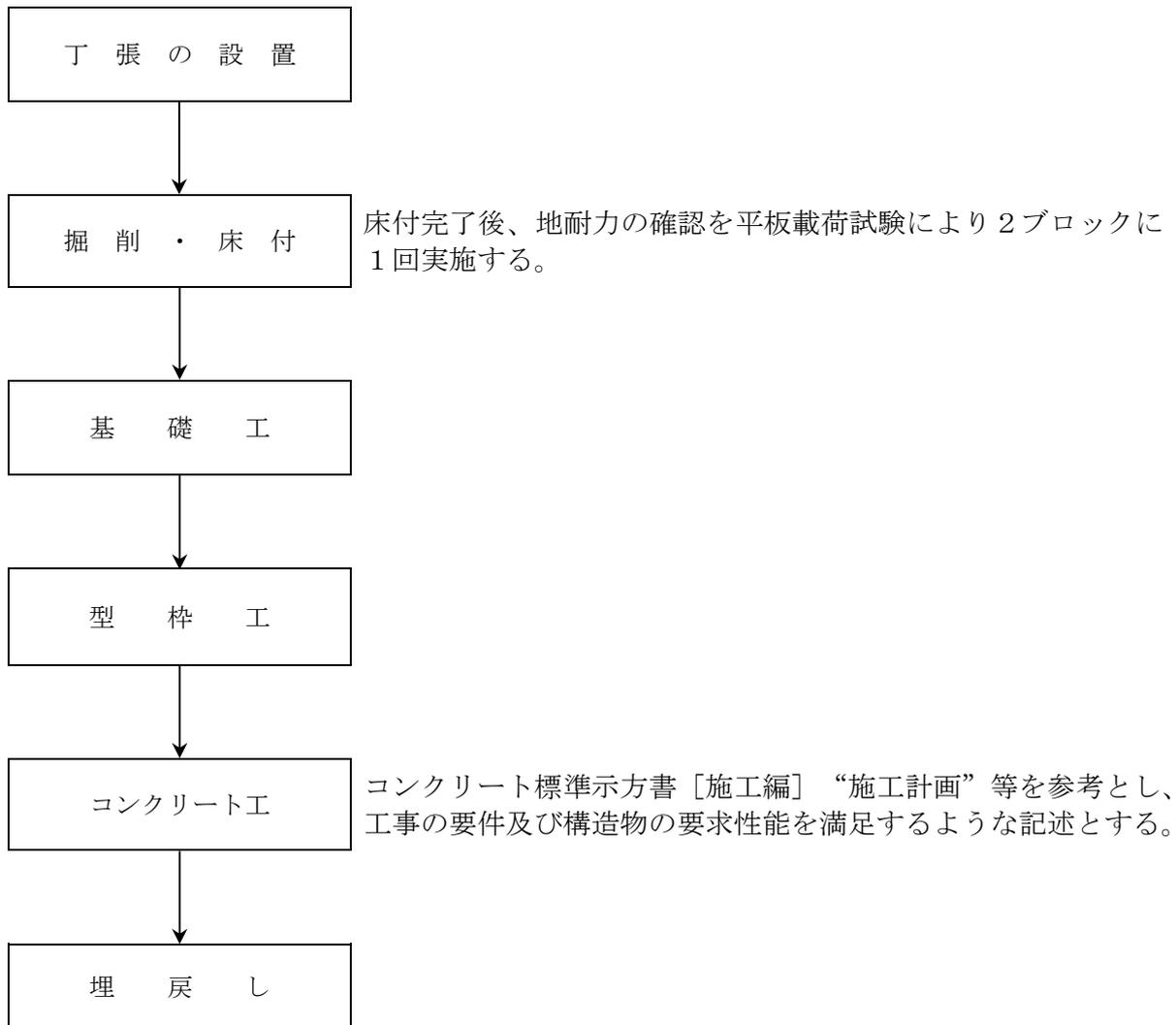
IV) 運搬路（仮道路、仮橋、現道補修等）

V) 仮排水

VI) 工事現場標示施設、安全看板、立ち入り防止柵、安全管理に関する仮設備

VII) その他

【例】作業フロー



更に

- ・ 施工実施上の留意事項及び施工方法
- ・ 使用機械
- ・ 仮設備の構造、配置計画等について位置図、概略図等を用い具体的に記述
- ・ 応力計算

について記述する。

7-(1) 主要機械

使用する建設機械は、工事規模、施工方法、現場条件等により機種が選定され、その性能は工程表に基づき決定されるのが一般的である。

請負者は、決定に際しての条件として、自己保有の建設機械を念頭におき、工法、工程表の計画立案が行なわれる。保有機械の中から選定ができない場合は、他より借り入れ（リース）による場合が一般的である。機械の損料は非常に高額であるので、稼働率については特別の配慮が必用で、使用する機種性能はその工事量に対するバランスを十分考える必要がある。

機種を選定にあたっては、共通仕様書、特記仕様書に記載されている事項を守ることはもちろん、積極的に低公害型の機種を選定するよう努力すること。

また、現場への輸送についても検討が必用であり、搬入経路の道路状況、輸送車の通行時間、手続き関係を確認し、実施日程にむだを生じないための努力が必用である。運搬に要する費用の見積りも行い、費用が高む場合には遠方から自社の機械を運搬するのではなく、現地での借上げ等も配慮する必要がある。

機種によっては、現場条件により適不適が著しく左右される場合があり、特に土工関係については、土質によって施工性が異なり機種を選定がむずかしいので、土質試験の結果等により慎重な対応が必要である。

【記入例：主要機械】

| 機械名 | 型式 | 単位 | 数量 | 使用目的 | H ○ 年 | | | | | | | | | | | | 摘要 |
|-------------------|-------------------------|----|----|--------------|-------|---|---|---|---|----|----|----|---|---|--|--|----|
| | | | | | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | | | |
| バックホ | m ³ ○○～○○ | 台 | 3 | 掘削、床堀、埋戻 | | ■ | ■ | | | ■ | ■ | ■ | | | | | |
| ブルドーザ | t ○○ | 〃 | 1 | 盛土、敷均し | | ■ | ■ | | | | ■ | ■ | ■ | | | | |
| トラクター ショベル | m ³ ○○ | 〃 | 1 | 残土積込 | | ■ | ■ | | | | ■ | ■ | ■ | | | | |
| タイヤローラ | t ○○～○○ | 〃 | 1 | 盛土舗装 | | | | | | | | ■ | ■ | ■ | | | |
| アスファルト フィニッシャー | m ○○～○○ | 〃 | 1 | コンクリート 標固 | | | | | | | | | | | | | ■ |
| 三点式 クローラ杭打機 | k w ○○ | 〃 | 1 | 鋼管杭打 | | | | ■ | ■ | ■ | | | | | | | |
| モルタルパ ンプ | k w ○○ | 〃 | 1 | 〃 | | | | ■ | ■ | ■ | | | | | | | |
| クローラクレーン | t 吊 ○○ | 〃 | 1 | 〃 | | | | ■ | ■ | ■ | | | | | | | |
| ハイブロンマー | k w ○○ | 〃 | 1 | 鋼矢板打換 | | | | | | ■ | | | ■ | | | | |

7-(2) 仮設備計画

仮設備計画は、工事を実施するために必要な本工事に直接かかわりをもつものと、工事の実施についての付属的設備に大別できる。そのいずれについても、工事を安全にかつ円滑に実施するための設備であり、その計画に関しては適切かつ経済的でなくてはならない。

これらの設備は、単に工事に対する安全性のみにとどまらず、第三者に対する安全性の確保に関しても十分な配慮が要求される場所であり、作業員に対する安全等をはじめとして、工事施工場所の労働基準監督署長にその設備計画の提出を義務付けされている。

また作業員の宿舎に関しては、その衛生環境の確保について規定が定められており、作業員の工事現場における健康で明るい環境の確立について十分な配慮と努力が要求されている。

これらの設備計画立案に関しては、それぞれの適用される諸法規が多く、そのすべてが合法的でなければならないことはいままでもないが、本工事の施工に対することのみにとられることなく、常に移り変わる性質を有するものであるため、常時その状態についての配慮が必要である。

本工事の実施に関する仮設物については、その発注者より指定される場合と、そうでなく請負者の責任により計画実施する場合の2種類がある。

1) 指定仮設

指定仮設とは、発注者の必要によりその構造及び形状寸法、品質に関して指定を受け、施工するものをいう。

この場合発注者は、設計図及び仕様書にその条件を明示し、その条件を前提とした請負契約が締結された場合をいうもので、示された形状寸法、品質に関して、規格を満足することが義務付けされるものである。したがって、品質の管理と出来形の管理は、本工事同様に実施しなくてはならない。

2) 任意仮設

任意仮設とは、請負者が任意にその計画立案を行い実施されるもので、そのすべての責任は請負者が有するものである。

この場合は指定仮設と異なり、設計図の提示はなく、特記仕様書に条件等を明示しないため請負契約にあたっては、仮設に関する経費の積算に関しても、自ら構造及び形状、寸法、品質に関して定め、それにより積算されるのが建前とされている。

したがってその実施について、工事の増減に関しても契約変更の対象とならないもので、また反面その使用する資材及び機械に関しても自己の保有する資材の転用等、十分に活用することが許されているものである。

仮設備計画の管理、確認

任意仮設の場合 計画書に記載した事項及び変更事項に対し、実施証明として施工状況写真を撮っておく。

指定仮設の場合 指定条件を計画書に記載、または、仮設図を作成し構造物条件（形状寸法、品質、数量）が満足しているか、仮設図（展開図）及び写真にて確認する。

仮設備計画

1) 付替道、支道、坂道

施工方法、施工順序は擁壁工と同じであるが、施工前に地権者及び道路管理者と十分に打ち合わせを行い施工する。

2) 舗装

イ) 路盤

粒調碎石（C-40）を使用し、締固めはマカダムローラー、タイヤローラーを使用する。

プライムコート（PK-3）は、エンジンスプレーヤーを使用し、壁等の構造物を汚さないよう所定の量を均一に散布したのち養生砂を散布する。

ロ) 基層、表層

敷均しはフィニッシャーで行う。

締固めは、振動ローラーで締固める。

3) 迂回路

保安施設を設置し、第3者災害が起こらないよう十分注意して行う。

また、迂回路計画及びそれに伴う仮設備計画を添付する。

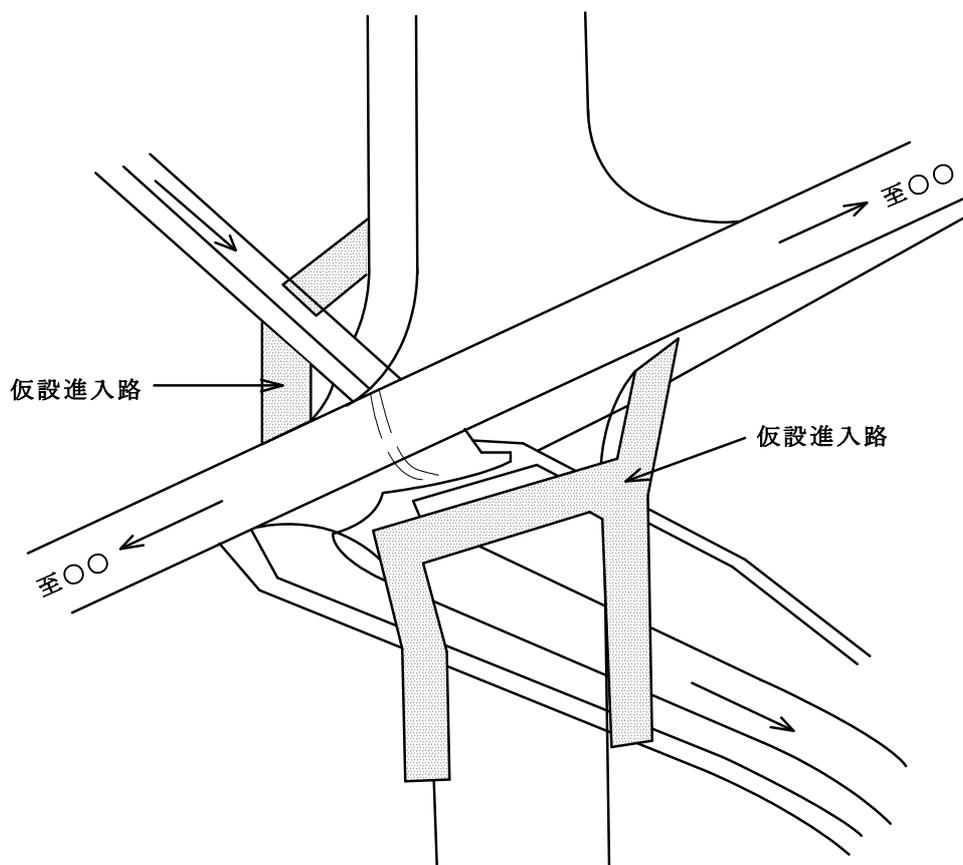


図-1 仮設備計画

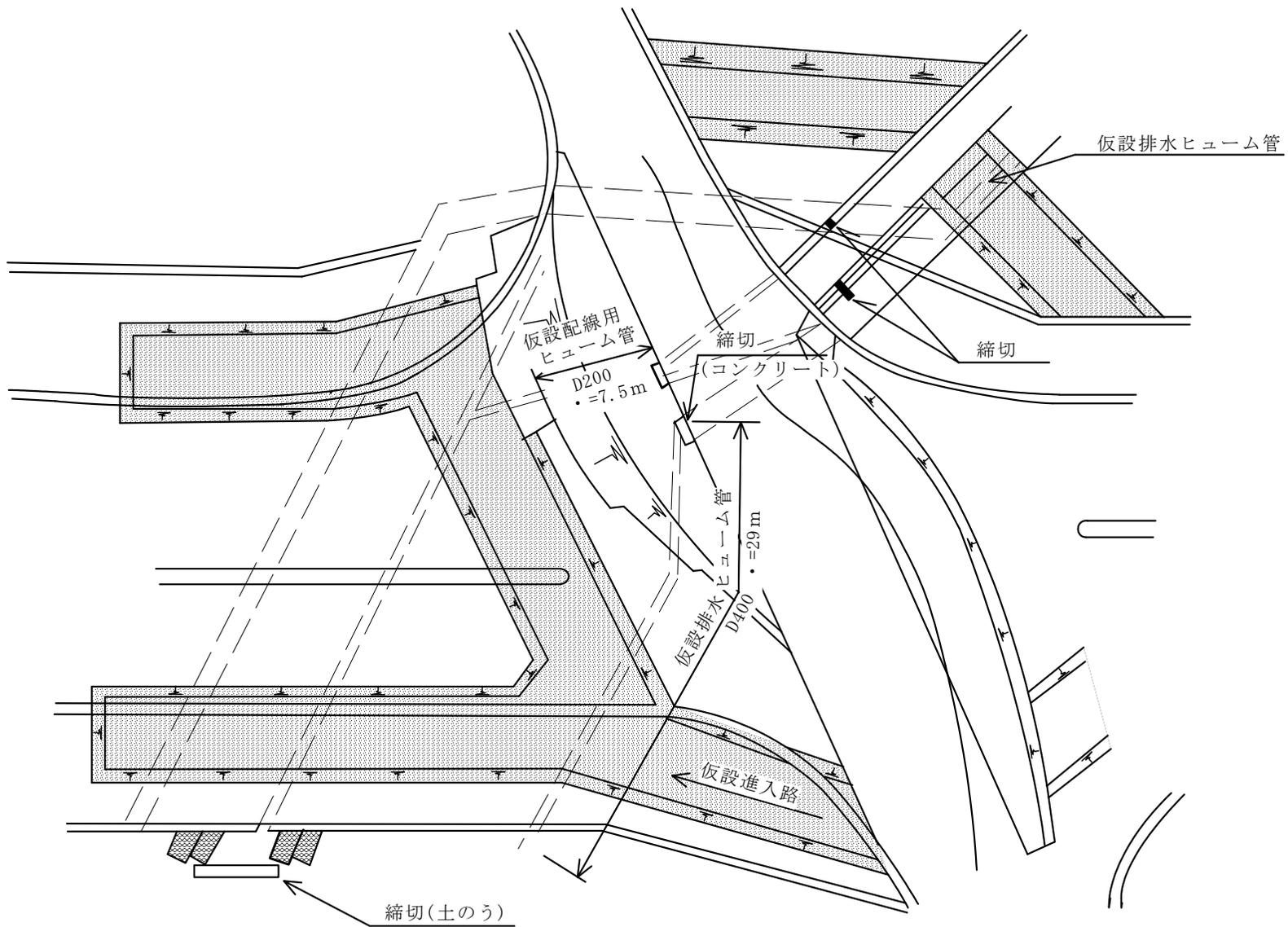


図-2 仮設備計画

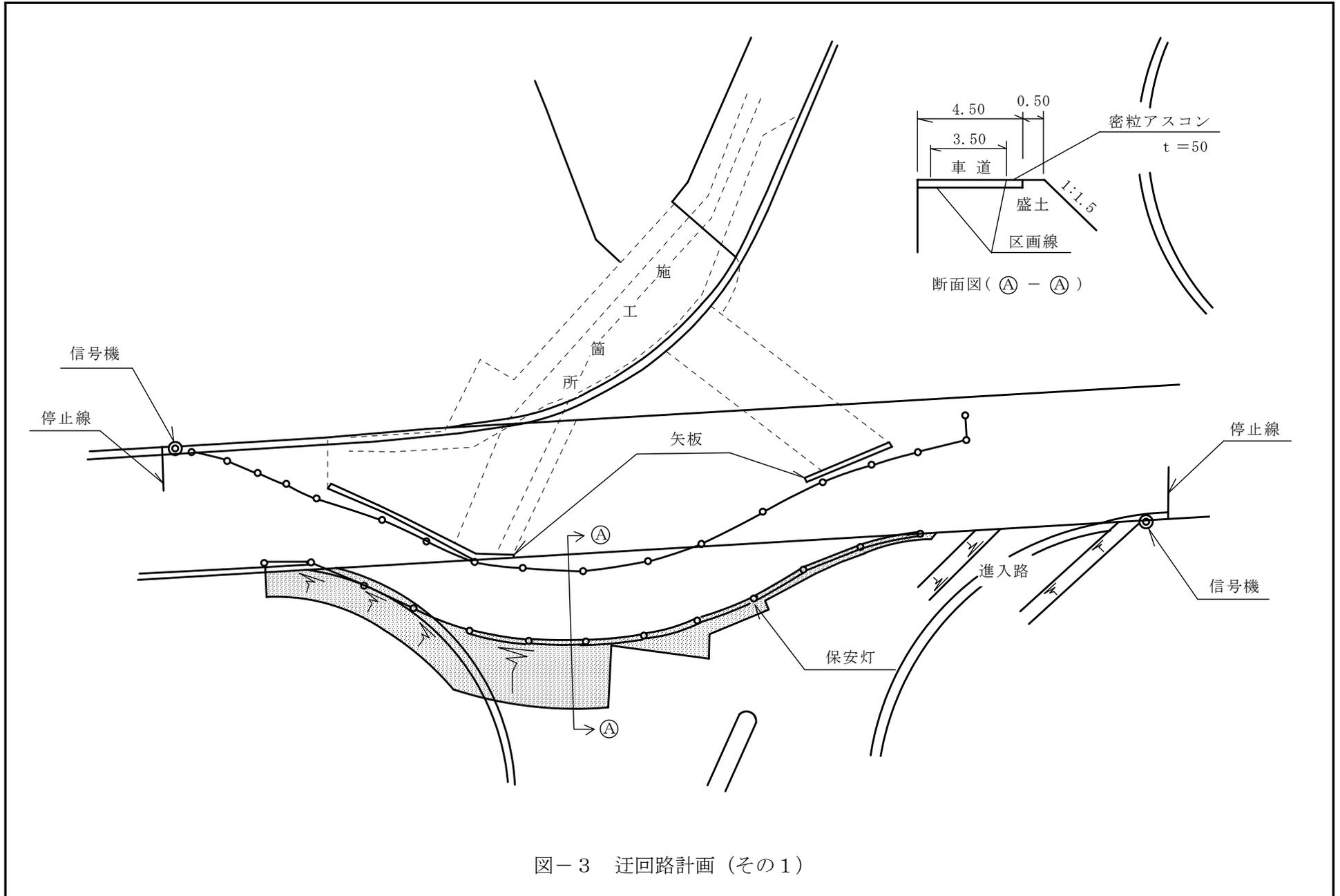


図-3 迂回路計画 (その1)

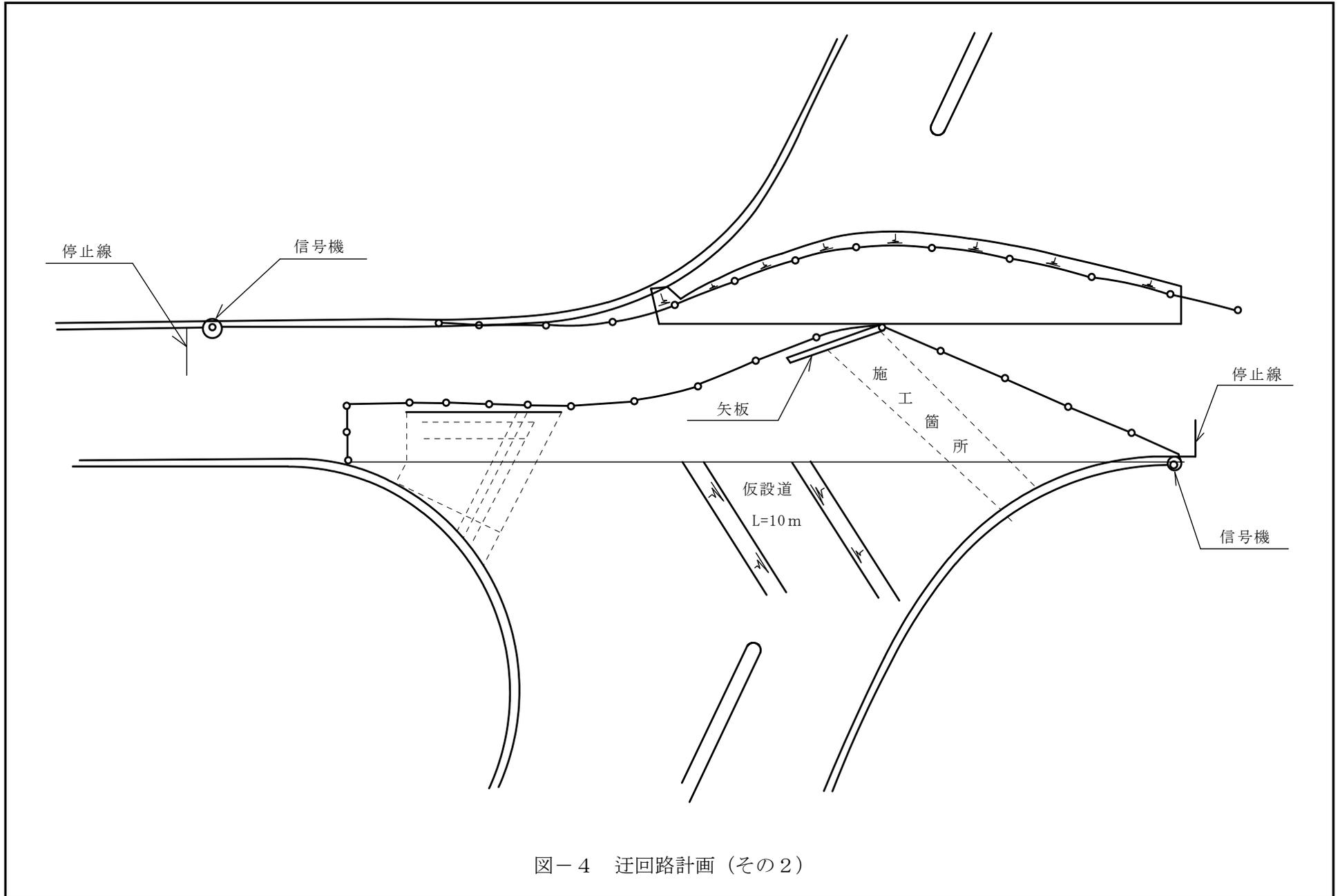
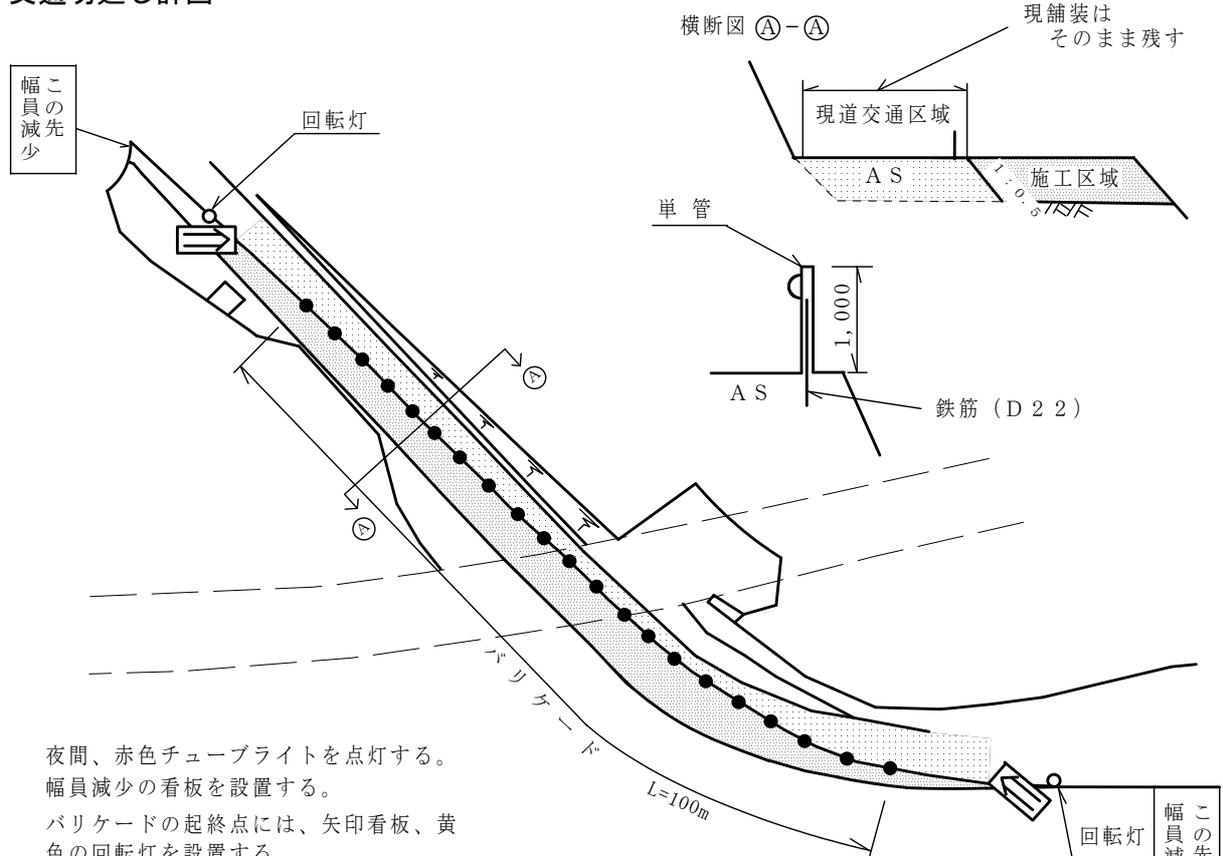


図-4 迂回路計画 (その2)

交通切廻し計画



夜間、赤色チューブライトを点灯する。
幅員減少の看板を設置する。
バリケードの起終点には、矢印看板、黄色の回転灯を設置する。

- 現道交通切替に際し、「幅員減少」「この先車線変更」の看板を設置する。
- 擁壁天端にはガードレールを施工し、ガードレールのない箇所は単管バリケードを設置する。
- バリケードには赤色チューブライトを点灯して車を誘導する。

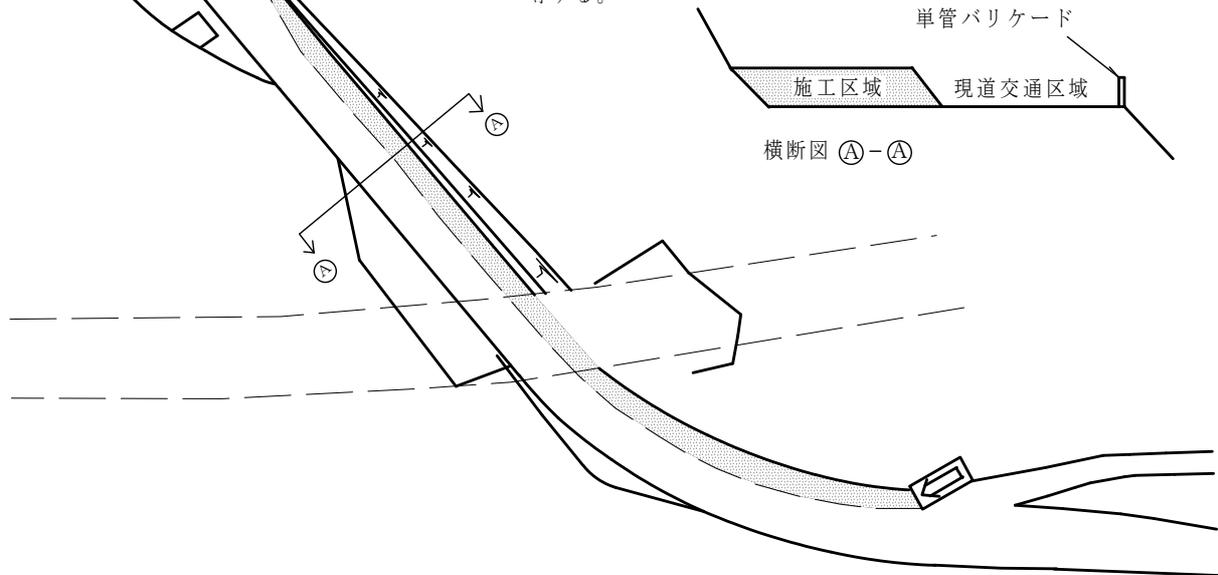


図-5 現道交通切替及び夜間の安全施設計画 (〇〇/〇〇~〇〇/〇〇)

4) 仮設防護

イ) 仮設防護柵の施工は、仮センター移設及び右側通路と側溝との段差摺りつけ仮舗装完了後着手する。(なお、仮舗装は工事完了後撤去する)

ロ) 防護柵設置

H鋼建て込み箇所の舗装版をコンクリートカッターにて切断(500×500 ctc2,000)し、ブレイカーにて取壊し、人力及び大型ブレイカーにて床掘し、完了後、300×300 H=700の箱抜き型枠を組み立て、外部のコンクリート $\sigma 28=18\text{N/mm}^2$ を打設硬化後H鋼を通り良く垂直にトラッククレーンにて建て込み切りばりや丸太にて補強をしておき、箱抜き内部のすき間に砂を詰め、天端にコンクリート ($\sigma 28\geq 18\text{N/mm}^2$)を500×500 H=100打設する。養生後、腹起こしH鋼(100×100)を下図の位置に溶接止めし、松板(40×200) H=2,000で上下を帯鉄(3×50)を当てボルトナットで腹起こしH鋼に固定、続いてストーンガード用金網及び養生シートを張り完了する。

ハ) 防護柵撤去

シート、金網、松板、腹起こしを撤去した後、天端コンクリートを10cm厚取壊しH鋼をトラッククレーンで引き抜き撤去した後、中詰砂を取り出し箱抜き内部にコンクリート ($\sigma 28\geq 18\text{N/mm}^2$)を300×300 H=700 打設し、硬化後アスファルト合材にて舗装復旧して完了する。

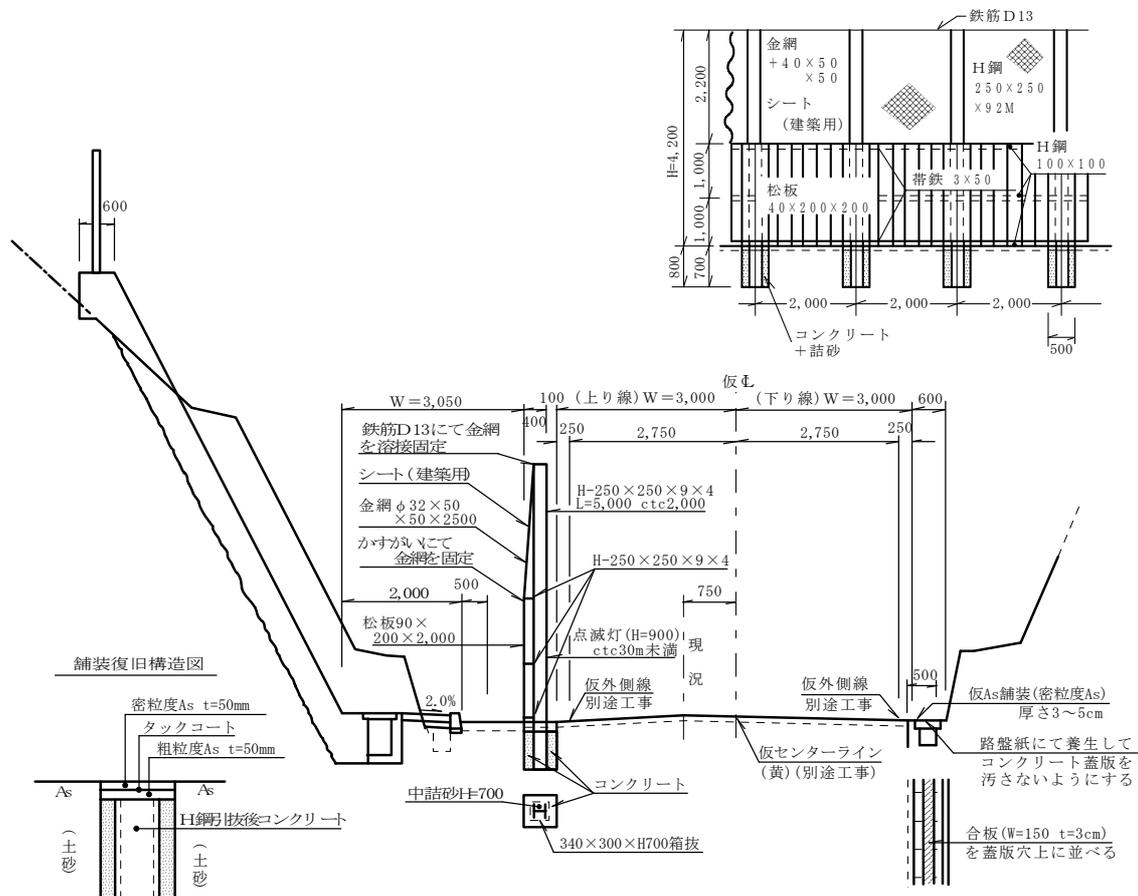


図-6 仮設防護

・ 仮設備計画(事例 1)

本工事における仮設備として下記に示す諸設備を設ける。

- (1) 仮栈橋計画
- (2) 仮締切計画
- (3) 仮設ヤード使用計画
- (4) 仮設電気配線計画
- (5) 仮建物計画

(1) 仮栈橋計画

本工事における橋脚のうち、P10 橋脚は、〇〇川流水部に位置し、河床高はTP-0.550 mである。

このため、P10 橋脚築島と河川敷との連絡は、仮栈橋を設けて行う。

仮栈橋の規格を「仮栈橋規格表」に示す。

仮 栈 橋 規 格 表

| | 幅 員 | 桁 下 高 さ | 備 考 |
|---------|--------|-----------|----------------|
| 通 路 部 | 4.00 m | TP+2.70 m | l = 54.0 m |
| 作 業 台 部 | 6.00 m | 〃 | l = 24.0 m × 2 |

仮栈橋の構造を「仮栈橋構造図」に示す。

仮栈橋の架設及び撤去は、クローラクレーン(〇〇 t 吊)、バイブロハンマー(〇〇KW級)及び、発電機(〇〇〇KVA)を使用して陸上施工にて行う。

仮栈橋基礎杭打抜時には、シルトプロテクターを用いて当該施工箇所を囲って、河川の汚濁防止に努める。

仮栈橋の撤去は、P10 橋脚完成後直ちに行う。

仮栈橋の応力計算を、「仮栈橋応力計算書」に示す。

築島材料採取前及び、採取後の河川測量を実施する。

(2) 仮締切計画

本工事におけるP10 橋脚は、〇〇川流水部に位置し、河床高は、TP-0.550mである。このため、P10 橋脚施工は、仮締切用鋼矢板を用いた築島によるものとする。

P10 橋脚施工に用いる仮締切用鋼矢板規格を「仮締切鋼矢板規格表」に示す。

仮 締 切 鋼 矢 板 規 格 表

| 築 島 天 端 | 矢 板 規 格 | 備 考 |
|-----------|---------|--------------|
| TP+2.70 m | IV 型 | 盛土材料は、河床材を採取 |

築島仮締切鋼矢板の打ち込みは、仮栈橋架設に引き続き行う。

築島の施工にあたっては、鋼矢板（〇〇－Ⅳ型、 $l=9.0\text{m}$ ）を使用する。

築島鋼矢板の打ち込みは、仮栈橋通路部及び、作業台部を使用して行う。

築島部鋼矢板打ち込み終了後、仮栈橋を使用して築島内部への中詰を行う。

栈橋の架設完了後、築島の施工に着手する。

築島の施工にあたっては、鋼矢板（〇〇－Ⅳ型、 $l=9.0\text{m}$ ）を使用する。

築島仮締切鋼矢板の打ち抜きは、クローラクレーン（〇〇 t 吊級）、パイプロハンマー（〇〇KW級）及び発電機（〇〇〇KVA）を使用する。

築島仮締切鋼矢板の打ち込み後の築島中詰土の施工は、採取河床土を使用して行う。

築島仮締切鋼矢板の引き抜きは、P 1 0 橋脚施工終了後、中詰土の撤去後行う。

築島仮締切鋼矢板の架設・撤去時には、シルトプロテクターを用い、河川の汚濁防止に努める。

（3）仮設ヤード計画

本工事における仮設ヤードの使用計画を「仮設ヤード計画図」に示す。

仮設ヤードには、型枠加工場、型枠置場、鉄筋置場、鉄筋加工場及び、井筒沈下掘削土仮置場等を設ける。

原則として、本工事施工に使用する材料については、仮設ヤードを置場として使用する。

洪水時期には、常に河川の出水・降水状況に留意し、出水前に河川敷より材料等を撤去する。

（4）仮設電気計画

仮設電気を、P 1 0 橋脚～P 1 2 橋脚の各橋脚及び、鉄筋加工場へ引き込む。

引き込み配線を、「仮設電気設備単線結線図」及び「仮設電気設備配置図」に示す。

（5）仮建物計画

仮建物設備計画を、「仮建物設備計画平面図」に示す。

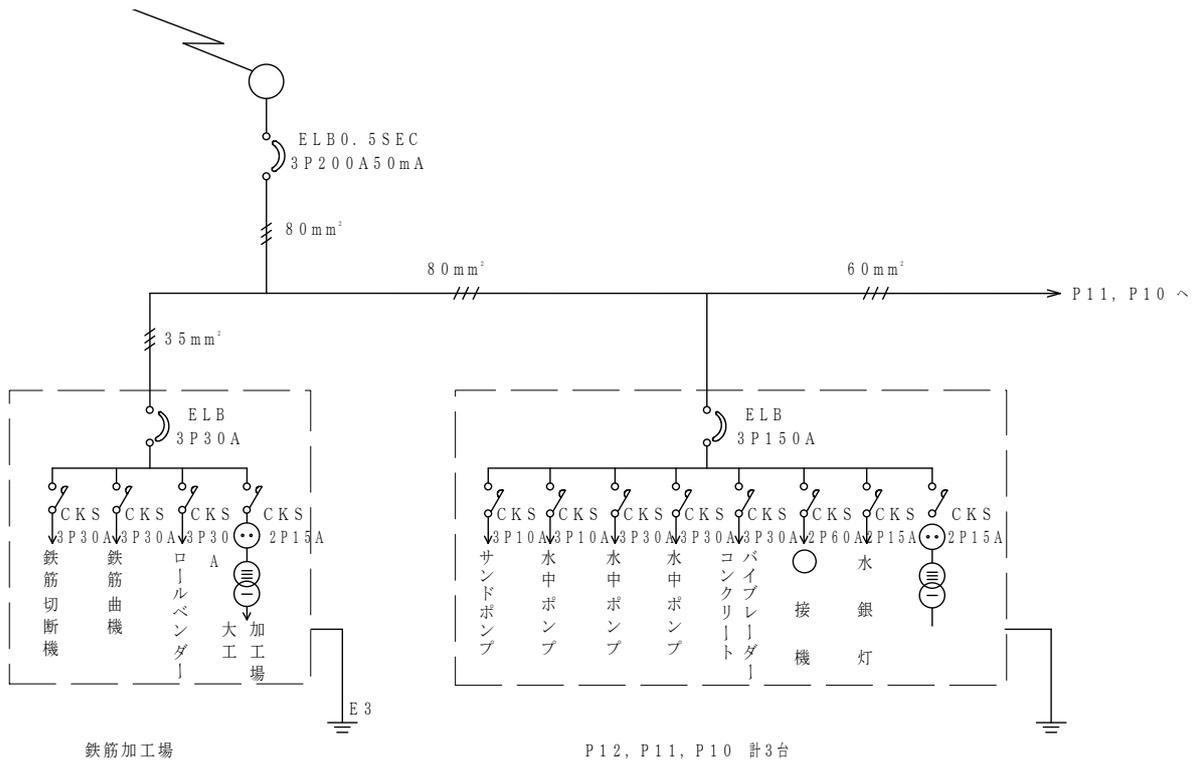


図-1 仮設電気設備単線結線図

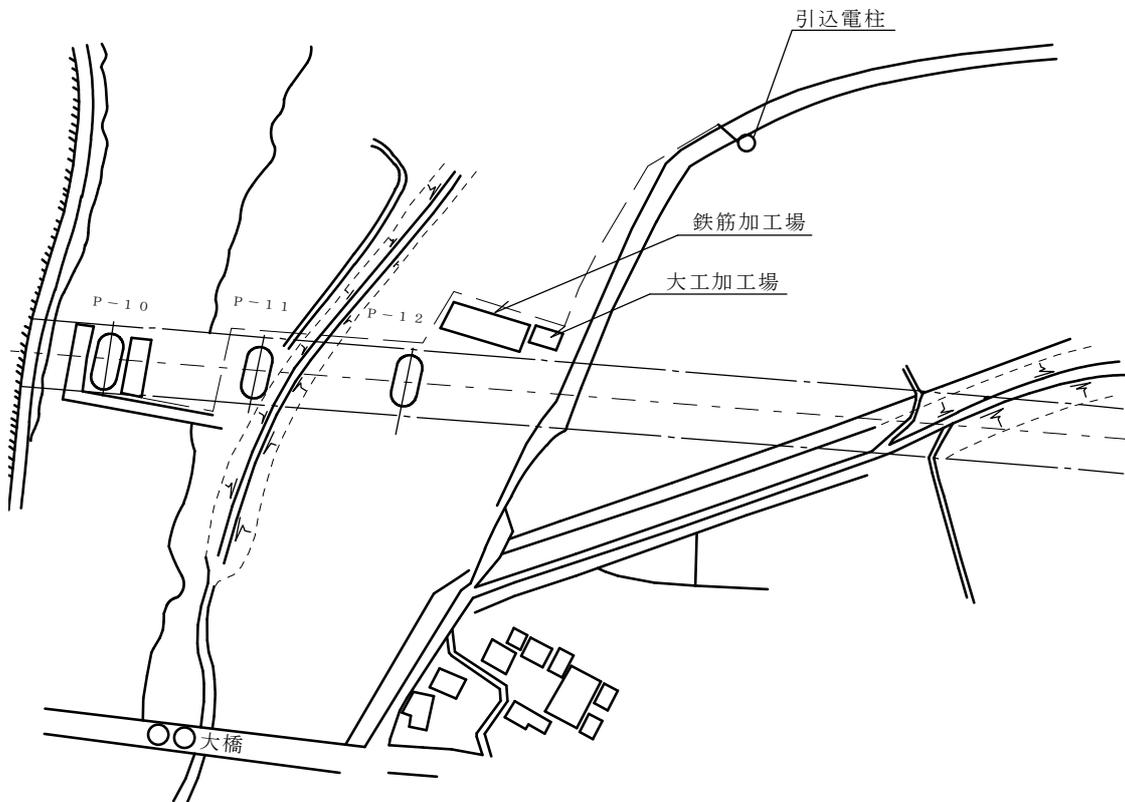
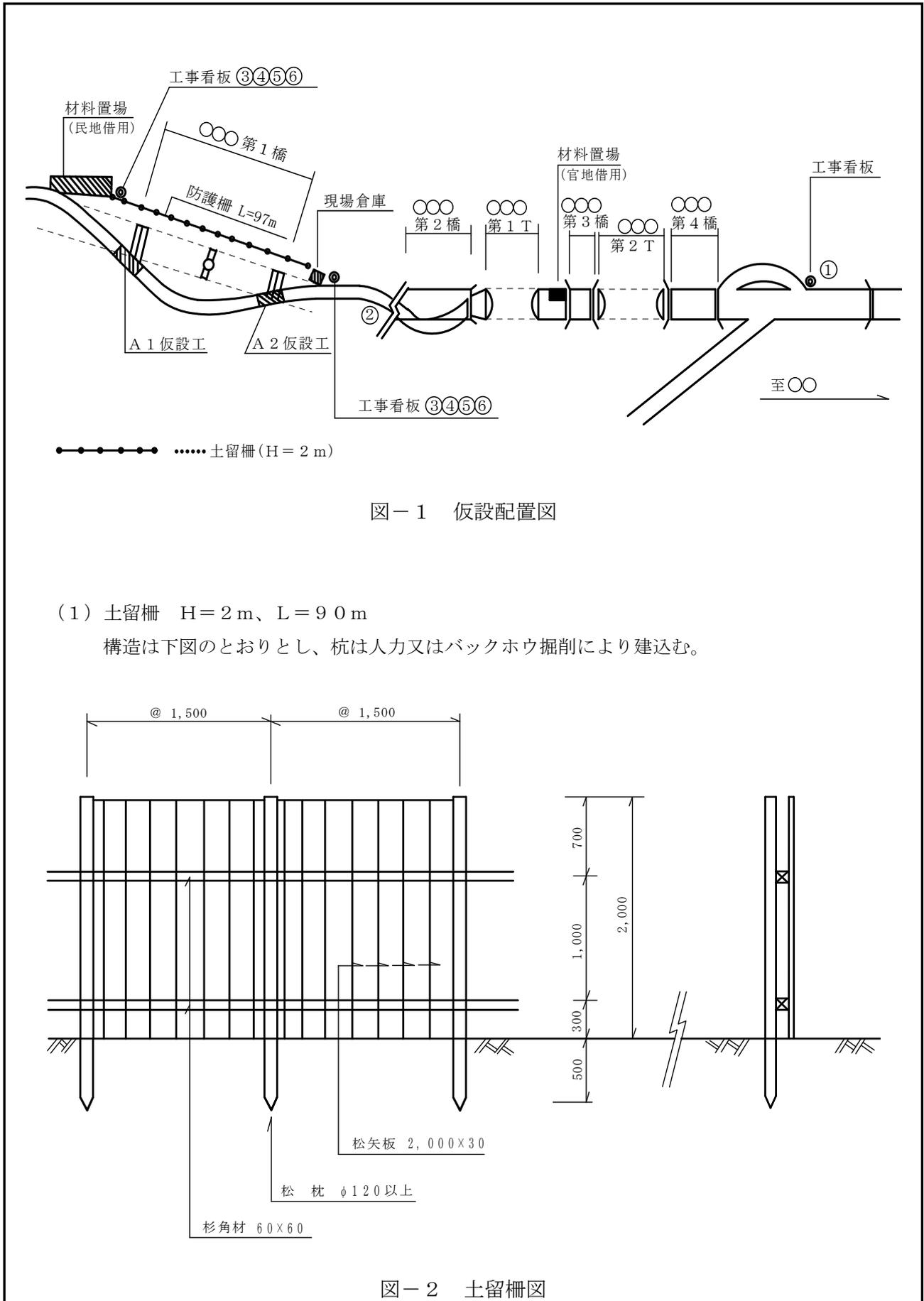


図-2 仮設電気設備配置図

・仮設備計画(事例2)



(2) A2 橋台土留柵平面図

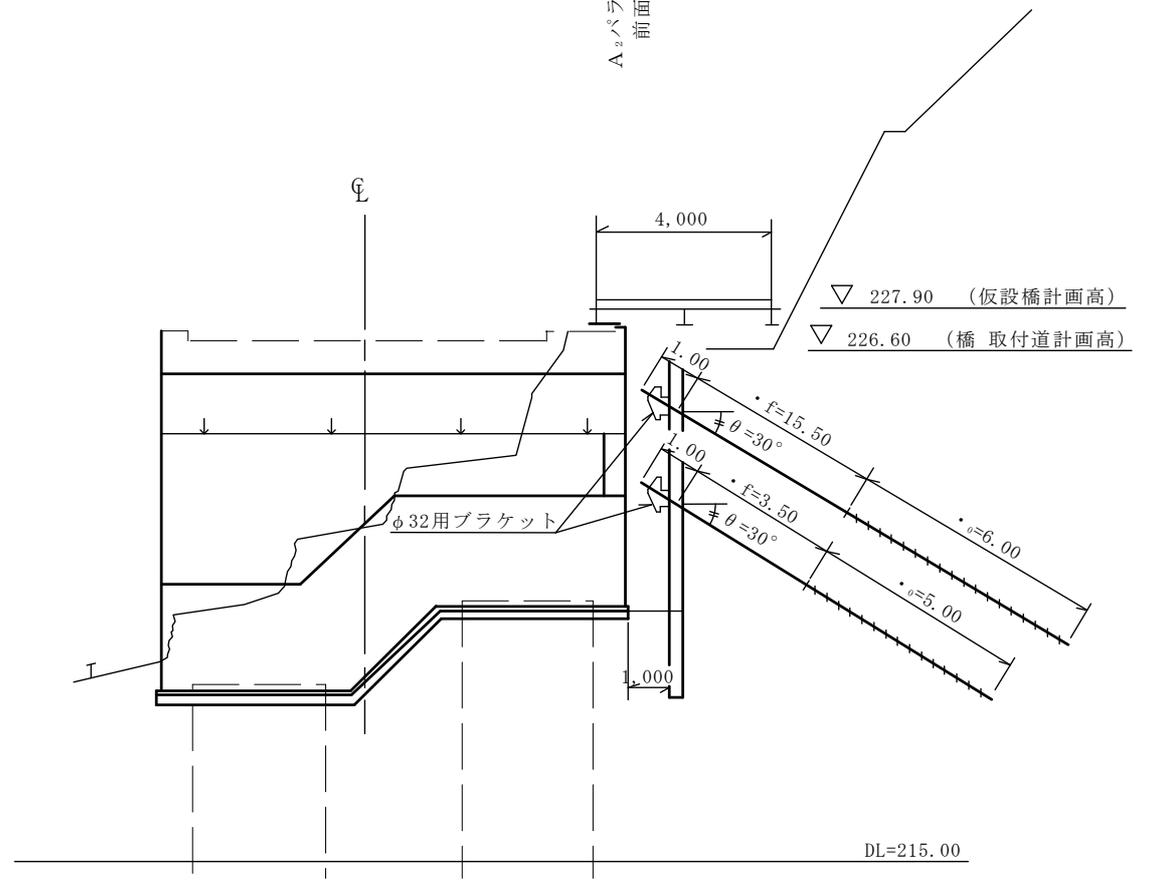
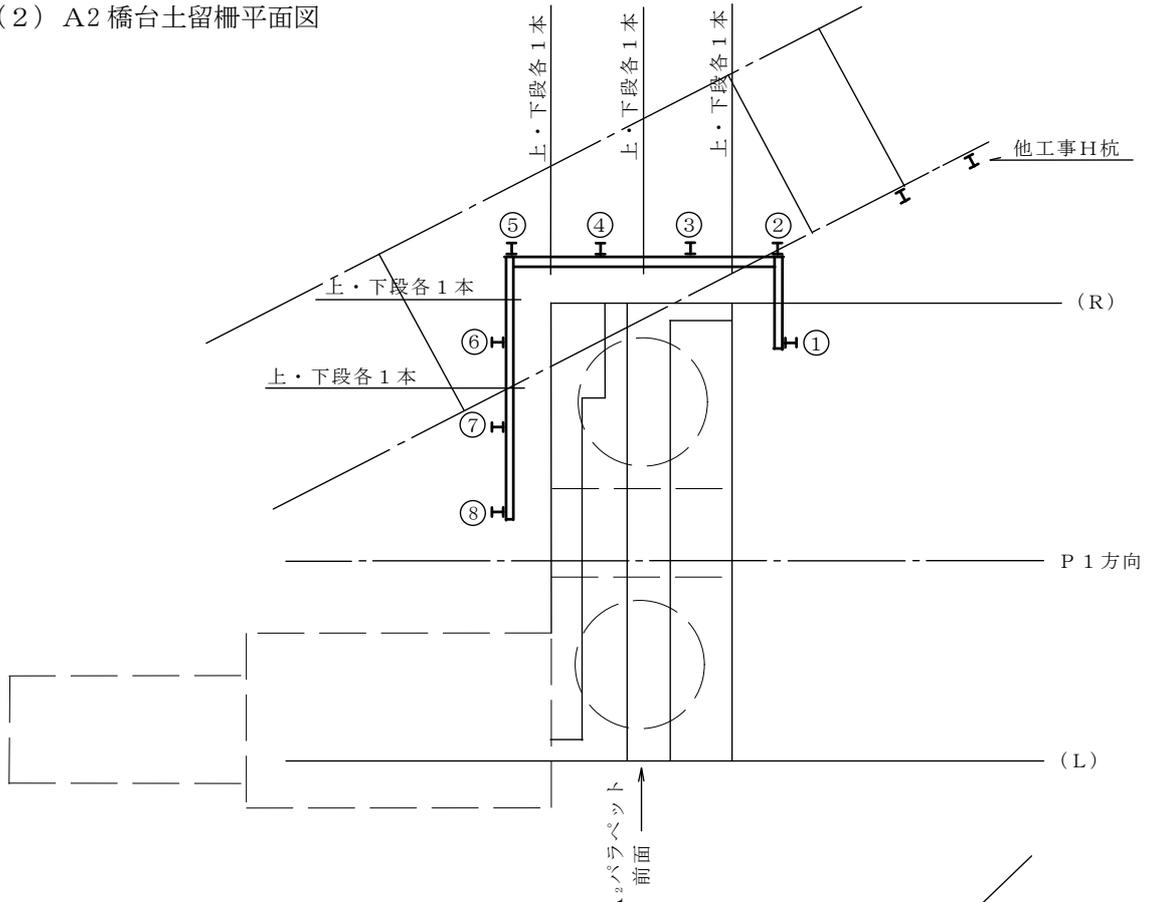


図-3 橋台土留柵図 (A2 橋)

(3) A2 橋台、仮設橋を下図のとおり計画する。

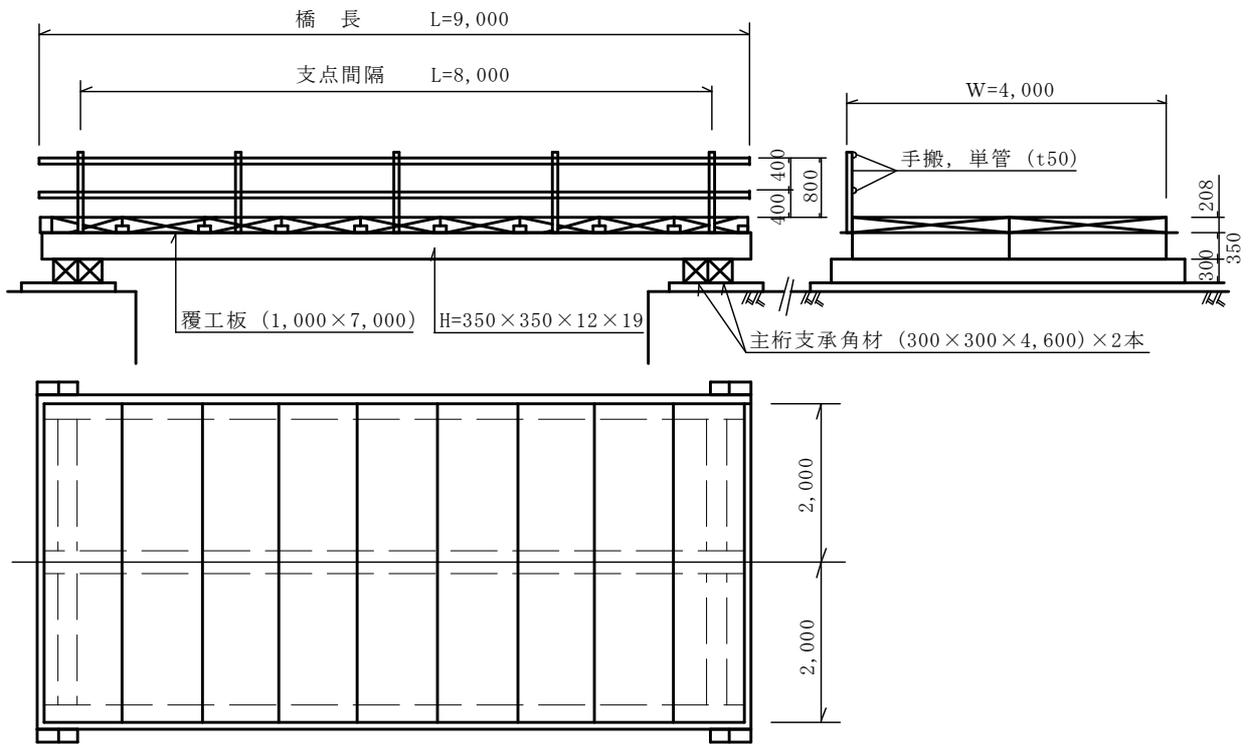


図-4 仮設橋構造図 (A2 橋台)

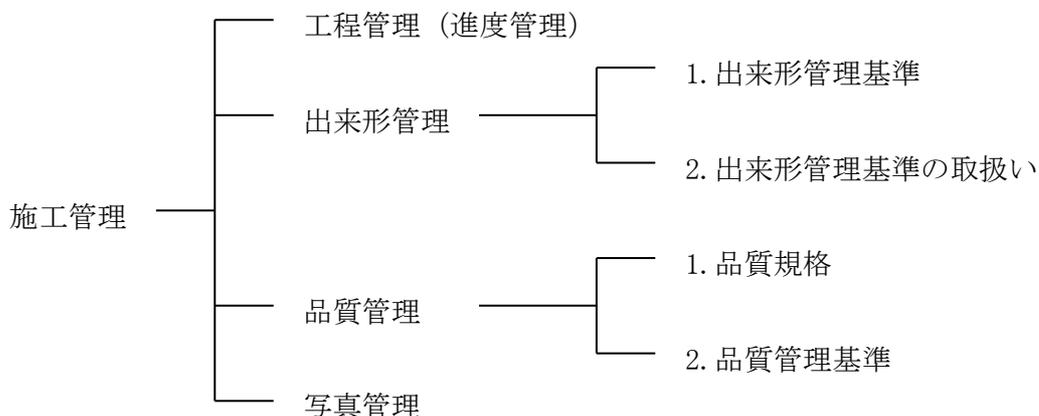
7-(3) 工事用地等

土木工事共通仕様書第1編1-1-9に、請負者は、発注者から工事用地等の提供を受けた場合は、善良なる管理者の注意をもって維持・管理するものとされており、提供された用地の概要と施工期間中の管理方法について記載する。

また、設計図書において請負者が確保するものとされる用地及び工事の施工上請負者が必要とする用地については、自ら準備し、確保するものとされていることから、これら土地の確保計画、現状の変更と復旧について記載しなければならない。

8. 施工管理計画

施工管理計画については、香川県土木部が定める「土木工事施工管理基準及び規格値」及び特記仕様書等に基づき、下記の構成により行わなければならない。（新技術や新工法の採用に伴い、手法を見直すべき事項、追加で必要となる事項が網羅されているかについても確認する。）



1) 工程管理

ネットワーク、バーチャート等の作成様式のうち使用する様式が記載されているか確認する。

2) 品質管理

工事で実施する品質管理の試験項目（試験）について、品質管理計画表が作成されているか確認する。

【留意点】

- (1) 必要な工種が記載されているか
- (2) 工事規模に合った管理回数となっているか。
- (3) 基準にないものの適用は妥当か。
- (4) 管理方法や処理は妥当か。

3) 出来形管理

工事で行う出来形管理の「測定項目」について記載されているか確認する。なお、該当工種がない場合はあらかじめ監督員と協議する。

4) 写真管理

「写真管理基準」に基づき、管理目的（施工・品質・出来形）に応じた適切な対象、時期、頻度等の選定が行なわれているか確認する。

5) 段階確認

香川県土木工事共通仕様書 第1編 表1-1 段階確認一覧表 (P.14) に示された、段階確認項目についての計画を記載する。

【例】段階確認

| 種 別 | 細 別 | 確認時期項目 | 施工予定時期 | 記 事 |
|-----|-----|---------|---------|-----|
| ○ ○ | ○ ○ | ○○○○○○○ | ○ 月 ○ 日 | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

6) 品質証明書

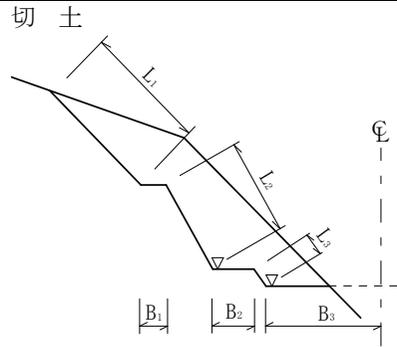
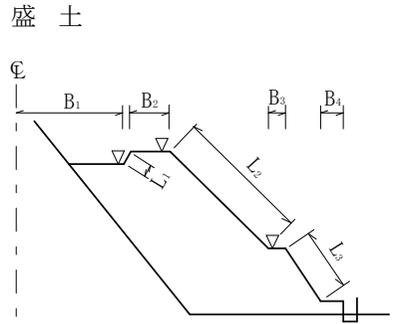
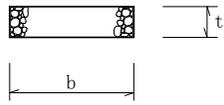
工事の中で行う社内検査項目、検査方法、検査段階について記載する。

・ 施工管理計画(事例 1 - 道路改良)

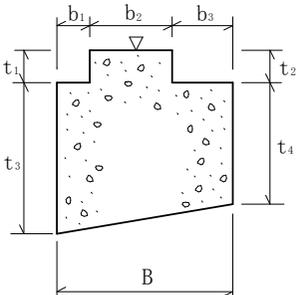
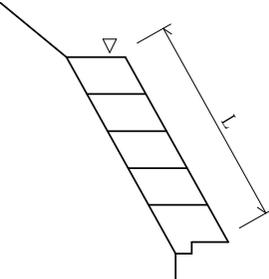
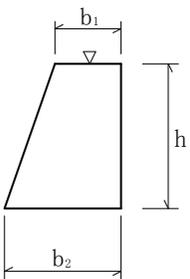
- (1) 出来形管理基準及び写真管理計画
- (2) 品質管理計画及び写真管理計画
- (3) 材料検査(検収)及び写真管理計画
- (4) 写真管理計画(工程、その他)

施工管理計画（事例1—道路改良）

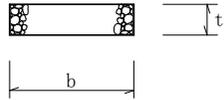
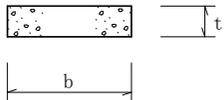
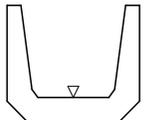
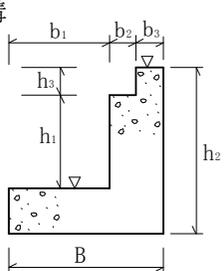
(1) 出来形管理計画及び写真管理計画-1

| 工種 | 細別 | 出来形管理 | | | 出来形写真 | | 出来形状況写真 | | |
|-----|---|-------------------------------|-------------------------------|--------------------|----------------|------------|--------------------|----------------------------------|---|
| | | 項目 | 測点及び位置 | 管理方法 | 撮影項目 | 撮影頻度 | 撮影項目 | 撮影時間 | 撮影頻度 |
| 土工 | 切土  | 基準高 (FH) ▽ | No. 198 No. 200 | 出来形図 出来形成果表 | 土質の変化 | 各測点土質が変わる毎 | 切土状況 | 土砂 軟岩 切土方法 が変わる毎 完了時 | 1回 1回 1回 1回 |
| | 幅 (b1~b3) | No. 202 No. 204 No. 206 | 変化点及び端部 | | | | | | |
| 土工 | 盛土  | 基準高 (FH) ▽ | | No. 198 No. 200 | 出来形図 出来形成果表 | — | — | 段切り状況 転圧状況 締固め状況 | 施工時 // 路体施工時 路床施工時 施工時 完了時 |
| | | 幅 (b1~b3) | No. 202 No. 204 No. 206 | 変化点及び端部 | | | | | |
| 擁壁工 | 碎石基礎  | 幅 (b) | No. 198 No. 200 | | 出来形図 | 幅 (b) | No. 198 No. 202 | 床掘状況 締固め状況 基礎全景 | 床掘状況 施工時 完成時 |
| | | 厚さ (t) | No. 202 No. 204 No. 206 | 変化点及び端部 | | | | | |

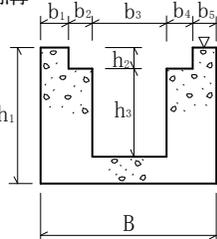
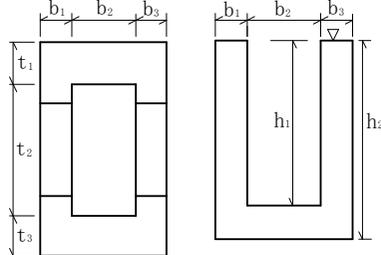
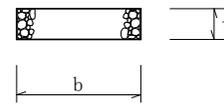
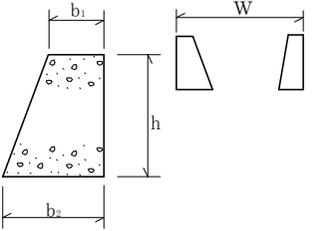
(1) 出来形管理計画及び写真管理計画-2

| 工種 | 細別 | 出来形管理 | | | 出来形写真 | | 出来形状況写真 | | |
|----------|---|------------|--|----------------|------------|--|--|--------------------------|----------------------|
| | | 項目 | 測点及び位置 | 管理方法 | 撮影項目 | 撮影頻度 | 撮影項目 | 撮影時間 | 撮影頻度 |
| コンクリート基礎 |  | 基準高 (FH) ▽ | No. 198 No. 200 No. 202 No. 204 No. 206 変化点及び端部 | 出来形図 出来形成果表 | 幅 (b1~b3) | No. 198 No. 202 No. 206 変化点及び端部 | 床掘状況 コンクリート打設 養生 基礎全景 | 完了時 施工時 養生時 完成時 | 1回 1回 1回 1回 |
| | | 幅 (b1~b3) | | | 厚さ (t1~t4) | | | | |
| | | 厚さ (t1~t4) | | | | | | | |
| ブロック積擁壁 |  | 基準高 (FH) ▽ | No. 198 No. 200 No. 202 No. 204 No. 206 変化点及び端部 | 出来形図 出来形成果表 | 法長 (L) | No. 198 No. 202 No. 206 変化点及び端部 | ブロック据付状況 砕石充填状況 コンクリート打設 完成全景 | 施工時 施工時 施工時 完了時 | 1回 1回 1回 1回 |
| | | 法長 (L) | | | 取上寸法 | | | | |
| | | | | | | | | | |
| コンクリート擁壁 |  | 基準高 (FH) ▽ | 施工延長40m毎 変化点及び端部 | 出来形図 出来形成果表 | 幅 (b1、b2) | 施工延長40m毎 変化点及び端部 | コンクリート打設 養生 完成全景 | 施工時 養生時 完成時 | 1回 1回 1回 |
| | | 幅 (b1、b2) | | | 高さ (h) | | | | |
| | | 高さ (h) | | | 取上寸法 | | | | |
| | | | | | | | | | |

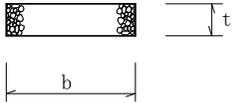
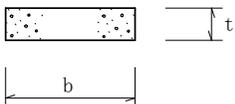
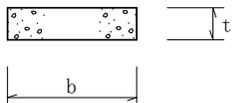
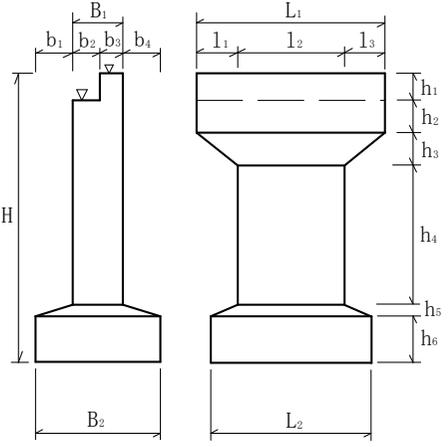
(1) 出来形管理計画及び写真管理計画-3

| 工種 | 細別 | 出来形管理 | | | 出来形写真 | | 出来形状況写真 | | |
|-----|---|-------------|--|----------------|-------------|--|--------------------------------|--------------------------|----------------------|
| | | 項目 | 測点及び位置 | 管理方法 | 撮影項目 | 撮影頻度 | 撮影項目 | 撮影時間 | 撮影頻度 |
| 排水工 | 砕石基礎  | 幅 (b) | No. 198 No. 200 | 出来形図 | 幅 (b) | No. 198 No. 202 No. 206 変化点及び端部 | 床掘状況 締固め状況 基礎全景 | 完了時 施工時 完成時 | 1回 1回 1回 |
| | | 厚さ (t) | No. 202 No. 204 No. 206 変化点及び端部 | | 厚さ (t) | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | コンクリート基礎  | 幅 (b) | No. 198 No. 200 | 出来形図 | 幅 (b) | No. 198 No. 202 No. 206 変化点及び端部 | 床掘状況 コンクリート打設 養生 基礎全景 | 完了時 施工時 養生時 完成時 | 1回 1回 1回 1回 |
| | | 厚さ (t) | No. 202 No. 204 No. 206 変化点及び端部 | | 厚さ (t) | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 側溝  | 基準高 (FH) ▽ | No. 198 No. 200 No. 202 No. 204 No. 206 変化点及び端部 | 出来形図 出来形成果表 | — | — | ブロック据付状況 完成全景 | 施工時 完了時 | 1回 1回 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | L型側溝  | 基準高 (FH) ▽ | No. 198 No. 200 | 出来形図 出来形成果表 | 幅 B (b1~b3) | No. 198 No. 202 No. 206 変化点及び端部 | コンクリート打設 養生 | 施工時 養生時 | 1回 1回 |
| | | 幅 B (b1~b3) | No. 202 No. 204 No. 206 変化点及び端部 | | 高さ (h1, h2) | | | | |
| | | 高さ (h1, h2) | | | | | | | |

(1) 出来形管理計画及び写真管理計画-4

| 工種 | 細別 | 出来形管理 | | | 出来形写真 | | 出来形状況写真 | | |
|------------|---|------------|--|----------------|--------|--|-------------------------|-------------------|----------------|
| | | 項目 | 測点及び位置 | 管理方法 | 撮影項目 | 撮影頻度 | 撮影項目 | 撮影時間 | 撮影頻度 |
| 排水工 | U型側溝  | 基準高 (FH) ▽ | No. 198 No. 200 No. 202 No. 204 No. 206 変化点及び端部 | 出来形図 出来形成果表 | 厚さ (t) | No. 198 No. 202 No. 206 変化点及び端部 | コンクリート打設 養生 | 施工時 養生時 | 1回 1回 |
| | 幅 B (b1~b5) | | | | | | | | |
| 高さ (h1~h3) | | | | | | | | | |
| 排水工 | 集水桝  | 基準高 (FH) ▽ | 箇所毎 | 出来形図 | 厚さ (t) | 2箇所毎 | コンクリート打設 養生 | 施工時 養生時 | 1回 1回 |
| | 幅 (b1~b3) | | | | | | | | |
| | 厚さ (t1~t3) | | | | | | | | |
| | 高さ (h1~h3) | | | | | | | | |
| 雑工 | 支道坂路砕石基礎  | 幅 (b) | 1ブロック単位 に1回 | 出来形図 | 厚さ (t) | 1ブロック単位 に1回 | 床掘状況 締固め状況 基礎全景 | 完了時 施工時 完成時 | 1回 1回 1回 |
| | 厚さ (t) | | | | | | | | |
| | 同上擁壁  | 幅 (b1, b2) | 1ブロック単位 に1回 | 出来形図 | 高さ (h) | 1ブロック単位 に1回 | コンクリート打設 養生 埋戻し状況 | 施工時 養生時 完了時 | 1回 1回 1回 |
| 高さ (h) | | | | | | | | | |
| 幅員 (W) | | | | | | | | | |

(1) 出来形管理計画及び写真管理計画-5

| 工種 | 細別 | 出来形管理 | | | 出来形写真 | | 出来形状況写真 | | |
|-------|---|-----------------------|----------------|------|-----------------------|----------------|---------------------------------|--------------------------|----------------------|
| | | 項目 | 測点及び位置 | 管理方法 | 撮影項目 | 撮影頻度 | 撮影項目 | 撮影時間 | 撮影頻度 |
| 雑工 | 支道坂路下層  | 幅 (b) | 1ブロック単位 に1回 | 出来形図 | 厚さ (t) | 1ブロック単位 に1回 | 路体面整正 敷均し・締固め 路盤工全景 | 完了時 施工時 完了時 | 1回 1回 1回 |
| | | 厚さ (t) | | | | | | | |
| | 同上表層  | 幅 (b) | 1ブロック単位 に1回 | 出来形図 | 厚さ (t) | コア採取後全 数 | | | |
| | | 厚さ (t) | | | | | | | |
| 橋梁下部工 | コンクリート基礎  | 幅 (b) | 軸方向、中央、 両端 | 出来形図 | 幅 (b) | 1ブロック単位 に1回 | 床掘り状況 コンクリート打設 養生 基礎全景 | 完了時 施工時 養生時 完成時 | 1回 1回 1回 1回 |
| | | 厚さ (t) | | | 厚さ (t) | | | | |
| | 橋脚  | 基準高 (FH) ▽ | 軸方向、中央、 両端 | 出来形図 | 幅 (B1、B2) (b1~b4) | 1ブロック単位 に1回 | | | |
| | | 幅 (B1、B2) (b1~b4) | | | 高さ (H) | | | | |
| | | 高さ (H) (h1~h6) | | | 長さ (L1、L2) (l1~l6) | | | | |
| | | 長さ (L1、L2) (l1~l6) | | | 鉄筋 (間隔) (カブリ) | | | | |
| | | 支間長 (L) | | | 取上寸法 | | 中央及び両端 | | |
| | | 変位 (e) | | | | | | | |

(2) 品質管理計画及び写真管理計画

| 工種 | 名称 | 作業量 | 品質管理 | | | | 品質写真 | | | 摘要 |
|---------|--------------------|---------------------|-------------------|-----------------------|---------|-------|-------|--------|----|----|
| | | | 試験項目 | 測点及び位置 | 回数 | 管理方法 | 時期 | 測点及び位置 | 回数 | |
| コンクリート工 | 16-8-40 16-8-20 | 600m ³ | スランプ試験 | 打設日 (AM、PM) | 6 | 工程能力図 | 試験終了時 | 適宜 | 1 | |
| | | | 圧縮強度試験 (7) | 打設日2日に1回 | 約 20 | 〃 | 〃 | 〃 | 1 | |
| | | | 圧縮強度試験 (28) | 打設日に1回 | 10 | 〃 | 〃 | 〃 | 1 | |
| | 21-8-20 | 140m ³ | アルカリ・シリカ 反応性試験 | 当初及び材料の変化時 | 随時 | 〃 | 〃 | 〃 | 1 | |
| | | | 塩化物量試験 | 打設日に1回 | 4 | 〃 | 〃 | 〃 | 1 | |
| 土工 | 盛土 | 9,600m ³ | 土の締固め試験 | 流用土 | 1 | 試験成績表 | 試験中 | 流用土 | 1 | |
| | | | 設計CBR試験 | | 1 | 〃 | 採取時 | | 1 | |
| | | | 現場密度試験 | 500m ³ に1回 | 20 | 〃 | 試験中 | 随時 | 1 | |
| | 路床面 | | ブルーフローリング | 全線 | 1 | 〃 | 〃 | 全線 | 1 | |
| 雑工 | 支道坂路舗装 | 300m ³ | 着温度・舗設温度 測定 | 1日に2回(AM、PM) | 1 | 〃 | 測定時 | 随時 | 1 | |
| | | | 密度測定 | 1工事に1回 | 1 | 〃 | 〃 | 〃 | 1 | |

(3) 材料検査（検収）及び写真管理計画

| 種 別 | 細 別 | 確認の時期 | 材料検査の頻度 | 確 認 事 項 | | | 検 収 写 真 | | | 備 考 |
|----------------|--------|-------|----------------------|-----------------|---------|----|---------|------|------------------|-----|
| | | | | 品質・規格 | 形 状 寸 法 | 数量 | 撮影項目 | 撮影時期 | 撮影回数 | |
| コンクリート 二次製品 | 間知ブロック | 使用前 | 入荷毎、又は入荷前 にまとめて1回 | 製造所発行の 品質証明書 | 幅・長さ・控長 | — | 形状寸法 | 使用前 | 形状寸法の異なる 毎に1回 | |
| | U型側溝 | 使用前 | 入荷毎、又は入荷前 にまとめて1回 | 製造所発行の 品質証明書 | 幅・厚さ・長さ | — | 形状寸法 | 使用前 | 形状寸法の異なる 毎に1回 | |
| 鋼 材 | 鋼製蓋版 | 使用前 | 入荷毎、又は入荷前 にまとめて1回 | 製造所発行の 品質証明書 | 幅・長さ・高さ | — | 形状寸法 | 使用前 | 形状寸法の異なる 毎に1回 | |
| | 鉄 筋 | 使用前 | 使用前にまとめて1 回 | 製造所発行の 品質証明書 | 単位重量測定 | — | 形状寸法 | 使用前 | 形状寸法の異なる 毎に1回 | |

(4) 写真管理計画

| 工 種 | 種 別 | 撮 影 項 目 | 撮影時間 | 撮 影 頻 度 | 備 考 |
|---------------|-------|---------------|------------|-----------------|-----|
| 工 程 | 着 工 前 | 全体又は代表部分 | 着工時 | 1 回 | |
| | 完 成 | 〃 | 完成時 | 1 回 | |
| 材料検収 | | 規格・形状寸法検査実施状況 | 検収時 使用前 | 各品目毎に 1 回 | |
| 仮設状況 | 任意仮設 | 仮設状況 | 完成時 | 施工箇所・仮設種類毎に 1 回 | |
| 図面との 不 一 致 | | 図面と現地との不一致状況 | 発生時 | 必要に応じて | |
| 安全管理 | 安全施設 | 保安施設の設置状況 | 設置時 | 各種類毎に 1 回 | |
| 交通管理 | | 安全施設の設置状況 | 設置時 | 施工箇所・対策種類毎に 1 回 | |
| | | 交通整理状況 | 施工時 | 〃 | |
| 積載超過 運搬防止 | | 主要資材の積載状況 | 計測時 入荷時 | 各種類毎に 1 回 | |
| 環境対策 | 濁水防塵等 | 各対策施設の状態 | 設置時 | 各種類毎に 1 回 | |
| 災害状況 | | 災害状況 | 被災時 | その都度必要に応じて | |
| | | 被災出来高 | 被災時 | 〃 | |
| イメージ UP 対策 | | 対策状況 | 設置時 | 1 回 | |

・ 施工管理計画(事例 2 - 舗装)

- (1) 出来形管理基準及び写真管理計画
- (2) 品質管理計画及び写真管理計画
- (3) 材料検査(検収)及び写真管理計画
- (4) 写真管理計画(工程、その他)

施工管理計画（事例２－舗装工事）

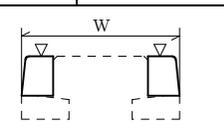
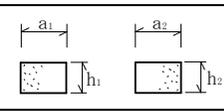
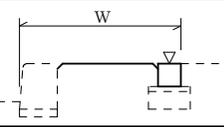
(1) 出来形管理計画及び写真管理計画-1

| 工種 | 細別 | | 出来形管理 | | | 出来形写真 | | 出来形状況写真 |
|-----|------|---------------------------------|-------|---|-------|---|---|--|
| | | | 項目 | 測点及び位置 | 管理方法 | 撮影項目 | 撮影頻度又は、測点 | 撮影項目・撮影時期・撮影頻度 |
| 舗装工 | 車道舗装 | 表層 | 厚さ | 1号No.166, 168, 174, 180, 186, 192, 194(バス停), 198, 204, 210, 216, 222, 228, 236, 240, 246, 252 | 工程能力図 | 厚さ | コア採取後、全数まとめて1回 | 舗設時状況 1回 完成時の全景 1回 平坦性測定状況 1回 コア採取状況 1回 |
| | | | 両端の厚さ | No.166, 172, 182, 192, 202, 212, 222, 232, 242, 252 | 工程能力図 | 両端の厚さ | 200mに1回 | |
| | | | 幅 | No.160~254 (偶数測点) | 出来形図 | — | — | |
| | | | 平坦性 | 各車線全線 | 標準偏差 | — | — | |
| | | タックコート | 乳剤散布量 | No.210 | — | 乳剤散布量 | No.210 | 散布状況 1回 |
| | | 基層 | 厚さ | 表層に同じ | 工程能力図 | 厚さ | コア採取後、全数まとめて1回 | 舗設時の状況 1回 完成時の全景 1回 |
| | | | 両端の厚さ | 表層に同じ | 工程能力図 | 両端の厚さ | 200mに1回 | |
| | | | 幅 | 表層に同じ | 出来形図 | 幅 | No.160, 170, 180, 190, 200, 210, 220, 230, 240, 250 | |
| | | タックコート | 乳剤散布量 | No.210 | — | 乳剤散布量 | No.210 | 散布状況 1回 |
| | | 上層路盤 As 安定処理 | 厚さ | No.162, 168, 180, 186, 192, 198, 210, 222, 236, 240, 252 | 工程能力図 | 厚さ | コア採取後、全数まとめて1回 | 敷均し、締固め状況施工中1回 完成時の全景 1回 |
| | | | 両端の厚さ | No.166, 174, 182, 192, 202, 212, 222, 232, 242, 252 | 工程能力図 | 両端の厚さ | 200mに1回 | |
| | | | 幅 | No.160~254 (偶数測点) | 出来形図 | 幅 | No.160, 170, 180, 190, 200, 210, 220, 240, 250 | |
| | | プライムコート | 乳剤散布量 | No.210 | — | 乳剤散布量 | No.210 | 散布状況 1回 養生砂散布状況 1回 |
| | | 下層路盤 再生碎石 RC-30 t=20cm | 厚さ | No.160, 170, 180, 190, 200, 210, 220, 230, 240, 250 | 工程能力図 | 厚さ | 出来形管理と同様 | 敷均し、締固め状況施工中 500m毎 1回 完成時の全景 1回 |
| | | | 基準高 | No.160~254 (偶数測点) | | | | |
| | 幅 | | 出来形図 | | 幅 | No.160, 170, 180, 190, 200, 210, 220, 230, 240, 250 | | |

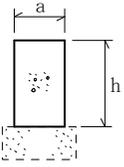
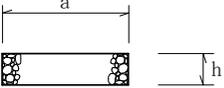
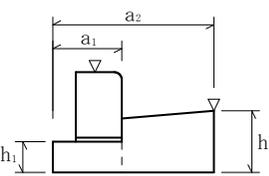
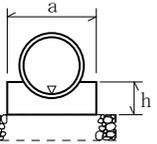
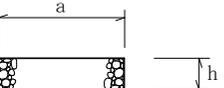
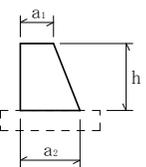
(1) 出来形管理計画及び写真管理計画-2

| 工 種 | 細 別 | | 出 来 形 管 理 | | | 出 来 形 写 真 | | 出 来 形 状 況 写 真 |
|-----------------------|------------------------|---|-------------------|---|-----------------|--|-----------------------------|-----------------------------|
| | | | 項 目 | 測 点 及 び 位 置 | 管理方法 | 撮影項目 | 撮影頻度又は、測点 | 撮影項目・撮影時期・撮影頻度 |
| 舗 装 工 | 橋 面 車 道 舗 装 | 橋面車道舗装 密粒度ギャップAs t=6cm | 幅 | No.234 | 出来形図 | — | — | 舗設時状況 1回 完成時の全景 1回 |
| | | シート防水 | 幅 | No.234 | 出来形図 | | | シート防水状況 1回 |
| | | 調整 コンクリート (160-8-40) | 仕上がり高 | No.234 | 出来形図 | 仕上がり高 | No.234 (水系による) | コンクリート打設時状況 1回 完成時の全景 1回 |
| | | | 幅 | No.234 | 〃 | 幅 | No.234 | |
| | 橋 面 歩 道 舗 装 | 橋面歩道舗装 密粒度As t=4cm | 幅 | No.234 | 出来形図 | | | 舗設時状況 1回 完成時の全景 1回 |
| | | | コ ア ー | No.234 | | | | コア採取状況 1回 |
| | | プライムコート | 乳剤散布量 | No.234 | 報 告 書 | 乳剤散布量 | No.234 | プライムコート散布状況 1回 |
| | | 間詰砕石 再生砕石 RC-30 | 仕上がり高 | No.234 | 出来形図 | 仕上がり高 | No.234 (水系による) | 敷均し締固め状況 1回 完成時の全景 1回 |
| | | | 幅 | No.234 | 〃 | 幅 | No.234 | |
| | 塗 膜 防 水 | 幅 | No.234 | 出来形図 | | | 塗膜防水状況 1回 | |
| | 歩 道 表 層 | 歩道表層 密粒度As t=4cm | 幅 | 左側No.174~254 (偶数測点) | 出来形図 | — | — | 舗装時状況 1回 完成時の全景 1回 |
| | | | 厚 さ (コア) | No.174, 184, 194, 204, 212, 222, 230, 240, 250 | 工程能力図 | 厚 さ | 採取コアをまとめて 1回 | プライムコート散布状況 1回 |
| プライムコート | | 乳剤散布量 | No.200 | 報 告 書 | 乳剤散布量 | No.200 | | |
| 歩道路盤 再生砕石 RC-30 | | 基 準 高 | No.174~254 (偶数測点) | 出来形図 | — | — | 敷均し締固め状況施工中 500m毎 1回 | |
| | | 幅 | No.174~254 (偶数測点) | 〃 | 幅 | No.180, 190, 200, 210, 220, 230, 240, 250 | 完成時の全景 1回 | |
| | 厚 さ | No.174, 184, 194, 204, 212, 222, 230, 240, 250 | 工程能力図 | 厚 さ | 採取コアをまとめて 1回 | | | |
| 乗 入 舗 装 | 乗入舗装 密粒度As t=5cm | 幅 | No.179, 190, 238 | 出来形図 | — | — | 舗設時状況 1回 完成時の全景 1回 | |
| | | 厚 さ | No.190 | 工程能力図 | 厚 さ | 採取コアをまとめて 1回 | コア採取状況 1回 プライムコート散布状況 1回 | |
| | プライムコート | 乳剤散布量 | No.190 | 報 告 書 | 乳剤散布量 | No.190 | | |

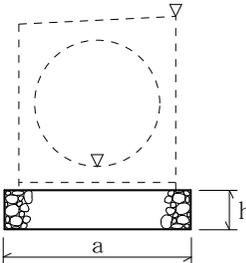
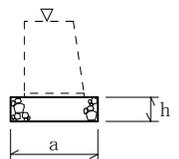
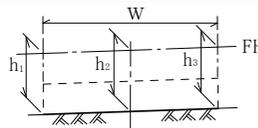
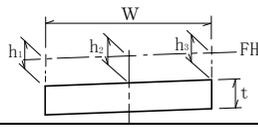
(1) 出来形管理計画及び写真管理計画-3

| 工種 | 細別 | | 出来形管理 | | | 出来形写真 | | 出来形状況写真 |
|---------------------------------|---|---|--|--|-------------|------------------|---|---|
| | | | 項目 | 測点及び位置 | 管理方法 | 撮影項目 | 撮影頻度又は、測点 | 撮影項目・撮影時期・撮影頻度 |
| 舗装工 | 乗入舗装 | 乗入路盤 再生砕石 RC-30 t=10cm | 基準高 | No.179, 190, 238 | 出来形図 | 幅 | No.190 | 敷均し締固め状況 1回 完成時の全景 1回 |
| | | | 幅 | | | | | |
| | | | 厚さ | No.190 | 工程能力図 | 厚さ | 出来形管理と同様 | |
| | 支道舗装 | 支道舗装 密粒度As t=5cm | 幅 | No.197 | 出来形図 | — | — | 舗設時状況 1回 完成時の全景 1回 コア採取状況 1回 |
| | | | 厚さ | No.197 | 工程能力図 | 厚さ | 採取コアをまとめて1回 | |
| | | プライムコート | 乳剤散布量 | No.197 | 報告書 | 乳剤散布量 | No.197 | プライムコート散布状況 1回 |
| | | 支道路盤 再生砕石 RC-30 t=10cm | 基準高 | No.197 | 出来形図 | — | — | 敷均し締固め状況 1回 完成時の全景 1回 |
| | 幅 | | 幅 | | | No.197 | | |
| | 厚さ | | 工程能力図 | | 厚さ | No.197 | | |
| | 坂路舗装 | コンクリート 舗装 t=10cm | 厚さ | No.181, 210, 247 | 工程能力図 | 厚さ | コア採取後、全数まとめて1回 | コンクリート打設状況 1回 " 養生状況 1回 コア採取状況 1回 |
| 幅 | | | 同上 | 出来形図 | — | — | | |
| 砕石基盤 再生砕石 RC-30 t=10cm | | 厚さ | No.181, 210, 247 | 工程能力図 | 厚さ | No.181, 210, 247 | 敷均し締固め状況施工時 1回 完了状況 1回 | |
| | | 幅 | 同上 | 展開図 | 幅 | 同上 | | |
| 分離帯工 中央分離帯 | 1号 |  | 基準高 | No.162, 194 | 出来形図 | — | — | 砕石敷均し締固め状況 1回 モルタル敷均し状況 1回 ブロック据付け状況 1回 |
| | | | 延長 | 全延長 | 展開図 | — | — | |
| | 2号 |  | 厚さ | h1, h2 | No.162, 194 | 出来形図 | 厚さ | |
| 幅 | | | a1, a2 | | | | 幅 | a1, a2 |
| 植栽工 植樹帯 |  | 基準高 | No.174~232 (偶数測点) No.236~254 (偶数測点) | 出来形図 | — | — | 砕石敷均し締固め状況 1回 モルタル敷均し状況 1回 ブロック据付け状況 1回 | |
| | | 延長 | 全延長 | 展開図 | — | — | | |
| | | 厚さ | h | No.174~232 (偶数測点) No.236~254 (偶数測点) | 出来形図 | 厚さ | | h |
| | 幅 | a | | | | 幅 | a | |

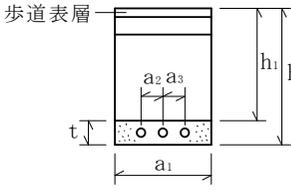
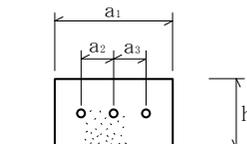
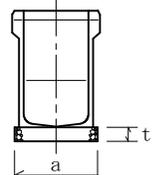
(1) 出来形管理計画及び写真管理計画-4

| 工種 | 細別 | 出来形管理 | | | 出来形写真 | | 出来形状況写真 撮影項目・撮影時期・撮影頻度 |
|---------------|---|-----------|---|-------|---------|-------------|---|
| | | 項目 | 測点及び位置 | 管理方法 | 撮影項目 | 撮影頻度又は、測点 | |
| 植栽工 地先境界壁 |  | 基準高さ 幅 | No.185, 232 | 出来形管理 | 高さ 幅 | No.185, 232 | 床掘状況 1回 床付、締固め状況 1回 砕石、敷均し締固め状況 1回 型枠設置状況 1回 コンクリート打設状況 1回 " 養生状況 1回 埋戻、締固め状況 1回 |
| | 延長 | 全数 | 展開図 | - | - | | |
| |  | 厚さ 幅 | No.185, 232 | 出来形管理 | 厚さ 幅 | No.185, 232 | |
| 排水工 1号ガッター |  | 基準高さ 幅 | No.160, 162, 164, 166, 168, 170 その他は2ヶ所/1スパン | 出来形図 | 幅 高さ | 1ヶ所/1スパン | 型枠設置状況各種別毎 1回 目地設置状況 1回 コンクリート打設状況 1回 " 養生状況 1回 モルタル配合敷均し状況 1回 ブロック据付け状況 1回 目地詰状況 1回 |
| | 延長 | 全数 | 展開図 | - | - | | |
| 排水工 1号管渠 |  | 基準高さ 幅 | 2ヶ所/1スパン | 出来形図 | 厚さ 幅 | 1ヶ所/1スパン | 床掘状況 1回 床付、締固め状況 1回 砕石、敷均し締固め状況 1回 スーパーブロック設置状況 1回 ヒューム管布設状況 1回 型枠設置状況 1回 コンクリート打設状況 1回 " 養生状況 1回 埋戻、締固め状況 1回 |
| | 延長 | 全数 | 展開図 | - | - | | |
| |  | 厚さ 幅 | 2ヶ所/1スパン | 出来形図 | 厚さ 幅 | 1ヶ所/1スパン | |
| 擁壁工 3号擁壁 |  | 基準高さ 幅 | 両端部 | 出来形管理 | 幅 高さ | No.235 | 床掘状況 1回 床付、締固め状況 1回 砕石、敷均し締固め状況 1回 型枠設置状況 1回 コンクリート打設状況 1回 " 養生状況 1回 埋戻、締固め状況 1回 |
| | 延長 | 全数 | 展開図 | - | - | | |
| |  | 厚さ 幅 | 両端部 | 出来形管理 | 厚さ 幅 | No.235 | |

(1) 出来形管理計画及び写真管理計画-5

| 工種 | 細別 | 出来形管理 | | | 出来形写真 | | 出来形状況写真 | |
|---------------------------------|--|--|--|-------------|-------------------------------|---------------------------------------|--|----------------------|
| | | 項目 | 測点及び位置 | 管理方法 | 撮影項目 | 撮影頻度又は、測点 | 撮影項目・撮影時期・撮影頻度 | |
| 排水溝 管渠型側溝 (一般部) (集水柵部) |  | 基準高 | (一般部) No.174~230 (偶数測点) No.236~242 (") No.246~254 (") (集水柵部) 5箇所に1箇所 | 出来形図 | — | — | 床掘状況 1回 床付、締固め状況 1回 砕石、敷均し締固め状況 1回 モルタル配合敷均し状況 1回 本体据付状況 1回 目地詰状況 1回 埋戻、締固め状況 1回 | |
| | | 延長 | 全数 | 展開図 | — | — | | |
| | 厚さ 幅 a | (一般部) No.174~230 (偶数測点) No.236~242 (") No.246~254 (") (集水柵部) 5箇所に1箇所 | 出来形図 | 厚さ h 幅 a | 出来形管理の1/2 | | | |
| |  | 基準高 | (一般部) No.174~230 (偶数測点) No.236~242 (") No.246~254 (") | 出来形図 | — | — | | |
| 厚さ 幅 a | | (一般部) No.174~230 (偶数測点) No.236~242 (") No.246~254 (") | 出来形図 | 厚さ h 幅 a | 出来形管理の1/2 | | | |
| 縁石工 3号 |  | 基準高 | No.234 | 出来形図 | — | — | モルタル配合敷均し状況 1回 ブロック据付状況 1回 型枠設置状況 1回 コンクリート打設状況 1回 " 養生状況 1回 | |
| | | 延長 | 全数 | 展開図 | — | — | | |
| 踏掛版 |  | 基準高 h1 ~ h3 長さ L 幅 W | 全数 但し h1~h3 は起点 及び終点側端部 | 出来形図 | 基準高 h1 ~ h3 長さ L 幅 W | No.235 | 掘削、床付、締固め状況 1回 完成時の全景 1回 | |
| | 配筋 | ピッチかぶり | 全数 | 出来形図 | ピッチかぶり | No.235 | | 配筋状況 1回 完成時の全景 1回 |
| | コンクリート |  | 基準高 h1 ~ h3 長さ L 幅 W 厚さ t | 全数 | 出来形図 | 基準高 h1 ~ h3 長さ L 幅 W 厚さ t | | No.235 |
| 防護柵 | | 延長 | 全数 | 展開図 | — | — | 建込み状況 1回 | |

(1) 出来形管理計画及び写真管理計画-6

| 工種 | 細別 | 出来形管理 | | | 出来形写真 | | 施工状況写真 |
|--------|---|------------------|-------------------|------|-------|------------------|---|
| | | 項目 | 測点及び位置 | 管理方法 | 撮影項目 | 撮影頻度 | |
| 2号管路工 |  | 厚さ t | No.160~246 (偶数測点) | 出来形図 | 幅 | 出来形管理の1/2 | 床掘状況 1回 保護砂敷均し状況 1回 管布設状況 1回 埋戻し状況 1回 |
| | | 幅 a1 a2 a3 | | | | | |
| | | 深さ h1 h2 | | | | | |
| | | 延長 全数 | 展開図 | — | — | | |
| 3号管路工 |  | 高さ h | No.234 | 出来形図 | 高さ | | 管設置状況 1回 型枠設置状況 1回 コンクリート打設状況 1回 " 養生状況 1回 埋戻し状況 1回 |
| | | 幅 a1 a2 a3 | | | 幅 | | |
| | | 延長 全数 | 展開図 | — | — | | |
| ハンドホール |  | 幅 a | No.177 No.226 | 出来形図 | 幅 | No.177 No.226 | 床掘状況 1回 碎石、敷均し締固め状況 1回 モルタル敷均し状況 1回 ハンドホール据付け状況 1回 埋戻し状況 1回 |
| | | 厚さ t | | | 厚さ | | |
| | | 基準高 | No.177 No.226 | 出来形図 | — | — | |

(2) 品質管理計画及び写真管理計画-1

| 工種 | 種 別 | | 作 業 量 | 品 質 管 理 | | | | 品 質 写 真 | | | 摘 要 |
|---|----------------|--|-----------------------|-----------------------|--|------|-------|------------------|------------------|----|---|
| | | | | 試 験 項 目 | 測点及び位置 | 試験回数 | 管理方法 | 時期 | 測点及び位置 | 回数 | |
| 路床 整 正 | 施 工 | 車 道 | | ブルーフローリング | 全 線 | 1 | 立会観察 | - | - | 1 | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 車道下層 路盤工・ 支乗歩 道入道 路 盤 工 | 材 料 | 再 生 砕 石 R _C 30 | 3,596 m ² | 突固め試験 | 当初及び材料変化時 | 1 | 試験成績表 | - | - | - | |
| | | | | フルイ分け試験 | 〃 | 1 | 〃 | - | - | - | |
| | | | | 修正CBR試験 | 〃 | 1 | 〃 | - | - | - | 修正CBR30以上 |
| | | | | 0.4mmフルイ通過分のP1の測定 | 〃 | 1 | 〃 | - | - | - | P. 1=6以下 |
| | 施 工 | 車 道 | 10,240 m ² | 現場密度試験 | No.162, 166, 174, 178, 182, 186, 190, 194, 198, 202, 206, 210, 214, 220, 224, 228, 232, 236, 240, 244, 248, 252 | 22 | 工程能力図 | 試験時 | No.190 No.220 | 4 | 1,000 m ² につき2回γdmax の95%以上 |
| | | | | ブルーフローリング | 全 線 | 1 | 立会観察 | 〃 | | 1 | |
| | | 歩道 | 4,940 m ² | 現場密度試験 | No.178, 186, 194, 202, 210, 220, 228, 236, 244, 252 | 10 | 工程能力図 | 〃 | No.210 | 4 | 500 m ² につき1回γdmaxの 85%以上 |
| | 坂路 乗入 支道 | 248 m ² 518 m ² 295 m ² | | No.190, 238 No.197 | 2 1 | | | No.190 No.197 | | | |

(2) 品質管理計画及び写真管理計画-2

| 工種 | 種別 | | 作業量 | 品質管理 | | | | 品質写真 | | | 摘要 | |
|---------------------------------------|---------------------|----------------------------|------------------|-------------------------|---------------------|----------------|-------|------|--------|------------|--|--|
| | | | | 試験項目 | 測点及び位置 | 試験回数 | 管理方法 | 時期 | 測点及び位置 | 回数 | | |
| ア ス フ ァ ルト 舗 装 工 | 材 | 骨 材 | 密粒度 ギャップ | 骨材フルイ分け試験 | 当初及び変動が認められる場合 | 1 | 試験成績表 | - | - | - | | |
| | | | 2,037 t 再生密粒度 | 骨材比重・吸水量試験 | 〃 | 1 | 〃 | - | - | - | | |
| | | | アスコン 585 t | 骨材単位体積重量試験 | 〃 | 1 | 〃 | - | - | - | | |
| | | | 再生粗粒度 | 骨材すりへり試験 | 〃 | 1 | 〃 | - | - | - | | |
| | | | アスコン 2,009 t | 骨材安定性試験 | 〃 | 1 | 〃 | - | - | - | | |
| | | | | 骨材軟石量試験 | 〃 | 1 | 〃 | - | - | - | | |
| | | ファイ バー | | フィラー粒度試験 | 〃 | 1 | 〃 | - | - | - | | |
| | | | | フィラー比重試験 | 〃 | 1 | 〃 | - | - | - | | |
| | | アス ファ ルト | | | 物理試験 | 当 初 | 1 | 〃 | - | - | - | |
| | | A S プ ラ ン ト | | 再生As 安定処理 2,473 t | マーシャル配合試験 分析試験 | 配合毎各1回 | 4 | 〃 | 試験時 | - | 配合毎 各1回 | |
| | 現場配合試験 | | | | 〃 | 4 | 〃 | 〃 | - | 〃 | | |
| | 混合物のアスファルト 量抽出試験 | | | | 1日につき1回 | - | 工程能力図 | 〃 | - | 配合毎 各1回 | 指定の-0.9%以上 (As 安定処理-1.2%以上) | |
| | 混合物の粒度分析試験 | | | | 〃 | - | 試験成績表 | 〃 | - | 〃 | 2.5 mmフルイ指定の±12% (As 安定±15%) 0.074 mmフルイ指定の±5% (As 安定±6%) | |
| | アスファルトの加熱温度 測定 | | | | 1時間毎 | - | 工程能力図 | 測定時 | - | 〃 | 指定の±15℃ | |
| | 骨材の加熱温度測定 | | | | 〃 | - | 〃 | 〃 | - | 〃 | 指定の±15℃ | |
| | 混合物温度測定 | | | | 〃 | - | 〃 | 〃 | - | 〃 | 185℃未満・指定の±25℃以 内 | |
| | 基準密度の決定 | | | | 当初2日間午前午後 各1回 3個 | 種別毎 | 試験成績表 | 試験時 | - | 〃 | | |
| ホットビン骨材合成粒 度試験 | 1日につき1回 | | | | - | 試験成績表 工程能力図 | 〃 | - | 〃 | | | |

(2) 品質管理計画及び写真管理計画-3

| 工種 | 種別 | 作業量 | 品質管理 | | | | 品質写真 | | | 摘要 |
|---|--------|--|--------------------|------------------------|------|----------------|------|--------|-------------|-------------------------------------|
| | | | 試験項目 | 測点及び位置 | 試験回数 | 管理方法 | 時期 | 測点及び位置 | 回数 | |
| ア ス フ ア ル ト 舗 装 工 | 車道表層工 | 密粒度 ギャップ 15,210 m ² | 温度測定 (初期締固め前) | トラック1台毎 | — | 工程能力図 | 測定時 | — | 午前午後 各1回 | |
| | | | 抜き取りコア密度測定 | 出来形管理計画に 同じ | 16 | 試験成績表 工程能力図 | 〃 | — | 1回 | 基準密度の94%以上 |
| | | | 抜き取りコアのアスファルト量抽出試験 | 上記コア 1/2 | 8 | 工程能力図 | 試験時 | — | 〃 | 指定の-0.9%以上 |
| | | | 抜き取りコアの粒度 分析試験 | 〃 | 8 | 試験成績表 | 〃 | — | 〃 | 2.5mmフルイ指定の±12% 0.074mmフルイ指定の±5% |
| | 車道基層工 | 再生粗粒度 アスコン 15,210 m ² | 温度測定 (初期締固め前) | トラック1台毎 | — | 工程能力図 | 測定時 | — | 午前午後 各1回 | |
| | | | 抜き取りコア密度測定 | 出来形管理計画に 同じ | 16 | 試験成績表 工程能力図 | 〃 | — | 1回 | 基準密度の94%以上 |
| | | | 抜き取りコアのアスファルト量抽出試験 | 上記コア 1/2 | 8 | 工程能力図 | 試験時 | — | 〃 | 指定の-0.9%以上 |
| | | | 抜き取りコアの粒度 分析試験 | 〃 | 8 | 試験成績表 | 〃 | — | 〃 | 2.5mmフルイ指定の±12% 0.074mmフルイ指定の±5% |
| | As安定処理 | 再生As 安定処理 10,240 m ² | 温度測定 (初期締固め前) | トラック1台毎 | — | 工程能力図 | 測定時 | — | 午前午後 各1回 | |
| | | | 抜き取りコア密度測定 | 出来形管理計画に 同じ | 11 | 試験成績表 工程能力図 | 〃 | — | 1回 | 基準密度の93%以上 |
| | | | 抜き取りコアのアスファルト量抽出試験 | 上記コア 1/2 | 6 | 工程能力図 | 試験時 | — | 〃 | 指定の-1.2%以上 |
| | | | 抜き取りコアの粒度 分析試験 | 〃 | 6 | 試験成績表 | 〃 | — | 〃 | 2.5mmフルイ指定の±15% 0.074mmフルイ指定の±6% |
| | 歩道舗装 | 再生密粒度 アスコン 4,940 m ² | 温度測定 (初期締固め前) | トラック1台毎 | — | 工程能力図 | 測定時 | — | 午前午後 各1回 | |
| | | | 抜き取りコア密度測定 | 出来形管理計画 (200mにつき1回) | 9 | 試験成績表 工程能力図 | 〃 | — | 1回 | 2.0t/m ² 以上 |
| | | | 抜き取りコアのアスファルト量抽出試験 | 上記コア 1/2 | 5 | 工程能力図 | 試験時 | — | 〃 | 指定の-0.9%以上 |
| | | | 抜き取りコアの粒度 分析試験 | 〃 | 5 | 試験成績表 | 試験時 | — | 〃 | 2.5mmフルイ指定の±12% 0.074mmフルイ指定の±5% |
| | 乗入舗装 | 再生密粒度 アスコン 518 m ² | 温度測定 (初期締固め前) | トラック1台毎 | — | 工程能力図 | 測定時 | — | 午前午後 各1回 | |
| | | | 抜き取りコア密度測定 | 出来形管理計画 (10ヶ所につき1回) | 2 | 試験成績表 工程能力図 | 〃 | — | 1回 | 2.0t/m ² 以上 |
| | | | 抜き取りコアのアスファルト量抽出試験 | 上記コア 1/2 | 1 | 工程能力図 | 試験時 | — | 〃 | 指定の-0.9%以上 |
| | | | 抜き取りコアの粒度 分析試験 | 〃 | 1 | 試験成績表 | 〃 | — | 〃 | 2.5mmフルイ指定の±12% 0.074mmフルイ指定の±5% |

(2) 品質管理計画及び写真管理計画-4

| 工種 | 種 別 | | 作 業 量 | 品 質 管 理 | | | | 品 質 写 真 | | | 摘 要 |
|---------------------------------------|------------------|--------------------|---|---|--------------------------|--------------|----------------|----------|--------|--|---------------------------------------|
| | | | | 試 験 項 目 | 測点及び位置 | 試験回数 | 管理方法 | 時期 | 測点及び位置 | 回数 | |
| ア ス フ ア ルト 舗 装 工 | 舗 設 現 場 | 支 道 舗 装 | 再生密粒度 アスコン 327 m ² | 温度測定 (初期締固め前) | トラック 1 台毎 | — | 工程能力図 | 測 定 時 | — | 午前午後 各 1 回 | |
| | | | | 抜き取りコアー密度測定 | 出来形管理計画 (10ヶ所につき 1 回) | 1 | 試験成績表 工程能力図 | 〃 | — | 1 回 | 2.0 t / m ² 以上 |
| | | | | 抜き取りコアーのアスフ ルト量抽出試験 | 上記コアー 1/2 | 1 | 工程能力図 | 試 験 時 | — | 〃 | 指定の-0.9%以上 |
| | | | | 抜き取りコアーの粒度 分析試験 | 〃 | 1 | 試験成績表 | 〃 | — | 〃 | 2.5 mmフルイ指定の±12% 0.074 mmフルイ指定の±5% |
| コ ン ク リ ー ト | 材 | 料 | — | 粒度試験 比重・吸水量 あらい試験 粘土塊土試験 塩分試験 粒度偏平率 安定性試験 スリヘリ減量試験 | 当初及び変動が認められる場合 | 配合毎 各 1 回 | 試験成績表 | — | — | — | |
| | 施 工 | σ 160-8-40 220□ | スランプ試験 | 打設日毎午前午後 各 1 回 | — | 工程能力図 | 試 験 時 | 工種毎各 1 回 | 3 回 | ±2.5 cm以内 | |
| | | | 圧縮強度試験 ($\sigma_{\gamma} \cdot \sigma_{28}$) | 使用数量 50□に 1 回 | — | 〃 | 〃 | 〃 | 6 回 | 測定値の平均 \geq 呼び強度 測定値 \geq 呼び強度の 85% | |
| | | σ 210-12-20 27□ | スランプ試験 | 打設日毎午前午後 各 1 回 | — | 工程能力図 | 試 験 時 | 工種毎各 1 回 | 3 回 | ±2.5 cm以内 | |
| | | | 圧縮強度試験 ($\sigma_{\gamma} \cdot \sigma_{28}$) | 使用数量 50□に 1 回 | — | 〃 | 〃 | 〃 | 2 回 | 測定値の平均 \geq 呼び強度 測定値 \geq 呼び強度の 85% | |
| | | | 塩化物量試験 | 1 工事/ 1 回 | 1 | 試験成績表 | 使 用 前 | 〃 | 1 回 | | |

(3) 材料検査(検収)及び写真管理計画

| 種 別 | 細 別 | 確認の時期 | 材料検査の頻度 | 確 認 事 項 | | | 検 収 写 真 | | | 備 考 |
|----------------|---------------------------------|-------|------------------|-------------|---------------|----|---------|------------|--------------|--------|
| | | | | 品質・規格 | 形状寸法 | 数量 | 撮影項目 | 撮影時期 | 撮影回数 | |
| コンクリート 二次製品 | 歩車道境界ブロック 地先境界ブロック ハンドホール | 使用前 | 入荷毎、又は入荷前にまとめて1回 | 製造所発行の品質証明書 | 幅・長さ・高さ | — | 形状寸法 | 使用前 | 形状寸法の異なる毎に1回 | |
| | ヒューム管 | 使用前 | 入荷毎、又は入荷前にまとめて1回 | 製造所発行の品質証明書 | 管径・管長・長さ | — | 形状寸法 | 使用前 | 形状寸法の異なる毎に1回 | |
| | 管渠型側溝 | 使用前 | 入荷毎、又は入荷前にまとめて1回 | 製造所発行の品質証明書 | 幅・長さ・高さ 管径 | — | 形状寸法 | 使用前 | 形状寸法の異なる毎に1回 | |
| 鋼 材 | 鋼製蓋版 | 使用前 | 入荷毎、又は入荷前にまとめて1回 | 製造所発行の品質証明書 | 幅・長さ・高さ | — | 形状寸法 | 使用前 | 形状寸法の異なる毎に1回 | |
| | 鉄 筋 | 使用前 | 入荷毎、又は入荷前にまとめて1回 | 製造所発行の品質証明書 | 単位重量測定 | — | 形状寸法 | 使用前 | 形状寸法の異なる毎に1回 | |
| 歴青材 | アスファルト乳剤 | 使用前 | 入荷毎、又は入荷前にまとめて1回 | 製造所発行の品質証明書 | — | 重量 | 数 量 | 使用前 使用後 | 種別毎 各1回 | |
| その他 | 波付硬質ポリ管 | 使用前 | 入荷毎、又は入荷前にまとめて1回 | 製造所発行の品質証明書 | 管 径 | — | 形状寸法 | 使用前 | 1回 | |
| | ガードパイプ | 使用前 | 入荷毎、又は入荷前にまとめて1回 | 製造所発行の品質証明書 | 長さ・高さ | — | 数 量 | 使用前 | 1回 | (支柱のみ) |
| | | | | | | | | | | |

(4) 写真管理計画

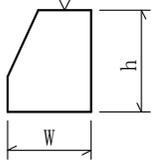
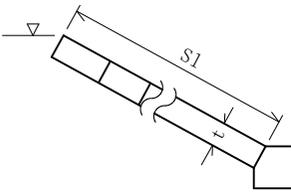
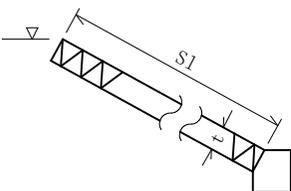
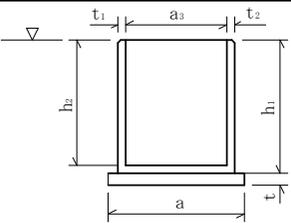
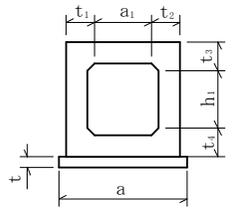
| 写真の種類 | 工 種 | 種 別 | 撮 影 項 目 | 撮影時期 | 撮 影 頻 度 | 備 考 |
|---------------------|------------|---------------------|-----------------------|-------|---------------------------|----------------------------------|
| 工 程 写 真 | 工 程 | 着 手 前 | 追い写真による全景 | 着 手 前 | 着手前に1回 | |
| | | 完 成 | 〃 | 完 成 時 | 完成時に1回 | 着手前と同じ位置 |
| そ の 他 | 図面・現場との不一致 | 調 査 | 図面・現場との不一致の状況 | 発 生 時 | 必要に応じて | |
| | 仮 設 状 況 | 仮 設 状 況 | 仮 設 状 況 | 完 成 時 | 施工箇所・仮設種類毎に1回 | |
| | | | 使 用 材 料 | 施 工 時 | 〃 | |
| | | | 形 状 寸 法 ・ 数 量 確 認 | 完 成 時 | | |
| | 安 全 施 設 | 安 全 施 設 | 各 種 安 全 施 設 の 設 置 状 況 | 設 置 時 | 各 種 類 毎 に 1 回 | 工事看板・予告看板・保安柵及び夜間の状況 |
| | | | 〃 | 施 工 時 | 〃 | 保安要員の状況 (誘導員・安全巡視員等) |
| | | そ の 他 | そ の 他 行 事 等 | 随 時 | 〃 | 社内安全とパトロール 安全ミーティング等 |
| | 交 通 管 理 | 交 通 安 全 施 設 | 各 種 安 全 施 設 の 設 置 状 況 | 設 置 時 | 施 工 箇 所 ・ 対 策 種 類 毎 に 1 回 | |
| | | | 〃 | 施 工 時 | 〃 | |
| | | | 交 通 整 理 状 況 | 〃 | 〃 | |
| | | 積 載 超 過 運 搬 防 止 対 策 | 主 要 資 材 の 積 載 状 況 | 計 測 時 | 抜 き と り | 残土・コンクリート二次製品 路盤材・加熱アスファルト混合物 |
| | | | 〃 | 入 荷 時 | 〃 | 〃 |
| | 環 境 対 策 | 騒音・振動・濁水・ 防塵等 | 各 対 策 施 設 の 状 況 | 設 置 時 | 各 種 類 毎 に 1 回 | |
| | 災 害 | 災 害 状 況 | 被 災 状 況 | 被 災 時 | その都度、必要に応じて | |
| | | | 被 災 数 量 | 被 災 時 | | |
| イ メ ー ジ ア ヱ ッ プ 対 策 | | 対 策 状 況 | 設 置 時 | 1 回 | | |

・ 施工管理計画(事例 3 - 河川)

- (1) 出来形管理基準及び写真管理計画
- (2) 品質管理計画及び写真管理計画
- (3) 材料検査(検収)及び写真管理計画
- (4) 写真管理計画(工程、その他)

施工管理計画（事例3－河川工事）

(1) 出来形管理計画及び写真管理計画-1

| 工 種 | 種 別（細別） | 出 来 形 管 理 | | | 工 事 写 真（出来形） | | 状 況 写 真 | |
|---------------------------------|---|------------------|--|------|--|--|--|--|
| | | 項 目 | 測点及び位置 | 管理方法 | 撮影項目 | 測 点 | | |
| コンクリート胴木 1号、2号胴木 コンクリート基礎 |  | 基準高 (▽) | No.10+0 No.14+0 No.16+0 No.18+0 No.20+0 No.22+0 No.24+0 No.26+0 No.27+17.6 No.29+2 No.31+0 No.33+0 No.35+0 No.37+0 No.38+6.4 | 出来形図 | W h | No.10+0 No.16+0 No.20+0 No.24+0 No.27+17.6 No.29+2 No.33+0 No.37+0 | 型枠組立 コンクリート打設 排水 床掘 完成全景 | 施工時 1回 " " 完了時 1回 完成時 1回 |
| | | 幅 (W) | | | | | | |
| | | 高さ (h) | | | | | | |
| | | 延長 (L) | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 植石ブロック張り |  | 基準高 (▽) | No.10+0 No.12+0 No.14+0 No.16+0 No.18+0 No.24+0 No.26+0 No.27+17.6 No.29+2 No.31+0 No.33+0 No.35+0 No.37+0 No.38+6.4 | 出来形図 | S1 t | No.10+0 No.16+0 No.18+0 No.24+0 No.27+17.6 No.29+2 No.33+0 No.37+0 | 据付状況 裏込め材 連結状況 コンクリート充填 中詰栗石 完成全景 | 施工時 1回 " " " " 完成時 1回 |
| | | 法長 (S1) | | | | | | |
| | | 厚さ (t) | | | | | | |
| | | 延長 (L) | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 間知ブロック練張 " 練積 |  | 基準高 (▽) | No.14+0 No.16+0 No.18+0 No.20+0 No.22+0 No.24+0 No.26+0 No.27+17.6 No.29+2 No.31+0 No.33+0 No.35+0 No.37+0 No.38+6.4 | 出来形図 | S1 t | No.14+0 No.18+0 No.22+0 No.26+0 No.29+2 No.33+0 No.37+0 | 据付状況 裏込め材 胴込めコンクリート打設 完成全景 | 施工時 1回 " " 完成時 1回 |
| | | 法長 (S1) | | | | | | |
| | | 厚さ (t) | | | | | | |
| | | 延長 (L) | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 取 水 樋 門 (1.2.3号集水樋) |  | 基準高 (▽) | 1号集水樋 2号 " 3号 " | 出来形図 | a3 h1 h2 t1 t2 a t | 1号集水樋 2号 " 3号 " | 床掘 排水 基礎全景 配筋全景 コンクリート打設 完成全景 | 完了時 1回 施工時 1回 完了時 1回 完了時 1回 施工時 1回 完成時 1回 |
| | | 幅 (a3) | | | | | | |
| | | 高さ (h1、h2) | | | | | | |
| | | 厚さ (t1、t2) | | | | | | |
| | | 基礎幅 (a) | | | | | | |
| | | 基礎厚 (t) | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 取 水 樋 門 |  | 基準高 (▽) | 1 施工箇所につき 2 箇所 | 出来形図 | a1 h1 t1 t2 t3 t4 L a t | 1 施工箇所につき 1 箇所 | 床掘 排水 基礎全景 配筋全景 コンクリート打設 完成全景 | 完了時 1回 施工時 1回 完了時 1回 完了時 1回 施工時 1回 施工時 1回 |
| | | 幅 (a1) | | | | | | |
| | | 高さ (h1) | | | | | | |
| | | 厚さ (t1 t2 t3 t4) | | | | | | |
| | | 延長 (L) | | | | | | |
| | | 基礎幅 (a) | | | | | | |
| | | 基礎厚 (t) | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

(1) 出来形管理計画及び写真管理計画-2

| 工 種 | 種 別 (細 別) | 出 来 形 管 理 | | | 工 事 写 真 (出 来 形) | | 状 況 写 真 | | | | |
|----------|-------------|--------------------------------------|-------------------|------|-------------------------------|-------------------|-----------|-----|----|--|--|
| | | 項 目 | 測点及び位置 | 管理方法 | 撮影項目 | 測 点 | | | | | |
| コンクリート管渠 | | 基準高 (▽) | 1号管渠 | 出来形図 | | 1号管渠 | 床掘 | 完了時 | 1回 | | |
| | | 幅 (a ₁) | 2号 " | | a | 2号 " | 基礎全景 | " | | | |
| | | 高さ (h) | 3号 " | | h | 3号 " | 型枠組立 | " | | | |
| | | 延長 (L) | 4号 " | | L | 4号 " | 配筋全景 | " | | | |
| | | 基礎幅 (a) | 1 施工箇所につき 2 箇所 | | a | 1 施工箇所につき 1 箇所 | コンクリート打設 | 施工時 | 1回 | | |
| | | 基礎厚 (t) | | | t | | 管渠全景 | 完成時 | 1回 | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 河 川 土 工 | | 基準高 (▽) | No.10+0 No.12+0 | 出来形図 | | No.10+0 No.14+0 | 巻き出し | 施工時 | 1回 | | |
| | | 幅 (B) | No.14+0 No.16+0 | | No.18+0 No.20+0 | No.18+0 No.22+0 | 段切表面かきおこし | " | | | |
| | | 法長 (S1) | No.22+0 No.24+0 | | No.26+0 No.29+0 | No.26+0 No.29+0 | 転圧状況 | " | | | |
| | | | No.26+0 | | No.33+0 No.35+0 | No.33+0 No.37+0 | 土羽打締め固め状況 | " | | | |
| | | | No.27+17.6 | | No.37+0 | | 完成全景 | 完成時 | 1回 | | |
| | | | No.29+2 No.31+0 | | | | | | | | |
| | | | No.33+0 No.35+0 | | | | | | | | |
| 水 路 | | 基準高 (▽) | 1号水路 | 出来形図 | | 1号水路 | 床掘 | 施工時 | 1回 | | |
| | | 幅 (a ₃) | No. 6+0 No. 8+0 | | a ₃ | No. 6+0 No.10+0 | 基礎全景 | 完了時 | 1回 | | |
| | | 高さ (h) | No.10+0 No.11+0 | | h | No.13+0 | コンクリート打設 | 施工時 | 1回 | | |
| | | 厚さ (a ₁ 、a ₂) | No.13+0 | | a ₁ a ₂ | | 完成全景 | 完了時 | 1回 | | |
| | | 延長 (L) | | | a | | | | | | |
| | | 基礎幅 (a) | | | t | | | | | | |
| | | 基礎厚 (t) | | | | | | | | | |
| 張 芝 工 | | 土羽厚 (t) | No. 6+0 No. 8+0 | 出来形図 | t | No. 6+0 No.10+0 | 土羽打締め固め状況 | 施工時 | 1回 | | |
| | | | No.10+0 No.12+0 | | | No.14+0 No.24+0 | | | | | |
| | | | No.14+0 No.16+0 | | | No.30+0 No.38+0 | | | | | |
| | | | No.24+0 No.30+0 | | | | | | | | |
| | | | No.38+0 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| コンクリート壁 | | 基礎幅 (a) | 1 施工箇所につき | 出来形図 | a | 1 施工箇所につき | 床掘 | 完了時 | 1回 | | |
| | | 基礎厚さ (t) | 2 箇所 | | t | 1 箇所 | 締固め | 施工時 | 1回 | | |
| | | 基準高 (▽) | | | | | 砕石基礎全景 | 完成時 | 1回 | | |
| | | 幅 (a ₁ 、a ₂) | | | a ₁ a ₂ | | コンクリート打設 | 施工時 | 1回 | | |
| | | 高さ (h) | | | h | | 養生 | 養生時 | 1回 | | |
| | | 延長 (L) | | | L | | 取上寸法 | 全数 | 1回 | | |
| | | | | | | | 擁壁全景 | 完成時 | 1回 | | |

(2) 品質管理計画及び写真管理計画

| 工 種 | 名 称 | 作 業 量 | 品 質 管 理 | | | | 写 真 | | |
|----------------|----------------------|--------------|--|---|-----|---------|--------------|------------|-----|
| | | | 試 験 項 目 | 測 点 及 位 置 | 回 数 | 管 理 方 法 | 時 期 | 測 点 及 位 置 | 回 数 |
| コンクリート | 160-8-40 210-8-25 | 351□ 137〃 | 空気量試験 スランプ試験 | 打設日 午前 午後 | 打設毎 | 工程能力図 | 試 験 完 了 時 | 適 宜 | 打設毎 |
| | | | 圧縮強度試験 $\sigma_7 \cdot \sigma_{28}$ | 210-8-20 は 打設日午前午後 160-8-40 は 打設日1回 胴 込 150□ / 1回 | 45回 | 工程能力図 | 〃 | 〃 | 45回 |
| | | | 塩化物量試験 | 打設日 午前 午後 | 〃 | 試験成績表 | 〃 | 〃 | 〃 |
| コンクリート 2次製品 | 間知ブロック | 15160個 | 圧縮強度試験 | 1~2000 2000~5000 5000~10000 10000以上 各1回 | 4回 | 工程能力図 | 試 験 完 了 時 | エアー 抜取場 | 4回 |
| | 植石ブロック | 2176〃 | 〃 | 〃 | 2回 | 〃 | 〃 | 〃 | 2回 |
| | 連節ブロック | 1077〃 | 〃 | 〃 | 1回 | 試験成績表 | 〃 | 〃 | 1回 |
| 河 川 土 工 | | 2900□ | 平板載荷試験 | 3層 100m / 回 | 12回 | 工程能力図 | 試 験 完 了 時 | 適 宜 | 12回 |
| 遮 水 シ ー ト | 止水シート 補強マット | 624㎡ | 特別仕様書 参照 | 20,000㎡に 1回 | 1回 | 品質証明書 | 〃 | 試験場 | 1回 |
| 鉄 筋 | SD295 D13 D16 D19 | 11.5t | 引張試験 曲げ試験 | 使 用 前 | 各1回 | 試験成績表 | 〃 | 〃 | 各1回 |

(3) 材料検収及び写真管理計画

| 工 種 | 種 別 | 撮 影 項 目 | 撮影時期 | 撮 影 頻 度 | 摘 要 | | | | |
|--------|----------|------------|------|--------------|-----|--------------|--------------|--------------|--|
| 取水樋門工 | 鉄 筋 | 規格・形状寸法・数量 | 使用前 | 形状寸法の異なる毎に1回 | | | | | |
| | タラップ | 〃 | | 〃 | | | | | |
| | ネットフェンス | 〃 | | 〃 | | | | | |
| | 止水板 | 〃 | | 〃 | | | | | |
| | 目地材 | 〃 | | 〃 | | | | | |
| | C-BOX | 〃 | | 〃 | | | | | |
| | ヒューム管 | 〃 | | 〃 | | | | | |
| ブロック積工 | 間知ブロック | 規格・形状寸法・数量 | 使用前 | 形状寸法の異なる毎に1回 | | | | | |
| | 目地材 | 〃 | | 〃 | | | | | |
| 仮締切工 | 連節ブロック | 規格・形状寸法・数量 | | 使用前 | | 形状寸法の異なる毎に1回 | | | |
| | 吸出防止材 | 〃 | | | | 〃 | | | |
| 護岸工 | 植石ブロック | 規格・形状寸法・数量 | | | | 使用前 | | 形状寸法の異なる毎に1回 | |
| | 間知ブロック | 〃 | | | | | | 〃 | |
| | 遮水シート | 〃 | | | | | | 〃 | |
| | 目地材 | 〃 | 〃 | | | | | | |
| | 布団籠 | 〃 | 〃 | | | | | | |
| 雑 工 | コンクリート水路 | 規格・形状寸法・数量 | 使用前 | 形状寸法の異なる毎に1回 | | | | | |
| | ヒューム管 | 〃 | | 〃 | | | | | |
| | 目地材 | 〃 | | 〃 | | | | | |
| 芝付工 | 筋 芝 | 規格・数量 | | 使用前全数 | | | | | |
| 土留工 | 矢 板 | 規格・形状寸法・数量 | | | | | 形状寸法の異なる毎に1回 | | |

(4) 写真管理計画

工程写真管理計画

| 工 種 | 種 別 | 撮 影 項 目 | 撮影時期 | 撮 影 頻 度 | 摘 要 |
|-----|-------|----------|------|---------|-----|
| 工 程 | 着 工 前 | 全景及び代表部分 | 着工前 | 1 回 | |
| | 完 成 | 〃 | 完成時 | 1 回 | |

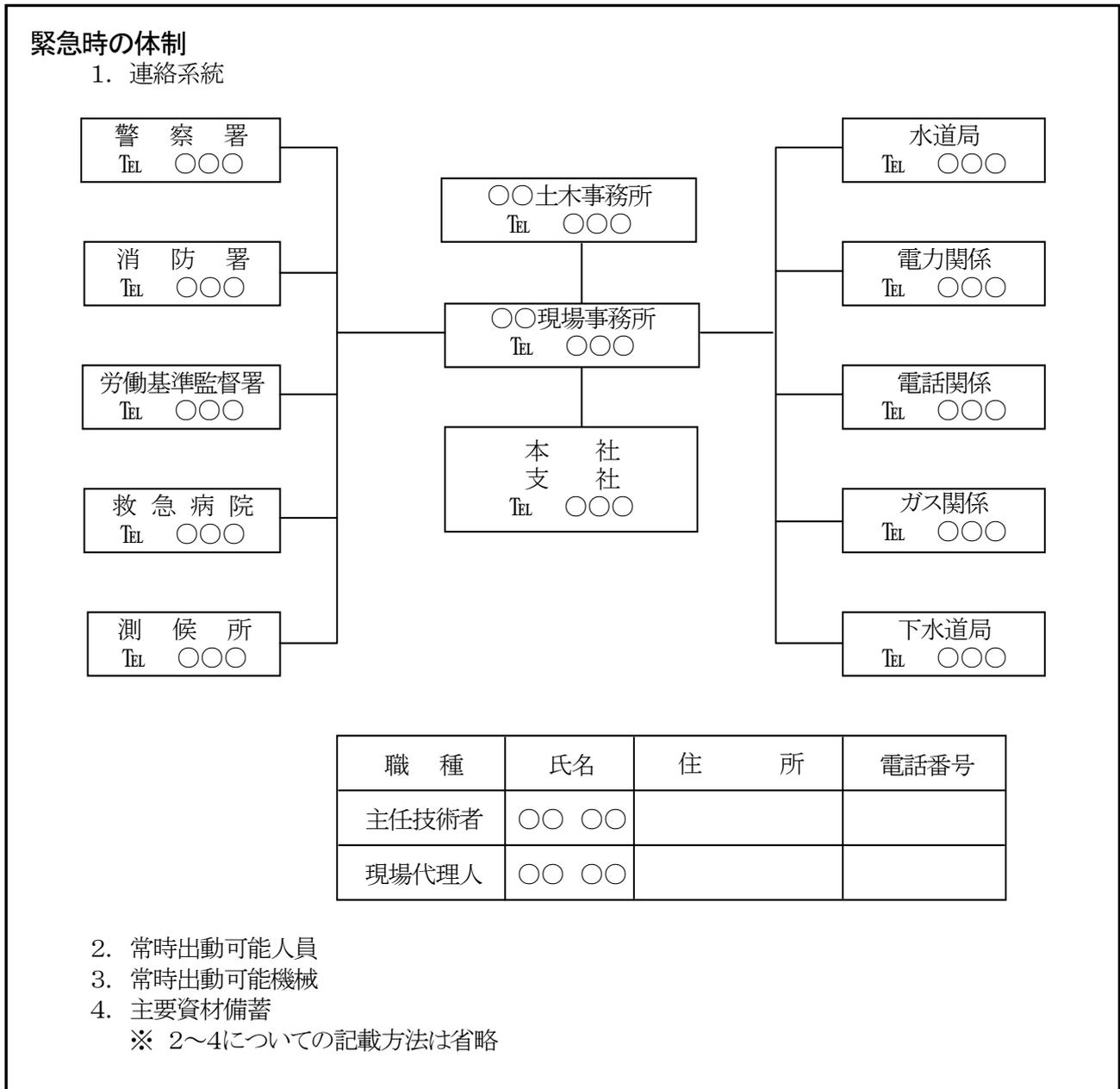
その他の写真管理計画

| | | | | | |
|---------------|-------------|-----------------|------------|----------------------|---------|
| 図面、現場の 不一致 | | 図面、現場の 不一致状況 | 発生時 | 必要に応じて | |
| 仮設状況 | 任 意 仮 設 | 仮設状態 | 完成時 | 仮設種類毎又は、 施工箇所毎に1回 | |
| 安全管理 | 安 全 施 設 | 安全施設設置状況 | 設置時 施工時 | 各種類毎に1回 | |
| 交通管理 | 交 通 安 全 施 設 | 交通安全施設設置状況 | 設置時 施工時 | 設置箇所毎に1回 | 変更の都度撮影 |
| 積載超過 防止対策 | 積 載 量 | 積載状況 | 計測時 入荷時 | 各資材毎に1回 | |
| 災害状況 | | 災害状況 | 被災時 | その都度必要に応じて | |
| | | 被災出来高 | 被災後 | | |
| イメージアップ対策 | | 対策状況 | 設置等 | 1 回 | |

9. 緊急時の体制及び対応

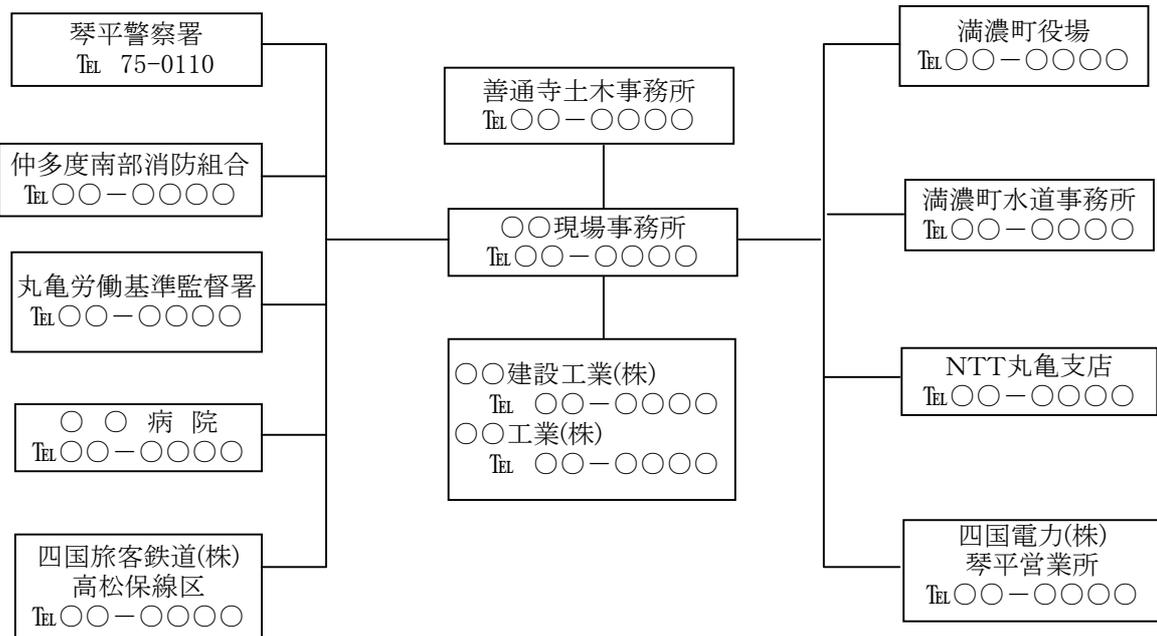
事故あるいは災害等の緊急事態の発生時に関しても、工事監督員及び関係機関への連絡方法及び職員、労務者の動員の可能性の有無、人員についても十分な打合せを行い決定しておくほか、必要な材料、機械についても常にその状況を把握できるよう定めておかなければならない。

【記入例：緊急時の体制】



・ 緊急時の体制及び対応（事例）

1) 連絡系統



【休日・夜間の連絡先】

| 職 種 | 氏 名 | 住 所 | 電話番号 |
|------------------|-----|-----|------|
| 現場代理人 | | | |
| 主任技術者又は 監理技術者 | | | |
| | | | |
| | | | |

2) 常時出動可能人員

| | |
|-------|---|
| 社員 | 人 |
| 一般世話役 | 人 |
| 特殊運転手 | 人 |
| 普通作業員 | 人 |

3) 常時可能出動機械

| | |
|--------------------------|---|
| 0.7m ³ 級バックホウ | 台 |
| 0.4m ³ 級バックホウ | 台 |
| 10 t ダンプカー | 台 |

4) 主要資材備蓄

| | |
|--------|----|
| 土のう袋 | 袋 |
| ブルーシート | 枚 |
| 番線 | kg |

10. 交通管理

工事実施にあたっては、道路交通の安全と円滑化を図るため、道路機能を十分に発揮させるよう配慮するとともに、交通事故の発生を未然に防止するよう考慮しなければならない。

工事着手にあたっては、事前に、工事方法、施工順序に対応した交通処理方法を十分に打ち合わせるものとするが、一般的には次の項目を明確にする必要がある。

- 1) 交通安全対策（交通安全一般事項、交通整理人等配置計画）
- 2) 交通切り廻し計画（工事中の一時通行止め、制限時間）
- 3) 保安施設設置計画
- 4) 現道補修、防塵処理等の時期、方法
- 5) 主要材料の搬入経路（土、コンクリート、アスファルト合材等の運搬）
- 6) 資材等の積載超過運搬防止対策
- 7) その他

【記入例：交通管理】

交通管理

1. 交通安全管理

- イ) 危険区域には、警戒標識、保安灯、バリケード等を設置して、安全管理に努める。
- ロ) 仮設防護柵設置箇所には防護柵内部で、その他はできる限り外線部より外側で作業する。

2. 片側通行対策等

- イ) 片側通行にて施工する場合は、開始前に十分な準備（保安対策）を整えて、一般車両や、歩行者が安全に通行できるよう、また、交通の混雑をまねかないようにする。
- ロ) 交通整理は、原則として所定の服装（ゼブラチョッキ）をした交通整理人（交通誘導警備検定〔1級または2級〕合格者）を配置し、交通の安全確保に努める。ただし、交通誘導警備検定合格者を配置できない場合は、警備員名簿及び教育実施状況等に関する資料等により、主任監督員が交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有する警備員等と認めた者であること。

3. 保安施設配置計画

- イ) 工事施工箇所には、通行人及び通行車両が見やすい所に、工事中標識板、工事協力依頼板、〇〇m先・〇〇m先工事予告板を起、終点側にそれぞれ設置して、安全かつスムーズに通行できるようにする。
- ロ) 仮設防護対策設置箇所には、特に保安施設設置に注意して施工する。
- ハ) 夜間にはチューブライトを設置し、点滅灯を50mピッチ未満に設置し、バリケード及びトラロープを張り、一般通行人が乗り入れないように注意を促し、工事箇所に立ち入ることのないようにする。
- ニ) 保安施設に使用する標識、看板及び設置要領は（図-1）に添付する。

4. 市町道等及び出入り口対策

市町道等出入り口前で行う場合には、出入り口確保及び歩行者の安全通行ができるよう努める。

5. 交通規制

片側通行で施工する場合には、交通ラッシュ時間帯を避けて実施する。

6. 現道補修

工事現場内は常に整備して、交通事故等の発生を防止するように維持管理に努める。

7. 主要材料の搬入（搬出）経路

（図－４）

8. 積載超過運搬防止対策

(1) 運搬車両及び登録ナンバー

①運搬車両の登録ナンバー、積載重量、運転手名簿の一覧表を提出する。

②納入業者より誓約書を取り社内教育を徹底させる。

(2) 各種資材の積載量の確認方法

①生コンクリート

重量換算表

| 単 位 重 量 | 4 t 車 | 1 0 t 車 |
|-----------------------|--------------------|--------------------|
| 2. 4 t/m ³ | 1. 5m ³ | 4. 0m ³ |

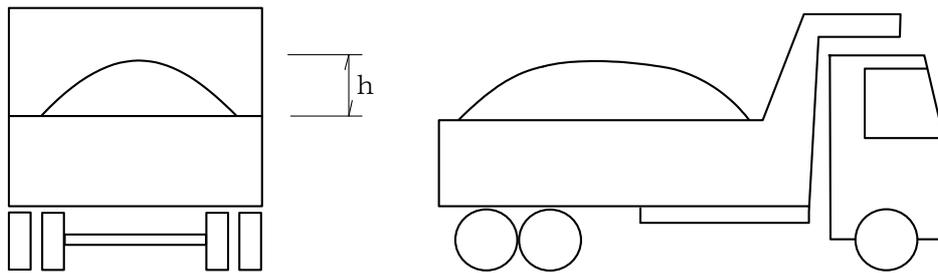
トラックスケール、納入伝票にて確認する。

②購入土、砕石等

重量換算表

| 品 名 | 単 位 重 量 | 1 0 t 車 |
|-------|----------------------------|--------------------|
| 購 入 土 | 見掛重量 1. 6t/m ³ | 6. 0m ³ |
| 流 用 土 | 見掛重量 1. 6t/m ³ | 6. 0m ³ |
| 砕 石 | 見掛重量 1. 54t/m ³ | 6. 5m ³ |
| 栗 石 | 見掛重量 1. 54t/m ³ | 6. 5m ³ |

トラックスケール、荷姿及び納入伝票により確認する。



hの目安をトラックスケール計測結果により定める。

荷 姿

③その他 重量換算表

| 品 名 | 規 格 | 単位重量 | 運 搬 車 両 | | | |
|----------|----------------|----------|---------|-------|-------|-------|
| | | | 2 t 車 | 4 t 車 | 6 t 車 | 8 t 車 |
| 間知ブロック | 控35cm | 41.2kg/個 | 48個 | 97個 | | |
| ヒューム管 | φ 600 | 660kg/本 | | 6本 | | 12本 |
| H 鋼 | H300×300×10×15 | 940kg/本 | | 4本 | | 8本 |
| 鉄 筋 | D 3 2 1 = 0.8m | 62.3kg/m | | 80本 | | 160本 |
| ライナープレート | φ 300 | 30.9kg/m | | 125枚 | | 250枚 |

資材搬入時にトラックスケールまたは、載荷量実測により計測を行い、荷姿の写真撮影をして日々管理の見本とし、対比して積載管理を行う。

9. 自主検査、荷姿確認、トラックスケール

下記の要領で自主検査を行い成果表を提出する。

| 品 名 | 設 計 数 量 | 検 査 回 数 |
|-------|---------------------|---------|
| 生 コ ン | 2,499m ³ | 2回 |
| 購 入 土 | 4,700m ³ | 2回 |
| 砕 石 | 513m ³ | 1回 |
| 栗 石 | 835m ³ | 1回 |
| そ の 他 | | 各々1回 |

資 材 等 運 搬 車 両 一 覧 表

土砂、切込砕石、仮設材運搬者量及び運転者名簿

| 登 録 番 号 | 車 種 | 最大積載量 | 運 転 者 名 | 所 有 者 名 | 摘 要 |
|-----------------|-----|------------|---------|---------|--------------------|
| 〇〇 〇〇 〇〇〇-〇〇 | 〇 〇 | kg 〇〇〇〇 | 〇〇 〇〇 | 〇〇 〇〇 | ダンプトラック |
| 〇〇 〇〇 〇〇〇-〇〇 | 〇 〇 | kg 〇〇〇〇 | 〇〇 〇〇 | 〇〇 〇〇 | ダンプトラック |
| 〇〇 〇〇 〇〇〇-〇〇 | 〇 〇 | kg 〇〇〇〇 | 〇〇 〇〇 | 〇〇 〇〇 | 〇〇 t クレーン 付トラック |

生コンクリート運搬車両名簿

〇〇建設（株）

| 登 録 番 号 | 車 種 | 最大積載量 | 運 転 者 名 | 摘 要 |
|-----------------|-----|------------|---------|-------------|
| 〇〇 〇〇 〇〇〇-〇〇 | 〇 〇 | kg 〇〇〇〇 | 〇〇 〇〇 | コンクリートミキサー車 |
| 〇〇 〇〇 〇〇〇-〇〇 | 〇 〇 | kg 〇〇〇〇 | 〇〇 〇〇 | コンクリートミキサー車 |
| 〇〇 〇〇 〇〇〇-〇〇 | 〇 〇 | kg 〇〇〇〇 | 〇〇 〇〇 | コンクリートミキサー車 |

納入業者からの誓約書記載方法については省略。

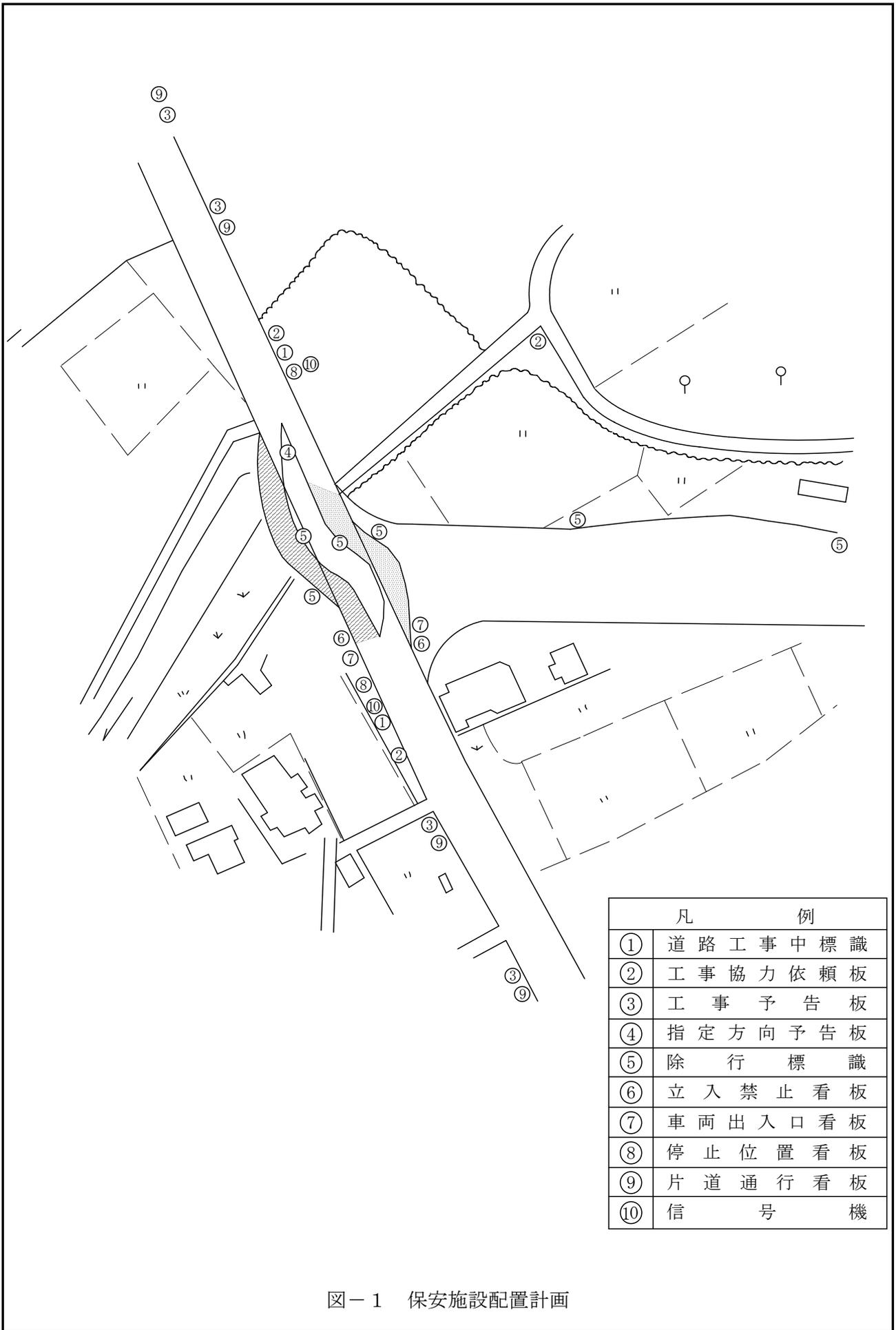


図-1 保安施設配置計画

・ 交通管理(事例 1)

1) 交通安全対策

- ① 工事関係車両の運転手には、交通法規を遵守するように安全会議等を通じて指導徹底する。
- ② 工事保安施設の種類及び設置個所は、別図のとおりとする。

2) 主要資材搬入経路

別図のとおり

3) 特殊車両の通行

道路法第 4 7 条第 1 項及び道路交通法等で制限された車両の使用にあたっては、許可証の写しを事前に工事監督員に提出する。

4) 積載超過防止対策

① 運搬車両及び登録ナンバー

- i 運搬車両の登録ナンバー・積載受領・運転手名簿の一覧表を提出する。
- ii 納入業者について社内教育を徹底させる。

② 資材等の搬入について

積載超過防止対策としての積載量の確認は、下記の方法によって行う。

- i 生コンクリート 納入伝票により確認する。
- ii 砕石・運土量 積載体積により確認する。
- iii アスファルト合材 納品伝票により確認する。
- iv コンクリート二次製品 1 個あたりの単位重量が把握できるので、最大積載量を確認し、積載可能数量内で運搬させる。
- v その他の資材 上記に準ずる。

③ 各種資材の確認方法

i 生コンクリート

| | | |
|----------------------|--------------------|--------------------|
| 単 位 重 量 | 4 t 車 | 10 t 車 |
| 2.4 t/m ³ | 1.5 m ³ | 4.0 m ³ |

ii 砕石

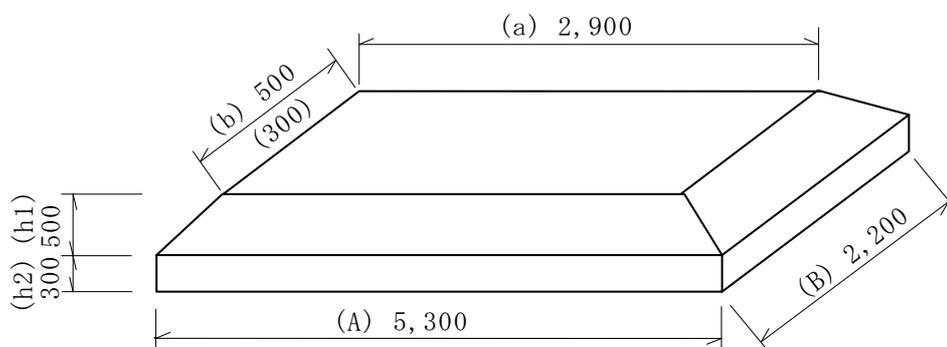
| | | |
|-----------------------|--------------------|--------------------|
| 単 位 重 量 | 4 t 車 | 10 t 車 |
| 1.54 t/m ³ | 2.5 m ³ | 6.5 m ³ |
| 1.35 t/m ³ | 2.9 m ³ | 8.1 m ³ |

iii コンクリート二次製品

| 品名 | 単位重量 | 4 t車 | 10 t車 |
|--------|-----------|------|-------|
| 大型ブロック | 1,196kg/個 | 3個 | 9個 |
| ベンチュリー | 142kg/本 | 28本 | 77本 |
| U字溝 | 103kg/本 | 38本 | 106本 |
| 蓋版 | 72kg/枚 | 55枚 | 152枚 |

ダンプトラックの積載計算

最大積載量 9.75の場合



ほぐした土量 (VL)

$$\begin{aligned}
 VL &= h1 / 6 \times \{ A \times b + a \times B + 2 (a \times b + A \times B) \} + A \times B \times h2 \\
 &= (0.5 \times 35.25 / 6) + 3.498 \quad \doteq \quad 6.44 \alpha \\
 &= (0.5 \times 33.00 / 6) + 3.498 \quad \doteq \quad 6.24 \alpha
 \end{aligned}$$

土砂積載

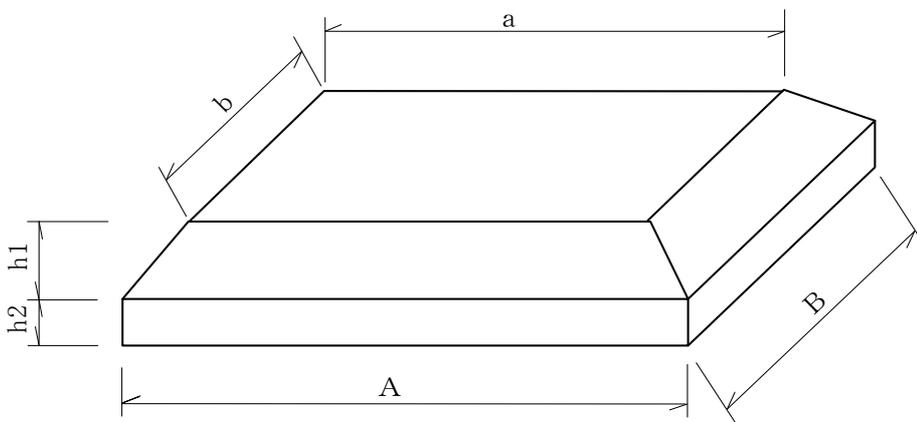
$$\begin{aligned}
 W &= (VL / L) \times \gamma (t / \alpha) \\
 &= 6.44 \times 1.80 / 1.80 / 1.20
 \end{aligned}$$

上記計算によって積載量を次頁に示し、この積載量を守り運搬を行う。

最大積載量と積み込み量との関係

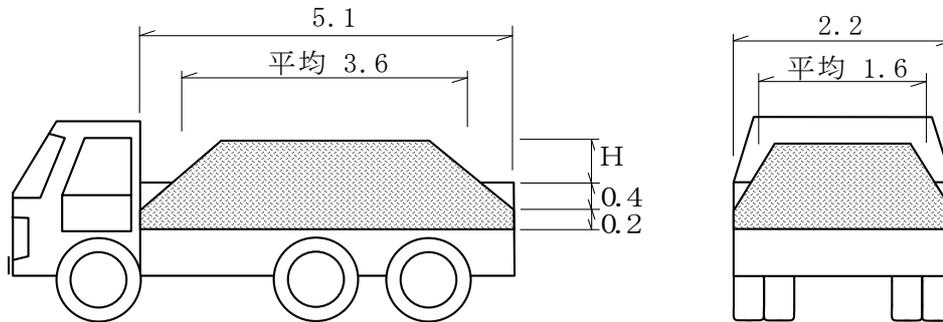
土砂積込時

| 最大積載量 | 積込土量 | A | B | a | b | h 1 | h 2 |
|---------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 土 砂 | | | | | | |
| 9.75 t | 9.7 t | 5.3m | 2.2m | 2.9m | 0.5m | 0.5m | 0.3m |
| 10.00 t | 10.0 t | 5.3m | 2.2m | 3.4m | 0.6m | 0.5m | 0.3m |
| 10.25 t | 10.2 t | 5.3m | 2.2m | 3.4m | 0.7m | 0.5m | 0.3m |
| 10.50 t | 10.3 t | 5.3m | 2.2m | 3.4m | 0.8m | 0.5m | 0.3m |



積載重量の計算

イ) 10 t ダンプ (土砂・砕石・合材)



計算式

$$5.1 \times 2.1 \times 0.2 + 3.60 \times 1.6 \times (0.4 + H) = \text{積載量}$$

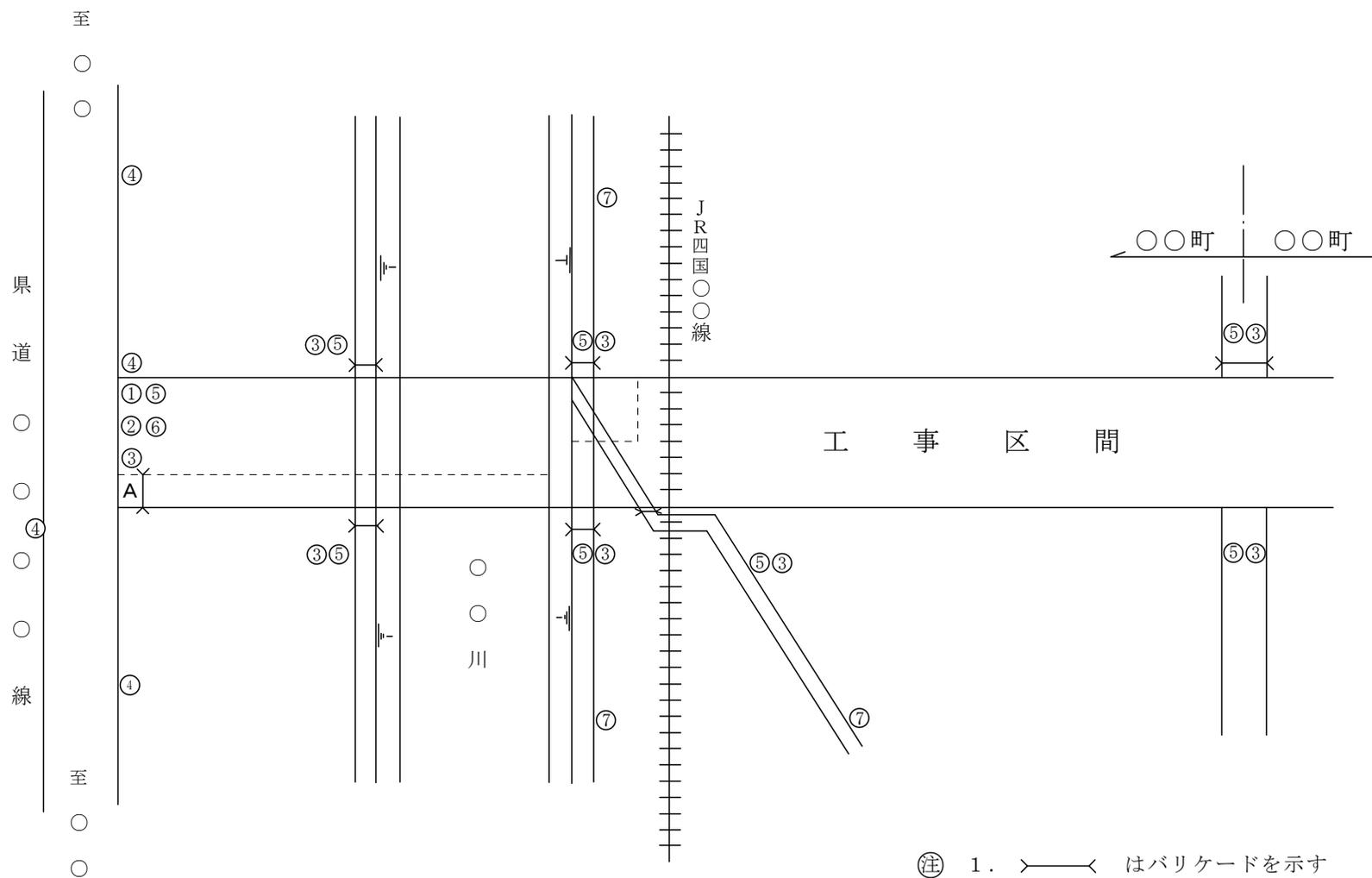
| 品名 | 単位体積重量 (kg/m ³) | 最大積載重量 (ton) | 積載量 (m ³) | H (m) | 備考 |
|----|--------------------------------|-----------------|--------------------------|----------|-------------|
| 土砂 | 1,600 | 9.0 | 5.6 | 0.20 | |
| 砕石 | 1,600 | 9.0 | 5.6 | 0.20 | C o . A s 塊 |
| 合材 | 2,100 | 9.0 | 4.2 | | |

ロ) アジテーター車 (生コンクリート)

| 車種 | 計算式 | 積載量 (m ³) |
|--------|-------------------------------|-----------------------|
| 10 t 車 | 10.0 t ÷ 2.4 t/m ³ | 4.0 |
| 4 t 車 | 3.8 t ÷ 2.4 t/m ³ | 1.5 |

・ 交通管理(事例2)

保安標識及び施工配置図



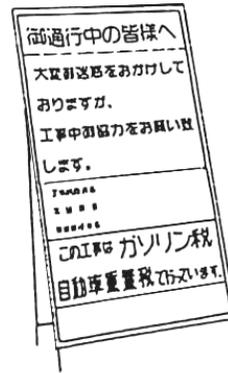
- ① 〰〰〰 はバリケードを示す
 ② A は交通整理人を示す

保安標識及び看板

① 工事標示板



② 依頼看板



③ 協力依頼標示板



④ 工事車両出入口標示板



⑤ 進入禁止標示板



⑥ 一時停止標示板



⑦ 〇〇m先工事予告板



1 1. 環境対策

近年、環境問題が社会問題として大きくクローズアップされてきているが、建設工事においても例外ではなく、年々、地域住民の苦情等が多くなってきており、これらが建設工事の円滑な実施を妨げる大きな要因となってきている。

建設工事の施工計画においては、品質・工程・原価・安全の4つの要素の総合的な調整が図られるが、これらの総合調整の過程で、かつては、経済性や工期面に比較的大きなウエイトがおかれていた。しかし、最近では社会情勢の変化等に伴い、工事の安全施工とともに、生活環境、自然環境等に対する環境保全について地域社会との調和の要素が最重視され、場合によっては、他の要素に優先する要素として取り上げられることとなってきた。

工事施工にあたって、施工計画上考慮すべき環境問題には以下の事項があり、これらについては、公害防止関係法令等を十分理解し、有機的な環境保全計画を立てて十分な対策を講じなければならない。

施工計画上考慮すべき環境事項

1. 公害問題（騒音、振動、ばい煙、粉じん、水質汚濁）
2. 交通問題（工事用車両による沿道障害）
3. その他近接地への影響（掘削等による近接家庭への影響、耕地の踏み荒し、樹木の伐採、土砂及び排水の流入、井戸枯れ等）

【記入例：環境対策】

1. 騒音

当該工事箇所は、人家があるために、建設機械類は、低騒音、低振動型を使用する。コンクリートの打設時、工事現場及び付近におけるミキサー車の待機場所等については、十分気を配り、また、空ぶかしをしないよう注意する。

また、騒音測定を行い、基準（85ホーン）を超える値が出れば、シート等を覆い騒音対策を講じる。

2. 振動

削岩機使用の場合、本体を直接手で持たないようにし、木棒等をさしこみ、直接的に振を和らげて防止する。

3. 濁水

濁水を直接河川に流出させないため、沈殿池を設置し、上水を流出させる。また、必要により水質調査を実施する。

4. 家屋の事前、事後調査（指定）

「工事障害調査実施取扱（案）」により実施し、報告書にまとめて提出する。

5. 防塵

防塵対策としては、散水、清掃を実施する。

6. 防護（目隠し等）

・環境対策

(事例1)

- 1) 工事車両の通行によって発生する粉塵・騒音に対する措置が必要となった場合は、工事監督員と協議を行って実施する。
- 2) 降雨時の工事現場からの濁水流出は、直接下流民家に被害を及ぼさないよう、承水路及び沈殿池等を必要に応じて設けるなど十分注意する。
- 3) 工事現場周辺の住民の通行に対して、迷惑の及ばないように努める。
- 4) 切土の施工に際して、周辺の民家に被害の及ぶ恐れがあり、防護柵設置の必要がある場合は、工事監督員と協議を行って実施する。

(事例2)

- 1) 隣接地区住民に対して、事前に挨拶回りをし、工事説明を行い理解を得ておく。
- 2) 防塵対策処置として、随時必要に応じて散水を行う。
- 3) 工事車両出入口は日々清掃を行う。

1 2. 現場作業環境の整備

現場作業環境の整備に関して、下記の事項について記載する。

1) 仮設関係

- I 工事説明・工事完成予想図の掲示。
- II 仮囲いの美装、フラワーポット等の設置。

2) 安全関係

- I バリケードのカラー化及びイメージキャラクターの貼り付け。
- II 工事標識のマンガ化。

3) 営繕関係

- I 現場事務所内外の高級化及び内外の美装。
- II 作業員休憩所・食堂の設置と飾り付け。
- III 手洗い・洗面台の設置。

4) イメージアップ対策の内容

事例（下記）

5) その他

・イメージアップ実施計画（事例）

| | イメージアップ内容 | 概 算 金 額 | 備 考 |
|------------------|---------------|-------------------------|-----|
| 1. 現場事務所 | 周囲フェンス | 6 0 m×〇, 〇〇〇円=〇〇, 〇〇〇円 | |
| | 休憩所、集会所 | 4. 7 m×6. 0 m=〇〇, 〇〇〇円 | |
| 2. 現 場 内 | 休憩所、トイレ | 2ヶ所 〇〇, 〇〇〇 円 | |
| | 日よけテント | 4 m×5 m×2連 〇〇, 〇〇〇 円 | |
| | フラワーポット | 3 0 個×〇〇〇円 〇〇, 〇〇〇 円 | |
| 7. 地元とのコミュニケーション | 学校・自治会 | 〇〇〇, 〇〇〇円 | |
| | 工事説明パンフレット等配布 | | |
| 計 | | 〇, 〇〇〇, 〇〇〇円 | |

（注） 1. 工事現場の環境美化などのイメージアップを図るため【標識、休憩所、集会所、トイレ】の実施計画をする。

1 3. 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法

(1) 再生資源利用計画

資源有効利用促進法により、一定規模以上の建設資材を搬入する工事については、「再生資源利用計画」を作成しなければならない。（様式1）

(2) 再生資源利用促進計画

また、一定規模以上の指定副産物が工事現場から搬出される工事については、「再生資源利用促進計画」を作成しなければならない。（様式2）

これらの計画の対象工事と記載内容は、次表のとおりである。

再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画

| | 再生資源利用促進計画 | 再生資源利用計画 |
|-----------|---|---|
| 計画を作成する工事 | 次のいずれかに該当する指定副産物を搬出する建設工事 1. 建設発生土 1,000m ³ 以上 2. コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊又は建設発生木材 合計 200 t 以上 | 次のいずれかに該当する建設資材を搬入する建設工事 1. 土砂 1,000m ³ 以上 2. 砕石 500 トン以上 3. 加熱アスファルト混合物 200 トン以上 |
| 定める内容 | 1. 指定副産物の種類ごとの搬出量 2. 指定副産物の種類ごとの再資源化施設又は他の建設工事現場等への搬出量 3. その他指定副産物に係る再生資源の利用の促進に関する事項 | 1. 建設資材ごとの利用量 2. 利用量のうち再生資源の種類ごとの利用量 3. 再生資源の利用に関する事項 |
| 保存期間 | 当該建設工事の完成後 1 年間 | 当該建設工事の完成後 1 年間 |

※ なお、施工計画書への記載にあたっては、建設リサイクルガイドライン様式（様式-1、様式-2）に換え、建設副産物実態調査票様式（参考様式1、参考様式2）を用いることができるものとする。

様式1 再生資源利用計画書(実施書) ー建設資材搬入工事用ー

ー「建設リサイクルガイドライン」様式ー

(A3)

1. 工事概要

| | | | | | | |
|-------|-----------|------------|------------------|-------------|-------|----------|
| 発注機関名 | 発注機関コード*1 | 発注担当者チェック欄 | 請負会社名 | 請負会社コード*2 | 記入年月日 | H. 年 月 日 |
| | | 担当者 | 建設業許可または解体工事業者登録 | 大臣 知事 | 号 | 工事責任者 |
| | TEL () | | 会社所在地 | TEL FAX () | | 調査票記入者 |

| | | | | | |
|--------|-------------------------------|---------|--|---------------------------------------|-------------------------------|
| 工事名 | 工事種別コード*3 | 請負金額 | 千百十 千百十 千円未満四捨五入 億 億 万円 万円 円 (税込み) 0,000 | 右記金額のうち建設廃棄物の 資源化に要した費用※ | ※運搬及び処分要した費用を記入してください。(実施書のみ) |
| 工事施工場所 | 香川県 市 町 | 住所コード*4 | 工期 | 千百十 千百十 千円未満四捨五入 億 億 万円 万円 円 (税込み) | 再資源化等が完了した年月日 |
| 工事概要等 | 施工案件の内容 (再生資源の利用に関する特記事項等) | | 平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで | 再資源化等が完了した年月日 | 平成 年 月 日 |

2. 建設資材利用計画(実施)

注:コード*5~9は下記欄外のコード表より数字を選んでください。

※再資源化施設に搬入した後、その施設で再資源化が終了した日を記入して下さい。また、その確認はマニフェストにより行って下さい。

建築・解体工事のみ
右欄に記入して下さい

※解体工事については、建築面積を御記入いただくなくても結構です。

| 建設資材(新材を含む) | | | | 再生資材の供給元 | | | | 再生資材の供給元場所住所 | | | | 再生資源 |
|----------------------|--------------|----|-----------------|----------|-------------------|--------------------|---------------------|--------------|------------------|------------|----------------|------|
| 分類 | 小分類 コード*5 | 規格 | 主な利用用途 コード*6 | 利用量(A) | 再生資材の供給元施設、工事等の名称 | 供給元 種類 コード*7 | 施工条件 内容 コード*8 | 住所コード *4 | 再生資材の名称 コード*9 | 再生資材利用量(B) | 利用率 B/A×100 | |
| 特定 建設 資材 | コンクリート | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| その 他の 建設 資材 | 木材 | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |
| | | | | トン | | | | | | トン | % | |

- コード*5について
- コンクリートについて
 - 生コン
 - 無筋コンクリート二次製品
 - その他
 - コンクリート及び鉄から成る建設資材について
 - 有筋コンクリート二次製品
 - その他
 - 木材について
 - 木材(ボード類を除く)
 - 木質ボード
 - アスファルト混合物について
 - 粗粒度アスコン
 - 密粒度アスコン
 - 細粒度アスコン
 - 5加熱アスファルト安定処理路盤材
 - 土砂について
 - 第一種建設発生土
 - 第二種建設発生土
 - 第三種建設発生土
 - 第四種建設発生土
 - 浚渫土
 - 土質改良土
 - 建設汚泥改良土
 - 再生コンクリート砂
 - 山砂、山土等の購入土、採取土
 - 砕石について
 - クワッチャーラン
 - 2粒度調整砕石
 - 3.篩さい
 - 4.単粒度砕石
 - 5.ぐり石、割ぐり石
 - 6.その他
- その他について(再生資材の名称を具体的に記入)

- コード*6について
- アスファルト混合物について
 - 表層
 - 基層
 - 上層路盤
 - 歩道
 - その他(軽車庫舗装、敷地内舗装等)
 - 土砂について
 - 道路路体
 - 路床
 - 河川築堤
 - 構築物等の裏込材、埋戻し用
 - 宅地造成用
 - 6.水面埋立用
 - 砕石について
 - 舗装の下層路盤材
 - 舗装の上層路盤材
 - 構築物の裏込材、基礎材
 - その他(具体的に記入)
- その他について(利用用途を具体的に記入)

- コード*7について
- 再生資材の供給元について
 - 現場内利用
 - 他の工事現場(陸上)
 - 他の工事現場(海上)
 - 再資源化施設
 - ストックヤード
 - その他

- コード*8について
- 施工条件について
 - 再生材の利用の指示あり
 - 再生材の利用の指示なし

- コード*9について
- コンクリートについて
 - 再生生コン
 - 再生無筋コンクリート二次製品
 - その他
 - コンクリート及び鉄から成る建設資材について
 - 再生有筋コンクリート二次製品
 - その他
 - 木材について
 - 再生木材(ボード類を除く)
 - 再生木質ボード
 - アスファルト混合物について
 - 再生粗粒度アスコン
 - 再生密粒度アスコン
 - 再生細粒度アスコン
 - 再生5加熱アスファルト安定処理路盤材
 - 土砂について
 - 第一種建設発生土
 - 第二種建設発生土
 - 第三種建設発生土
 - 第四種建設発生土
 - 浚渫土
 - 土質改良土
 - 建設汚泥改良土
 - 再生コンクリート砂
 - 山砂、山土等の購入土、採取土
 - 砕石について
 - 再生クワッチャーラン
 - 再生粒度調整砕石
 - 3.篩さい
 - 4.その他
- その他について(再生資材の名称を具体的に記入)

注1:再生資材利用量について
アスファルト混合物等で、利用した再生材(製品)の中に、新材が混入している場合であっても、新材混入分を含んだ再生資材(製品)の利用量を記入して下さい。

裏面に御記入ください

一建設資材搬入工事用一

1. 工事概要

※事務局で記入

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-----------|--|--|------------|-----|--|--|-------|-----|-----|-----|-------|----------|--|
| 整理番号 | | | | 発注担当者チェック欄 | | | | 請負会社名 | | | | 記入年月日 | H. 年 月 日 | |
| 発注機関名 | 発注機関コード*1 | | | 担当者 | | | | 会社所在地 | TEL | () | FAX | () | 工事責任者 | |
| | | | | TEL | () | | | | | | | | 調査票記入者 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-----|-----|-----|-----------|---------|--|--|------|-----|------------|------------|------|---------|--|--|
| 工事名 | | | | 工事種別コード*2 | | | | 最終工事 | | | | 請負金額 | 円 (税込み) | | |
| 工事施工場所 | 都 道 | 市 区 | 府 県 | 町 村 | 住所コード*3 | | | | 工 期 | 平成 年 月 日から | 平成 年 月 日まで | | | | |

注1:再生資材利用量について
 アスファルト混合物等で、利用した再生材(製品)の中に、新材が混入している場合であっても、新材混入分を含んだ再生資材(製品)の利用量を記入してください。

2. 建設資材利用実績

| 建設資材 (新材を含む) | | | | 再生資材の供給元 (再生資材を利用した場合に記入してください) | | | | 再生資源 | | |
|--------------|------------------|----|------|---------------------------------|-----------------|--------------------|-------------|---------|------------|----------------|
| 分類 | 小分類 コード*4 | 規格 | 利用用途 | 利用量(A) | 再生資材の供給元施設、工事名等 | 供給元 種類 コード*5 | 再生資材の供給元 住所 | 再生資材の名称 | 再生資材利用量(B) | 利用率 B/A×100 |
| 特定建設資材 | コンクリート | | | トン | | | | | トン | の欄への記入は必要ありません |
| | | | | トン | | | | | トン | |
| | | | | トン | | | | | トン | |
| | | | | トン | | | | | トン | |
| | 合計 | | | トン | | | | | トン | |
| | コンクリート及び鉄から成る建設資 | | | トン | | | | | トン | |
| | | | | トン | | | | | トン | |
| | | | | トン | | | | | トン | |
| | 合計 | | | トン | | | | | トン | |
| | 木材 | | | トン | | | | | トン | |
| | | | | トン | | | | | トン | |
| | | | | トン | | | | | トン | |
| | 合計 | | | トン | | | | | トン | |
| | アスファルト混合物 | | | トン | | | | | トン | |
| | | | | トン | | | | | トン | |
| | | | | トン | | | | | トン | |
| | 合計 | | | トン | | | | | トン | |
| その他の資材 | 土砂 | | | 締めm3 | | | | | 締めm3 | |
| | | | | 締めm3 | | | | | 締めm3 | |
| | | | | 締めm3 | | | | | 締めm3 | |
| | | | | 締めm3 | | | | | 締めm3 | |
| | 合計 | | | m3 | | | | m3 | | |
| | 砕石 | | | m3 | | | | | m3 | |
| | | | | m3 | | | | | m3 | |
| | 合計 | | | m3 | | | | | m3 | |
| | その他(再生資材のみ記入) | | | トン | | | | | トン | |
| | | | | トン | | | | | トン | |
| | 合計 | | | トン | | | | | トン | |

- 小分類(コード*4)
- 土砂について
 - 1.第一種建設発生土
 - 2.第二種建設発生土
 - 3.第三種建設発生土
 - 4.第四種建設発生土
 - 5.浚渫土
 - 6.土質改良土
 - 7.建設汚泥改良土
 - 8.再生コンクリート砂
 - 9.山砂、山土等の購入土、採取土
 - 砕石について
 - 1.クラッシャーラン
 - 2.粒度調整砕石
 - 3.鉱さい
 - 4.単粒度砕石
 - 5.ぐり石、割ぐり石
 - 6.その他
 - アスファルト混合物について
 - 1.粗粒度アスファルトコンクリート
 - 2.密粒度アスファルトコンクリート(開粒度及び改質アスファルトコンクリートを含む)
 - 3.細粒度アスファルトコンクリート
 - 4.アスファルトモルタル
 - 5.加熱アスファルト安定処理路盤材

- 供給元種類(コード*5)
- 再生資材の供給元について
- 1.現場内利用
 - 2.他の工事現場(陸上)
 - 3.他の工事現場(海上)
 - 4.再資源化施設
 - 5.ストックヤード
 - 6.その他

— 建設副産物搬出工事に用 —

1. 工事概要 表面(様式1)に必ずご記入下さい

2. 建設副産物搬出実績

現場内利用の欄には、発生量(掘削等)のうち、現場内で利用したものについて御記入ください。

注) 再資源化施設、最終処分場は、指定副産物の種類ごとに3ヶ所まで記入できます。
4ヶ所以上にわたる場合は、用紙を換えて記入してください。

| 建設副産物の種類 | ①発生量 (掘削等) =②+③+④ | 現場内利用・減量 | | | 減量化 | | 現場外搬出について | | | | | 再生資源 利用率 (②+③+⑤) /①*100 |
|----------|------------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|-------|-----------|-------|------|---------------------|-----------------|----------------------------------|
| | | 用途コード *6 | ②利用量 | うち現場内改良分 | 減量法 コード *7 | ③減量化量 | 搬出先名称 | 搬出先住所 | 運搬距離 | 搬出先の種類 コード *8 | (4)現場外搬出量 | |
| 特定建設副産物 | コンクリート塊 | トン | トン | トン | | | 搬出先1 | | km | | トン | |
| | 建設発生木材 (木材が廃棄物 になったもの) | トン | トン | トン | | トン | 搬出先1 | | km | | トン | |
| | アスファルト・コ ンクリート塊 | トン | トン | トン | | | 搬出先1 | | km | | トン | |
| | 建設発生木材 (伐木材・除根材な ど) | トン | トン | トン | | トン | 搬出先1 | | km | | トン | |
| | 建設汚泥 | トン | トン | トン | | | 搬出先1 | | km | | トン | |
| | 建設混合廃棄 | トン | トン | トン | | | 搬出先1 | | km | | トン | |
| | 金属くず | トン | トン | トン | | | 搬出先1 | | km | | トン | |
| | 廃プラスチック | トン | トン | トン | | | 搬出先1 | | km | | トン | |
| | 紙くず | トン | トン | トン | | | 搬出先1 | | km | | トン | |
| 建設廃棄物 | アスベスト (飛散剤) | トン | トン | トン | | | 搬出先1 | | km | | トン | |
| | その他の分別 | トン | トン | トン | | | 搬出先1 | | km | | トン | |
| | 第一種 建設発生 | 地山 ³ | 地山 ³ | 地山 ³ | | | 搬出先1 | | km | | 地山 ³ | |
| | 第二種 建設発生 | 地山 ³ | 地山 ³ | 地山 ³ | | | 搬出先1 | | km | | 地山 ³ | |
| | 第二種 建設発生 | 地山 ³ | 地山 ³ | 地山 ³ | | | 搬出先1 | | km | | 地山 ³ | |
| | 第三種 建設発生 | 地山 ³ | 地山 ³ | 地山 ³ | | | 搬出先1 | | km | | 地山 ³ | |
| | 第四種 建設発生 | 地山 ³ | 地山 ³ | 地山 ³ | | | 搬出先1 | | km | | 地山 ³ | |
| | 浚渫土 | 地山 ³ | 地山 ³ | 地山 ³ | | | 搬出先1 | | km | | 地山 ³ | |
| | 合計 | 地山 ³ | 地山 ³ | 地山 ³ | | | 搬出先1 | | km | | 地山 ³ | |

この欄への記入は必要ありません

現場内利用用途(コード*6)

- 1 路盤材
- 2 裏込材
- 3 埋戻し材
- 4 その他(具体的に記入)

現場内利用減量法(コード*7)

- 1 焼却
- 2 脱水
- 3 天日乾燥
- 4 その他(具体的に記入)

搬出先の種類(コード*8)

| 再生資源利用促進 (再生利用された場合) | 最終処分場・その他 (処分された場合) |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| 1. 他の工事現場(内陸・公共・民間を含む) | 6. 最終処分場(海面処分場) |
| 2. 再資源化施設(土質改良プラントを含む) | 7. 最終処分場(内陸処分場) |
| 3. 有償売却(工事請負会社が建設副産物を売却し、代金を得た場合) | 8. 建設発生土ストックヤード(再利用工事未定) |
| 4. 建設発生土ストックヤード(再利用工事が決まっている場合) | 9. 焼却施設、最終処分場へ持ち込むための中間処理施設 |
| 5. 海面埋立事業(海岸・漁港事業含む) | 10. その他(具体的に記入) |

1 4. 工事数量総括表

| 工事数量総括表 | | 工事名： 平成○年度 ○○○工事（第○工区-○） | | | |
|---------------------|----|--------------------------|--------|-----|-----|
| 費目・工種・種別・細別 | 単位 | 数量（実施） | 数量（変更） | 増 減 | 摘 要 |
| 道路改良 | 式 | 1 | | | |
| 土工 | 式 | 1 | | | |
| 切土工 | m3 | 25,330 | | | |
| 切土（土砂） | m3 | 22,200 | | | |
| 切土（軟岩Ⅰ） | m3 | 3,130 | | | |
| 盛土工 | m3 | 9,600 | | | |
| 本体盛土（流用土） | m3 | 9,600 | | | |
| 運搬工 | 式 | 1 | | | |
| 流用土運搬 | 式 | 1 | | | |
| 残土運搬（土砂 平均L=0.2km） | m3 | 12,900 | | | |
| 残土運搬（軟岩Ⅰ 平均L=0.2km） | m3 | 2,640 | | | |
| 法面工 | m2 | 4,910 | | | |
| 切土法面整形（土砂） | m2 | 1,760 | | | |
| 切土法面整形（軟岩Ⅰ） | m2 | 590 | | | |
| 盛土法面整形 | m2 | 2,560 | | | |
| 種子吹付 | m2 | 2,560 | | | |
| 擁壁工 | 式 | 1 | | | |
| 擁壁工 | m | 344 | | | |
| 床掘（土砂） | 式 | 1 | | | |
| 床掘（軟岩Ⅰ） | 式 | 1 | | | |
| 埋め戻し | 式 | 1 | | | |
| コンクリート(16-8-40) | m3 | 369 | | | |
| 型枠 | m3 | 248 | | | |
| 碎石基礎（再生碎石 RC-30） | m3 | 20 | | | |
| 足場工 | 式 | 1 | | | |
| 大型ブロック(1.0×2.0×0.9) | m2 | 1,385 | | | |
| 裏込材（切込碎石 径40mm以下） | m3 | 797 | | | |
| 鉄筋（D16～25mm） | t | 0.30 | | | |
| 鉄筋(D13mm) | t | 0.23 | | | |
| 目地（t=10mm） | 式 | 1 | | | |

| 工事数量総括表 | | 工事名： 平成○年度 ○○○工事（第○工区-○） | | | |
|---------------------|----------------|--------------------------|--------|-----|-----|
| 費目・工種・種別・細別 | 単位 | 数量（実施） | 数量（変更） | 増 減 | 摘 要 |
| 本体(VP-65) | 式 | 1 | | | |
| 円形型枠（φ200） | 式 | 1 | | | |
| 排水工 | 式 | 1 | | | |
| 水路工 | m | 833 | | | |
| 床掘 | 式 | 1 | | | |
| 埋め戻し | 式 | 1 | | | |
| コンクリート(16-8-40) | m ³ | 142 | | | |
| 型枠 | m ² | 1,113 | | | |
| 砕石基礎（再生砕石 RC-30） | m ³ | 66 | | | |
| ベンチフリューム（B300-H200） | m | 245 | | | |
| U字溝（PU1-B360-H360） | m | 14 | | | |
| 1号蓋版（C2-B400） | 枚 | 486 | | | |
| 目地（t=10mm） | 式 | 1 | | | |
| 集水排水工 | 個 | 3 | | | |
| 床掘 | 式 | 1 | | | |
| 埋め戻し | 式 | 1 | | | |
| コンクリート(16-8-40) | m ³ | 1 | | | |
| 型枠 | m ² | 8 | | | |
| 砕石基礎（再生砕石 RC-30） | m ³ | 0.40 | | | |
| 雑工 | 式 | 1 | | | |
| 支道坂路 | 箇所 | 1 | | | |
| 床掘 | 式 | 1 | | | |
| 埋め戻し | 式 | 1 | | | |
| コンクリート(16-8-40) | m ³ | 45 | | | |
| 型枠 | m ² | 120 | | | |
| 砕石基礎（再生砕石 RC-30） | m ³ | 7 | | | |
| 盛土 | m ³ | 40 | | | |
| 支道 坂路舗装 | m ² | 639 | | | |
| 表層（密粒度As） t=5cm | m ² | 313 | | | |

| 工事数量総括表 | | 工事名： 平成○年度 ○○○工事（第○工区-○） | | | |
|-----------------------------|----|--------------------------|--------|-----|-----|
| 費目・工種・種別・細別 | 単位 | 数量（実施） | 数量（変更） | 増 減 | 摘 要 |
| 路盤（RC-30） t = 1 0 c m | m2 | 313 | | | |
| C o 舗装(16-8-40) t = 1 0 c m | m2 | 503 | | | |
| 碎石基礎（再生碎石 RC-30） | m3 | 50 | | | |
| 目地(t=10mm) | 式 | 1 | | | |
| 防護柵 | m | 259 | | | |
| ガードレール（C-2B、塗装品） | m | 85 | | | |
| ガードレール（C-4E、塗装品） | m | 174 | | | |
| 雑工 | 式 | 1 | | | |
| 境界板 | 枚 | 20 | | | |
| 橋梁下部工 | 式 | 1 | | | |
| 下部工 | 式 | 1 | | | |
| 下部工 | 基 | 1 | | | |
| 床掘（土砂） | 式 | 1 | | | |
| 床掘（軟岩Ⅰ） | 式 | 1 | | | |
| 埋め戻し | 式 | 1 | | | |
| コンクリート(21-8-20, 25) | m3 | 141 | | | |
| コンクリート(16-8-40) | m3 | 4 | | | |
| 型枠 | m2 | 190 | | | |
| 鉄筋(D13mm) | t | 2.00 | | | |
| 鉄筋(D16~25mm) | t | 6.30 | | | |
| 鉄筋(D29~32mm) | t | 1.40 | | | |
| ガス圧接(D32×D32) | 箇所 | 18 | | | |
| 支保工 | 式 | 1 | | | |
| 足場工 | 式 | 1 | | | |
| 直接工事費 | 式 | 1 | | | |
| 共通仮設費計 | 式 | 1 | | | |
| 仮設費 | 式 | 1 | | | |
| 仮橋 | 式 | 1 | | | |
| 運搬費 | 式 | 1 | | | |

15. その他

(1) 構造物標

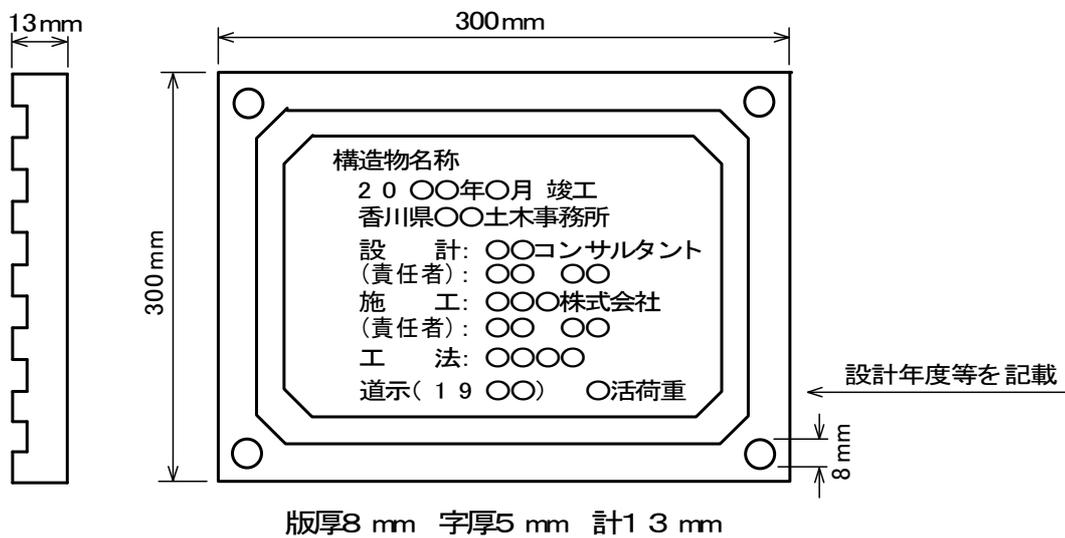
平成12年1月の「コンクリート標準示方書」改訂に伴ない、設計、施工に携わる技術者に責任を促すとともに、将来の長期的維持管理にも役立つため、“構造物標”の設置が定められた。

下記の場所打ちコンクリート構造物を対象として、“構造物標”を設置することとする。なお、これまで銘板を設置してきた鋼製構造物についても、“構造物標”として設置する。

- | | |
|--------------|--|
| ① 堰 | 堰本体工（県管理の施設）、鋼管理橋上部工 |
| ② 砂防ダム | 砂防ダム附属物設置工 |
| ③ コンクリートダム | 附属物設置工 |
| ④ 道路改良 | 擁壁（ $H > 8$ m）、カルバート工（ $H \geq 2.5$ m） |
| ⑤ 橋梁下部 | 橋台・RC橋脚工 |
| ⑥ 鋼橋上部 | 橋梁附属工 |
| ⑦ コンクリート橋上部 | 橋梁附属物工 |
| ⑧ トンネル（NATM） | 坑門工 |
| ⑨ コンクリートシェッド | シェッド附属物工 |

下記、記入例を参考とし、設置する構造物標について記載する。

構造物標（記入例）



- (注) 1. 設計責任者氏名については、設計における管理技術者氏名とする。
2. 施工責任者氏名については、主任技術者氏名または監理技術者氏名を記載することとする。
3. 材質については香川県土木工事共通仕様書の定めによる。

